

目 次

はじめに・・ 1

第1部 家族会実態調査

1. 家族会設置状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 家族会運営者調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第2部 KHJ全国ひきこもり家族会連合会支部調査

1. 家族調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

2. 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

第3部 全体のまとめ

第4部 自由記述

おわりに

参考・引用文献

資料

資料1 家族会設置状況調査

資料2 家族会運営者調査

資料3 KHJ支部調査（ご家族用）

資料4 KHJ支部調査（ご本人用）

図表一覧

第一部 家族会実態調査

・家族会設置状況調査

- 図1-1 ひきこもり相談を行っているか？
- 図1-2 ひきこもり支援のための家族会の設置状況（ひきこもり地域支援センター）
- 図1-3 ひきこもり支援のための家族会の設置状況（ひきこもり地域支援センター以外）
- 図1-4 ひきこもり支援のための家族会の設置予定
- 図1-5 家族会の設置はひきこもり支援において有効か
- 図1-6 ひきこもり支援において家族会設置へのニーズがあるか
- 図1-7 家族会の設置・運営の負担は大きいか
- 図1-8 家族会運営の課題（ひきこもり地域支援センター）
- 図1-9 家族会運営の課題（ひきこもり地域支援センター以外）

・家族会運営者調査

- 図1-10 家族会運営開始年
- 図1-11 家族会の開催頻度
- 図1-12 団体施設の状況
- 図1-13 参加人数
- 図1-14 運営の財源
- 図1-15 家族会の参加要件
- 図1-16 家族会にルールを設けているか
- 図1-17 ルールの内容
- 図1-18 突然参加しなくなった方への対応
- 図1-19 家族会の理念と役員
- 図1-20 家族会の運営
- 図1-21 家族会のプログラム
- 図1-22 行政（主に区市町村）のひきこもり担当所管との連携
- 図1-23 当該地域における関係機関ネットワーク
- 図1-24 個人情報保護

第二部 KHJ 全国ひきこもり家族連合会支部調査

・家族調査

- 図2-1 ひきこもり状態の有無
- 図2-2 ひきこもり経験の有無
- 図2-3 ひきこもり初発年齢
- 図2-4 ひきこもり期間（年）

- 図 2-5 ひきこもりの程度
- 図 2-6 本人の 1 カ月の平均外出日数
- 図 2-7 支援・医療機関の利用状況（本人）
- 図 2-8 支援・医療機関利用の中断（本人）
- 図 2-9 支援・医療機関の利用状況（家族）
- 図 2-10 支援・医療機関利用の中断（家族）
- 表 2-1 家族回答者が住んでいる場所
- 図 2-11 本人との続柄
- 図 2-12 家族回答者の年齢
- 図 2-13 本人の性別
- 図 2-14 本人の年齢
- 図 2-15 社会参加への困難感の程度
- 図 2-16 社会参加への困難感の程度（コロナ前）
- 図 2-17 昨年の世帯全体年収
- 図 2-18 2019 年の世帯全体年収（コロナ前）
- 図 2-19 家族会への所属
- 表 2-2 家族会所属支部
- 図 2-20 家族会所属支部（地方別）
- 図 2-21 家族会への参加状況
- 図 2-22 家族会への参加回数
- 図 2-23 現在のご本人の生活状況（1）
- 図 2-24 現在のご本人の生活状況（2）
- 図 2-25 コロナ前のご本人の生活状況（1）
- 図 2-26 コロナ前のご本人の生活状況（2）
- 図 2-27 全般的に見て、私は自分のことを（ ）であると考えている
- 図 2-28 私は、自分と同年輩の人と比べて、自分を（ ）であると考えている
- 図 2-29 全般的にみて、非常に裕福な人たちがいます。この人たちはどんな状況の中でも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴を持っていますか？
- 図 2-30 全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？

・ 本人調査

- 図 2-31 ひきこもり状態の有無
- 図 2-32 ひきこもり経験の有無
- 図 2-33 本人回答者の年齢
- 図 2-34 本人回答者の性別

表 2-3	本人回答者が住んでいる場所
図 2-35	ひきこもり初発年齢
図 2-36	ひきこもり期間 (年)
図 2-37	ひきこもりの程度
図 2-38	本人回答者の 1 カ月の平均外出日数
図 2-39	支援・医療機関の利用状況
図 2-40	支援・医療機関利用の中断
図 2-41	社会参加への困難感の程度 (現在)
図 2-42	社会参加への困難感の程度 (コロナ前)
図 2-43	昨年の世帯全体年収
図 2-44	2019 年の世帯全体年収 (コロナ前)
図 2-45	家族会への所属 (家族)
表 2-4	家族会所属支部 (家族)
図 2-46	家族の家族会所属支部 (地方別)
図 2-47	家族会への参加状況 (家族)
図 2-48	家族会への参加回数 (家族)
図 2-49	家族会への所属 (本人)
表 2-5	家族会所属支部 (本人)
図 2-50	本人回答者の家族会所属支部 (地方別)
図 2-51	家族会への参加状況 (本人)
図 2-52	家族会への参加回数 (本人)
図 2-53	私は自分がひきこもりであると考えている
図 2-54	現在所属している集団/組織/グループ/団体
図 2-55	ひきこもる前に所属していた集団/組織/グループ/団体
図 2-56	ひきこもり始めて以降も所属している集団/組織/グループ/団体
図 2-57	新しい集団/組織/グループ/団体
図 2-58	帰属意識 (同一化) に関する単項目尺度
図 2-59	不適応な考え方 (スキーマ)
図 2-60	孤独感
図 2-61	社交不安の割合

はじめに

本報告書の目的は、当会の支部に参加されている家族やひきこもり状態にある人に加えて、全国のひきこもり地域支援センター所管部局と生活困窮者自立支援制度所管部局といった行政機関、さらには KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の支部運営者とその利用者を対象とした調査によって、ひきこもり支援における居場所の実態とその効果を明らかにすることでした。本年度の調査では、665 の行政機関、22 カ所の家族会運営者、ご家族 252 名、ひきこもり経験者 48 名の協力が得られました。当会では、このような全国規模の調査を 18 年間に渡って実施しています。

COVID-19 の蔓延により、ひきこもり支援においても大きな影響が生じています。ひきこもり本人とその家族の孤立だけではなく、ひきこもり支援全体の遅延、停滞が顕著になっています。ひきこもり本人が社会とのつながりを回復していく取り組みは、自粛を強く求める社会において、すべての国民に有益な取り組みになると期待されます。家族会は、孤立した人たちとつながる最も費用対効果の高い取り組み出ると言えます。本調査から明らかになった家族会に関する知見を通して、一つでも多くの地域に家族会が生まれることを願っています。

最後に、本調査の実施にご協力くださった KHJ 全国ひきこもり家族会連合会の各支部の会員の皆様、各支部の代表の方々、そして行政機関の皆様へ感謝申し上げます。ご協力くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していきます。

なお、本調査は、厚生労働省の令和 2 年度 厚生労働省社会福祉推進事業「行政と連携したひきこもりの地域家族会の活動に関する調査研究事業」の助成を受けて実施することができました。ここに記して御礼申し上げます。

令和 3 年 3 月 吉日

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
共同代表 伊藤 正 俊

第 1 部 家族会実態調査

1. 家族会設置状況調査

1. 目的

本調査は、全国のひきこもり地域支援センターと自立相談支援機関が所管する地域における家族会の設置状況等を把握することを目的に実施しました。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

全国の地方自治体のうち、ひきこもり地域支援センター所管部局 67 カ所、並びに生活困窮者自立支援制度所管部局 1044 カ所を対象に、調査を実施。665 カ所（ひきこもり地域支援センター42 カ所、生活困窮者自立支援制度所管課（室）等 623 カ所）から回答が得られました。

なお、ひきこもり地域支援センターに支部（サテライト等）がある場合には、それぞれから回答を受け付けました。また、生活困窮者自立支援制度所管課（室）以外の他課（室）がひきこもり支援を担当している場合には、ひきこもり支援担当課（室）から回答を受け付けました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

(1) ひきこもり相談対応の有無

(2) ひきこもり支援のための家族会の設置状況

(3) 新型コロナウイルスの蔓延がひきこもり支援に与えた影響

【 調査手続き 】

令和3年1月に郵送にて調査用紙を配布し、郵送での回収を基本としましたが、メール、ファックスで回答が得られたものもありました。

3. 調査結果

(1) ひきこもり相談対応の有無

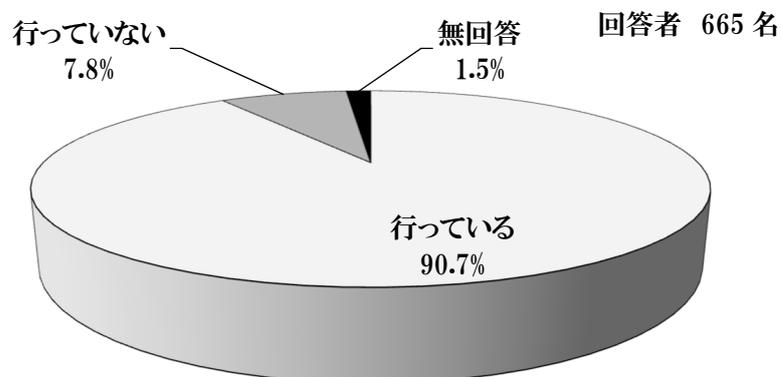
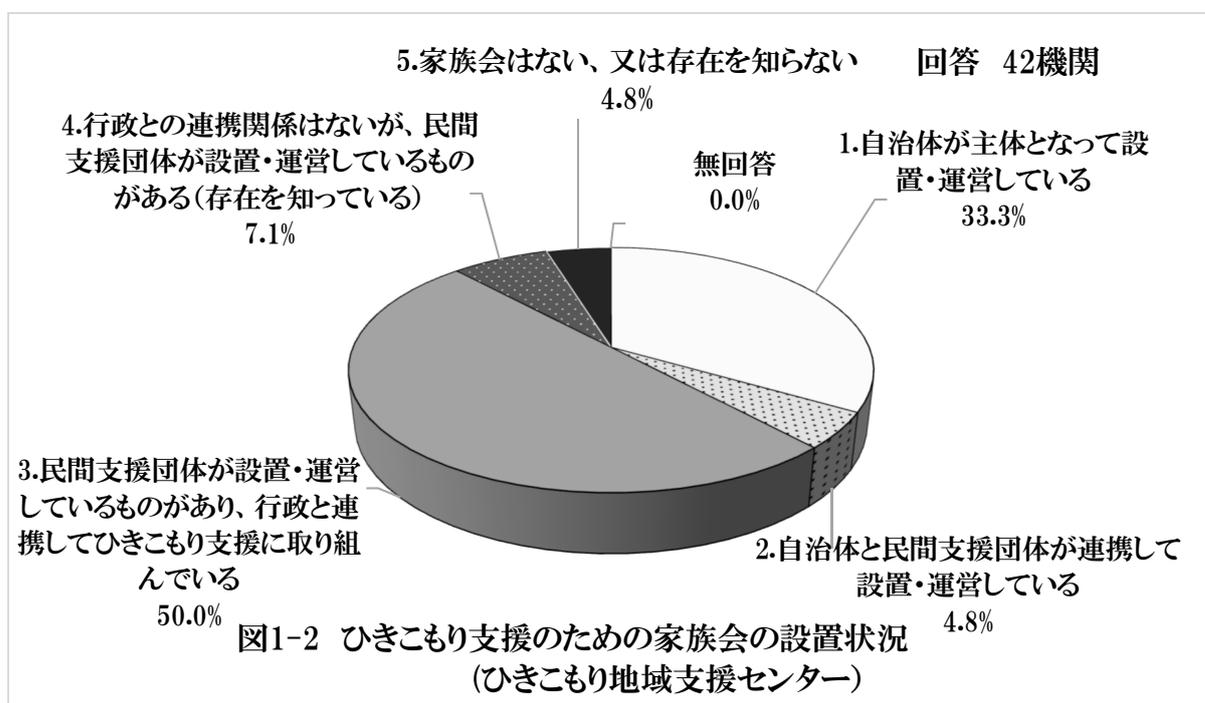


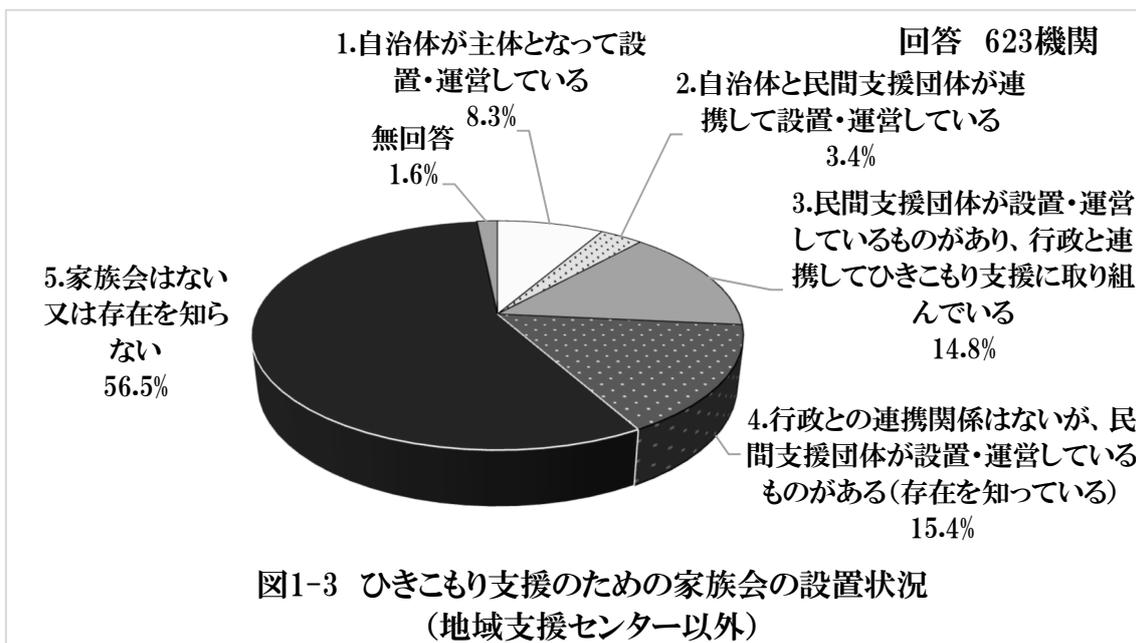
図1-1 ひきこもりの相談を行っているか？

「ひきこもりの相談を行っているか」については、90.7%が「行っている」と回答しており、ほぼすべての機関がひきこもり相談を行っている現状が明らかになりました。

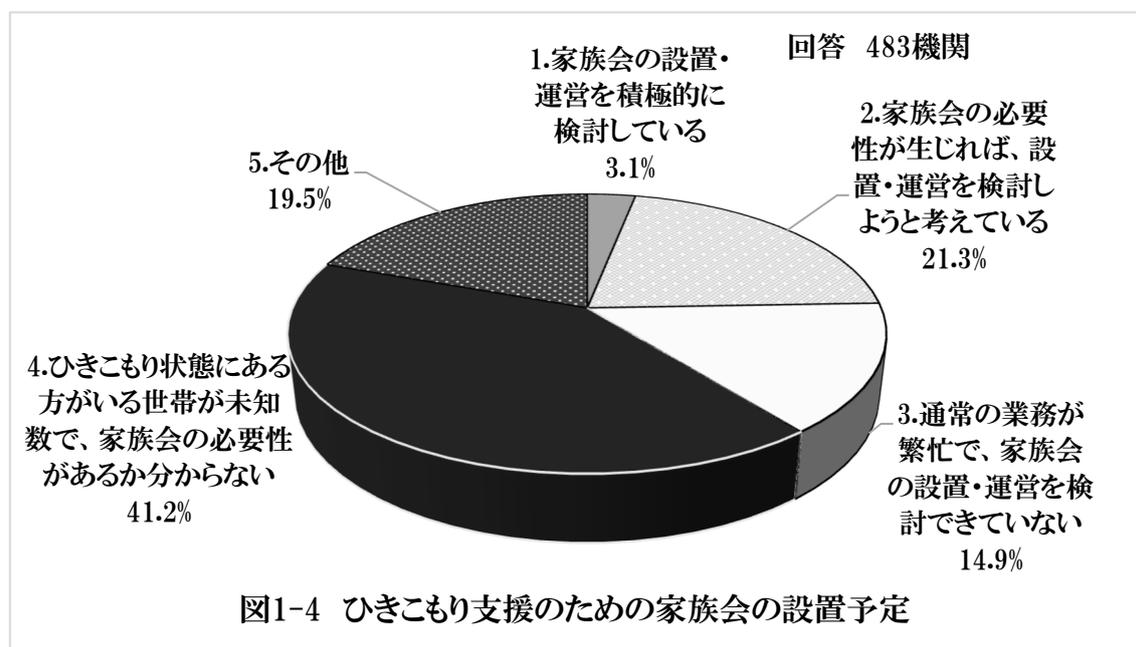
(2) ひきこもり支援のための家族会の設置状況



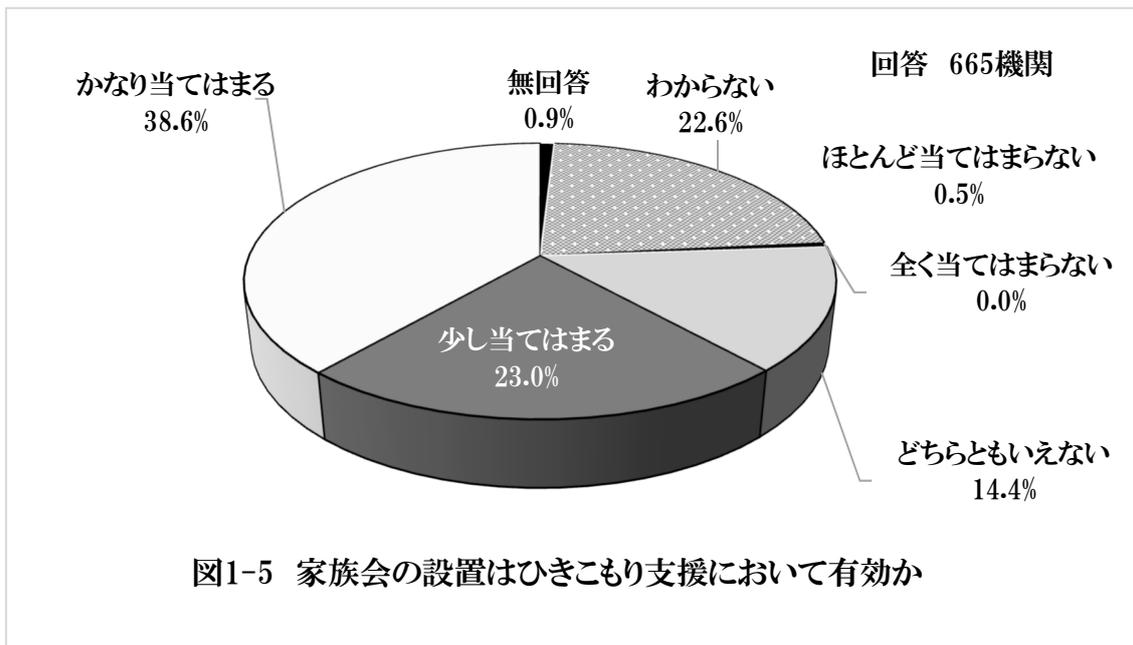
ひきこもり地域支援センターに、「家族会を設置しているか」について尋ねたところ、38.1%が家族会を何らかの形で設置・運営をしていることが明らかになりました。



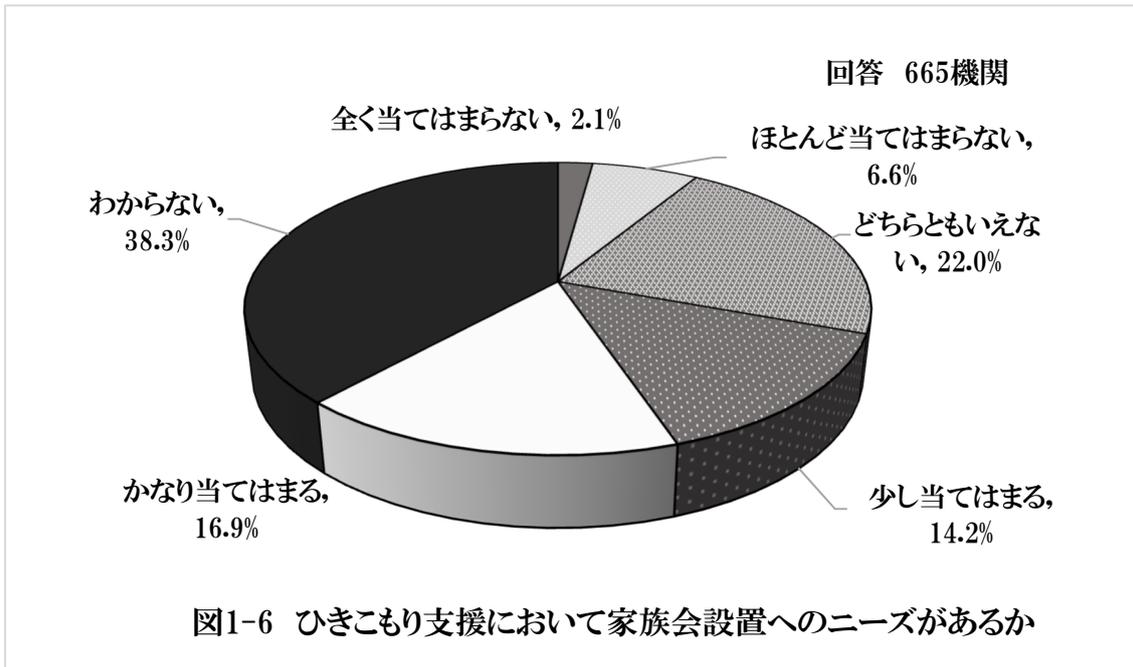
一方、ひきこもり地域支援センター以外に、家族会の設置状況について尋ねたところ、11.7%が何らかの形で家族会を設置・運営していましたが、56.5%が「家族会はない、または存在を知らない」と回答していました。



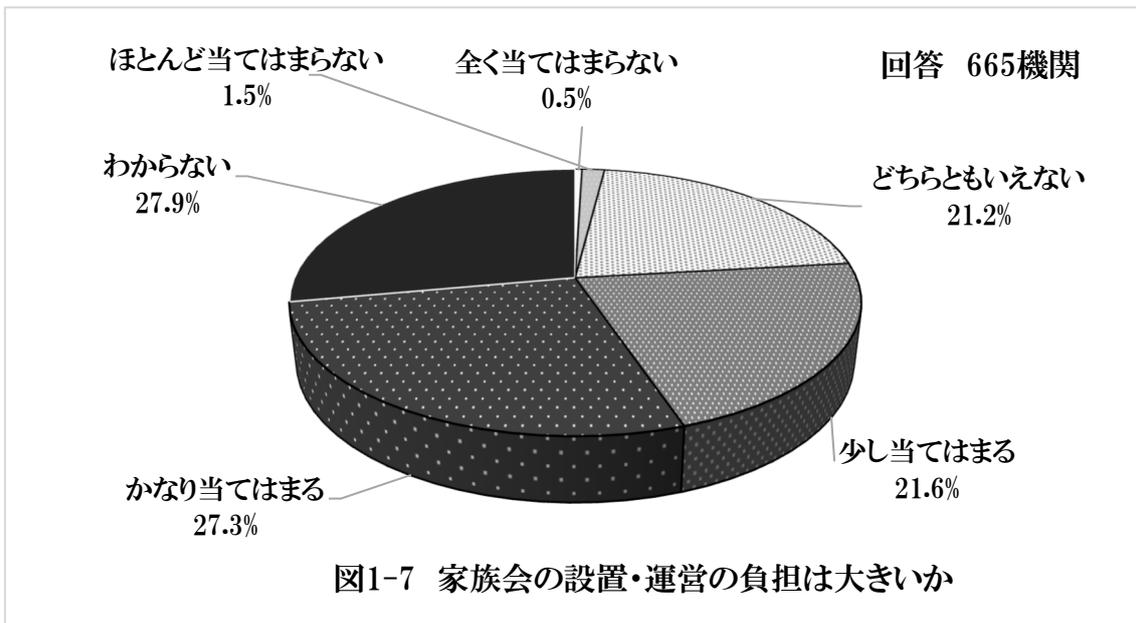
今後の家族会の設置予定については、41.2%が「ひきこもり状態にある方がいる世帯が未知数で、家族会の必要性があるかわからない」と回答していました。



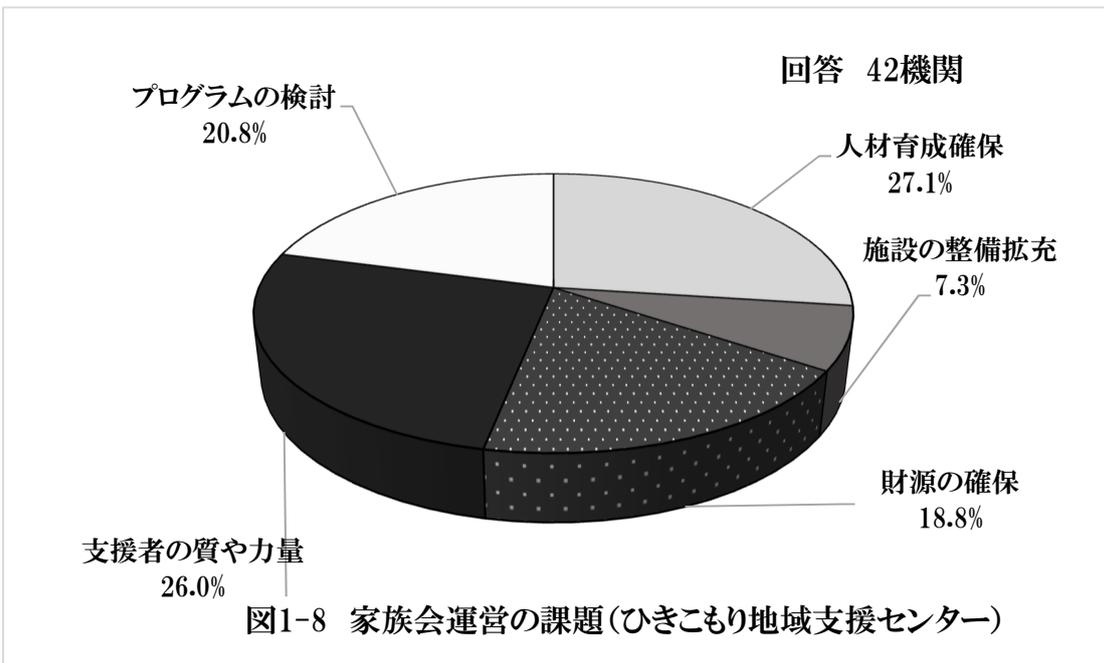
「家族会の設置はひきこもり支援において有効か」については、61.6%が「かなり当てはまる」または「少し当てはまる」と回答しており、その有効性の高さが示されました。



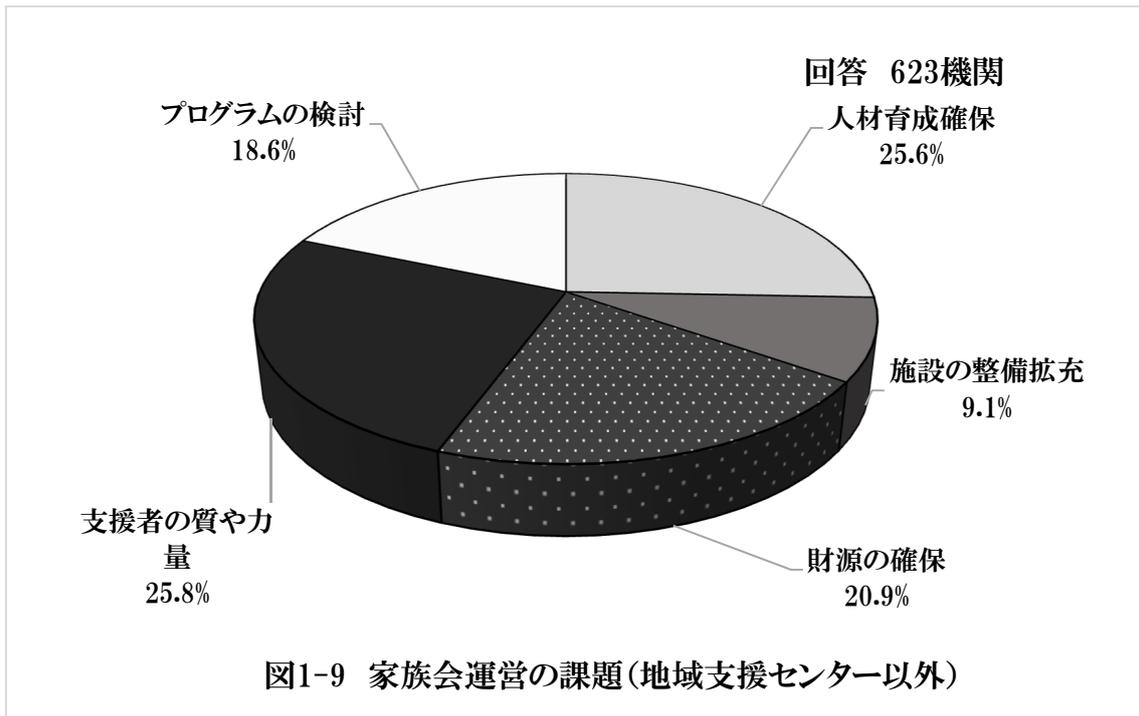
「ひきこもり支援において家族会設置へのニーズがあるか」については、31.1%が「かなり当てはまる」または「少し当てはまる」と回答していました。



自治体が「家族会の設置・運営の負担は大きいか」については、48.9%が「かなり当てはまる」または「少し当てはまる」と回答しており、設置・運営において既存の家族会との連携が有効と考えられます。



自治体が家族会を運営する上での課題について、ひきこもり地域支援センターにおいては、27.1%が「人材育成確保」、26.0%が「支援者の質や力量」と回答しており、人材育成が大きな課題であると言えます。



ひきこもり地域支援センター以外を対象にした場合でも、同様に「人材育成確保」が25.6%、「支援者の質や力量」が25.8%でした。

(3) 新型コロナウイルスがひきこもり支援に与えた影響

新型コロナウイルスがひきこもり支援に与えた影響について、自由記述で回答を求めました。また、家族会を運営する上での課題についても、自由記述で回答を求めました。それらの概要を以下に示します。詳しい内容は、第4部自由記述をご参照ください。

<新型コロナウイルスの蔓延がひきこもり支援に与えた影響>

- 当事者の変化（訪問拒否、引きこもり加速）
 - ・定期的な面談や集合形式でのプログラム実施が困難になり、順調に面談を実施していた相談者が数名ひきこもり状態に戻ってしまった
- 好影響
 - ・コロナでみんなが引きこもりを疑似体験し、報道等でも就職相談窓口を紹介する機会が増えたので、当事者が重い腰を上げ、就業相談に来るケースが複数あった（今は相談しやすいタイミングなのかもしれない）
- 新型コロナウイルスの影響でひきこもり支援が後回しに

・生活困窮者自立相談支援センターをひきこもり支援窓口としているため、コロナの影響による困窮相談の激増により、ひきこもり支援の充実を図ることが更に困難に

○実態が見えにくくなった

・電話で声を聞くことはできるが、表情やしぐさまでは見えず、相談者にどのような変化が起こっているのか見落としていることがたくさんあるのではないかと心配

○会の中止（一時中止）、縮小、変更

・家庭への支援、訪問、家族会の自粛など活動が消極的に

○支援の縮小、変更

・面談の頻度を減らし、所要時間も短縮

○オンライン支援の導入

・支援者向けの専門研修を初めてオンラインで行った

○啓発活動（研修、講演等）の機会の減少

・県研修会など、ひきこもり支援について学ぶ機会がなくなったり、他地域の家族会の視察の機会を失うなど、情報収集のための機会を逸している

○家族の変化

・就職してほしいとの親御さんの気持ちが、外に出るのはコロナが収束してからでいいと先延ばしになり、関わりが中断しているケースがある

○訪問支援の減少

・訪問が難しくなったため、電話相談による支援しか行えなくなった

○事業・実態調査等の延期

・居場所が、広さ、換気などの点から、コロナ禍での開催が難しくオープンできていない

○職員の負担の急増

・ワクチン接種を市町村で行うため、これからより多くの負担が増え、ワクチン最優先になることで、ひきこもり支援だけでなく全てにおいて影響がある

○外出に対する積極的な呼びかけがしづらい

・「コロナがこわくて」と言われると来所の声かけなどしにくい

○新たなひきこもり

・4月の宣言が明けて3カ月経過した頃から、不登校やひきこもりの相談が増えた。本来ひきこもらなくて済んだ方がひきこもるようになっているのではないかと

○家族関係の悪化

・普段日中に家にいることのない家族が家にいることにより、当事者との関係性が悪化した

- 関係者間の連携の滞り
 - ・関係機関との検討会を開催できなかった
- 高齢のひきこもりへの対応に苦慮
 - ・相談者の状況を考慮してのキャンセルも多くあった（高齢者・持病等）
- 来所、訪問相談の一時休止
 - ・緊急事態宣言時は来所、訪問相談を一時休止し、電話相談のみに
- 相談件数の増加
 - ・こころの相談（ひきこもり等）が全体的に増加している
- 新規相談件数の減少
 - ・来所や相談件数が減っており必要な支援が届いていない可能性がある
- 親が職を失ったことにより困窮
 - ・職を失った親の収入に頼っていたひきこもり本人も生活困窮に
- ひきこもりの情報入手困難に
 - ・ほとんどが地域住民からの情報によるものであるため、自粛期間が長期化すれば他者への関心、介入がうすれ、情報も入らなくなってくる
- 会再開時の反応
 - ・中止から再開した際は、新しく参加する方もいて、結びつきを求める人も増えたように思った
- 新たなひきこもり発見もフォローが不十分
 - ・新規相談増加で、経済的困窮解消に係る相談の中で、ひきこもり状態の家族があることを発見するがその後のフォローができていない

<家族会を運営する上で考えられる課題>

- ひきこもり対応の窓口が明確でない
 - ・ひきこもり支援については、困窮分野、障害分野、保健所にて行っていることから、それぞれの役割を整理する必要がある
- 協力体制が構築されていない
 - ・現状のひきこもり支援体制は非正規職員が 1 名のみで課をまたいだ連携や異業多職種の協力体制やネットワークが構築されていない
- 実態把握ができていない
 - ・実態調査の必要性は感じているが、自治体により手法が異なっておりどれが有効なのか分からない
- 長期間継続して伴走できる体制
 - ・信頼関係を構築するのに相当の期間を要するので、見捨てられたと感じさせない、長期間継続して伴走できる体制を確立することが必要

- 行政が担当することの難しさ
 - ・セルフヘルプグループとして運営されるものの、課題解決が期待される相談機関とわかれてしまう
- マンパワーの不足
 - ・会の運営が保健師のみで実施しているが、心理職などが担当できると良いが人材が不在
- 世間体を気にする家族は近隣の家族会を利用しない
 - ・住み慣れた地域内の家族会であると気まずく参加をためらうことも考えられるので、広域的に交互利用できたり、地域格差が生じないように整備することが課題
- 参加者の確保
 - ・少人数のため「家族会」としての運営は困難
- 家族会の内容や進行に苦慮
 - ・支援対象の方の状態や年齢は様々で、グループで話をする際の進行などは、支援者側で技術や配慮が必要となることがある
- 家族会を立ち上げるには、ひきこもりの家族が先頭に立つことが大事
 - ・ひきこもりを抱える家族が、行政や地域社会に「うちにはひきこもりがいます」と打ち明けるのには、かなりの勇気が必要だが、そういう勇気を持った人が先頭に立たないとうまくいかない、行政主導では困難である
- 担当職員の業務負担
 - ・ひきこもり以外の業務との併行が難しい
- 当事者の年齢によって家族会を分けるべき（8050、不登校等）
 - ・ひきこもり者の年齢別にしてほしい、母親の会を設けてほしい（父親と母親とでは思いが違うので）等の要望がある
- 家族会の周知方法
 - ・広報紙等で周知はしているが、届けたい方へピンポイントで届けるのが難しい
- 当事者が支援・関わりを希望していない場合、どう家族会に結び付けるのか
 - ・当事者は支援や関わりを希望しない人が多く、家族会の設置が当事者の問題解決に向けてどのようにつながっていくのか方向性が見えづらい
- 家族会に抵抗がある方をどう家族会に結びつけるのか
 - ・家族会の存在を知らない、抵抗がある、世間の目もあり隠しておきたいという方を、家族会にどう結び付けていくのか
- 当事者家族の高齢化
 - ・高齢家族が多く、設置したところで出席が難しい
- 設置のニーズはあっても、運営は負担がかかる
 - ・自主的な家族のつどいを実施しているが、幹事役になる人の負担が大きい

- 開催日時・頻度が課題
 - ・平日開催による、有職の親の不参加
- 支援における効果の判定が難しい
 - ・何をもって成果と捉えるのか、目標設定の難しさ
- 開催に適した会場探し
 - ・地域的に単独で開催できる施設はない
- 管轄範囲が広いため、センターから遠方の方の参加が難しい
 - ・少人数のため広域で実施しているが、会場が遠い等通いづらさがある
- 新規参加者が増えない、続かない
 - ・メンバーの固定化により、新規参加者が入りこみづらい
- 家族会の設置目的をどう捉えるのか難しい
 - ・当事者の支援のみとするか、行政と連携していくのか等
- ひきこもってからの支援では遅い
 - ・ひきこもってからの支援では遅く、予防が必要
- 家族会との連携ができていない
 - ・家族会との連携など円滑な関係ができていない
- オンライン開催の方法
 - ・インターネット環境の整備が不十分
- 予算の確保
 - ・内容がマンネリ化し、参加者同士の情報交換のみではなく専門家からの情報提供が欲しいとの意見があるが、予算がない
- ひとりひとりかけられる時間が短くなるのではないか
 - ・人数規模や開催頻度をニーズに応じて増やしていくと、参加者ひとりひとりにかけられる時間が短くなりじっくり話を聞き合える環境の提供が難しい
- その他の課題
 - ・家族会の前にアウトリーチの充実、居場所づくり等が課題

2. 家族会運営者調査

1. 目的

本調査は、ひきこもりを対象とした家族会運営の実態を把握することを目的としています。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

NPO 法人全国ひきこもり家族会連合会の支部 57 カ所を対象に、令和 2 年 12 月～令和 3 年 2 月に調査を実施し、22 カ所（回収率 38.6%）から回答が得られました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

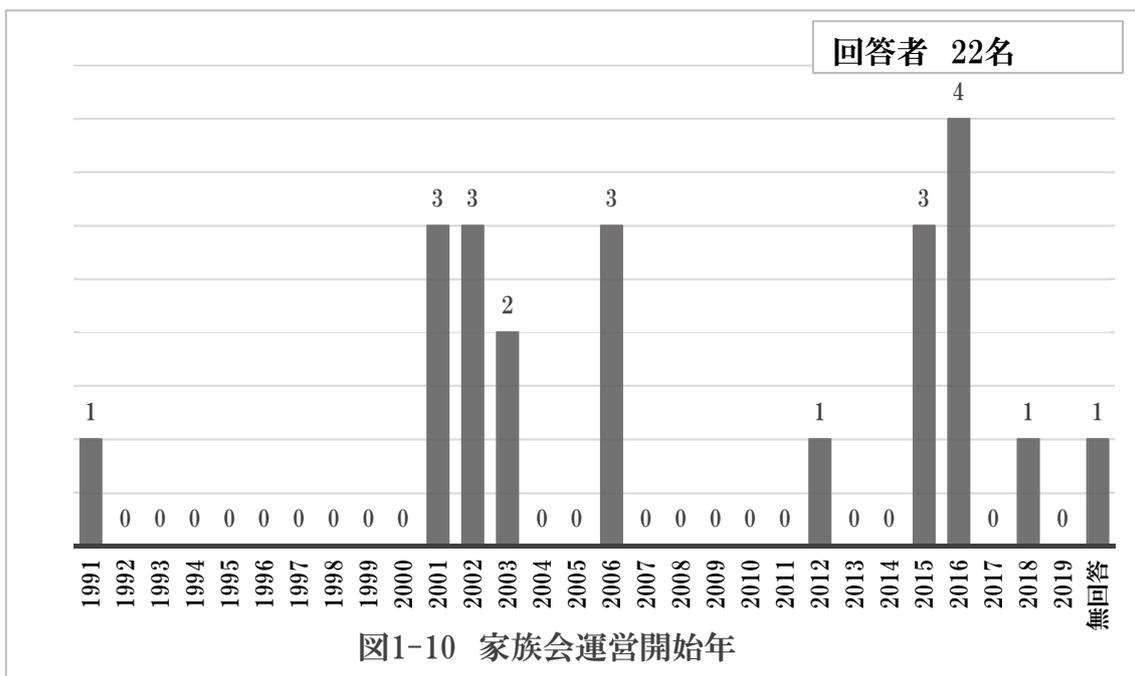
- (1) 運営団体の基礎情報
- (2) 運営団体の施設状況
- (3) 家族会の参加人数
- (4) 家族会の財源
- (5) 家族会の参加要件
- (6) 家族会のルール
- (7) 初めて参加する家族のために心掛けていること
- (8) 突然参加しなくなった場合の対応
- (9) 家族会の運営状況
- (10) 新型コロナウイルスの影響

【 調査手続き 】

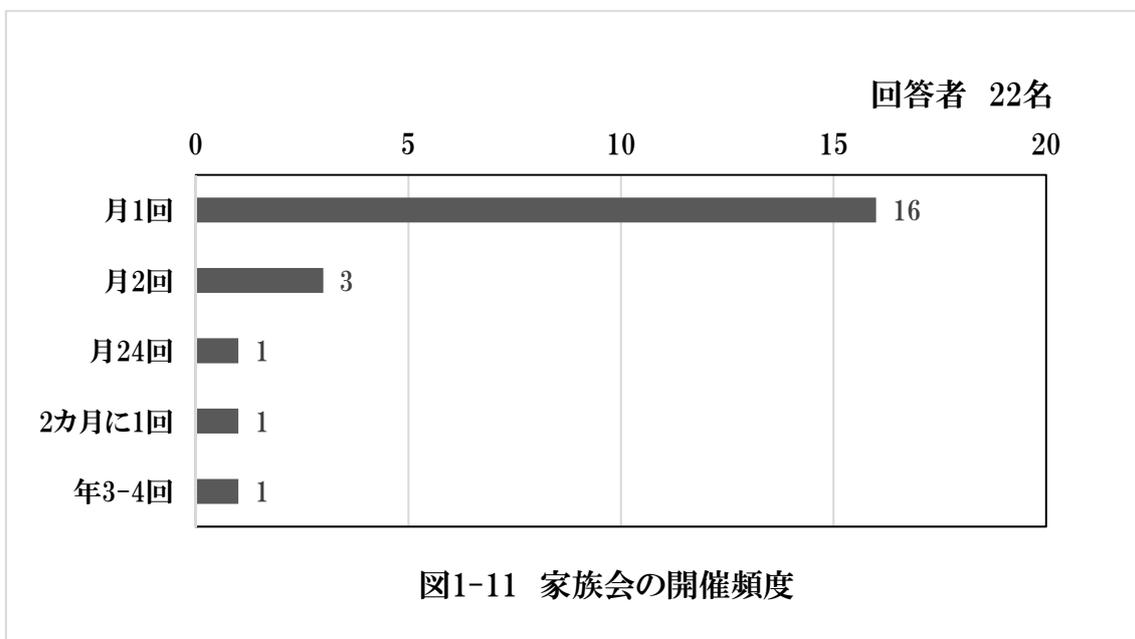
調査用紙を郵送し、郵送にて回収しました。

3. 結果

(1) 運営団体の基礎情報

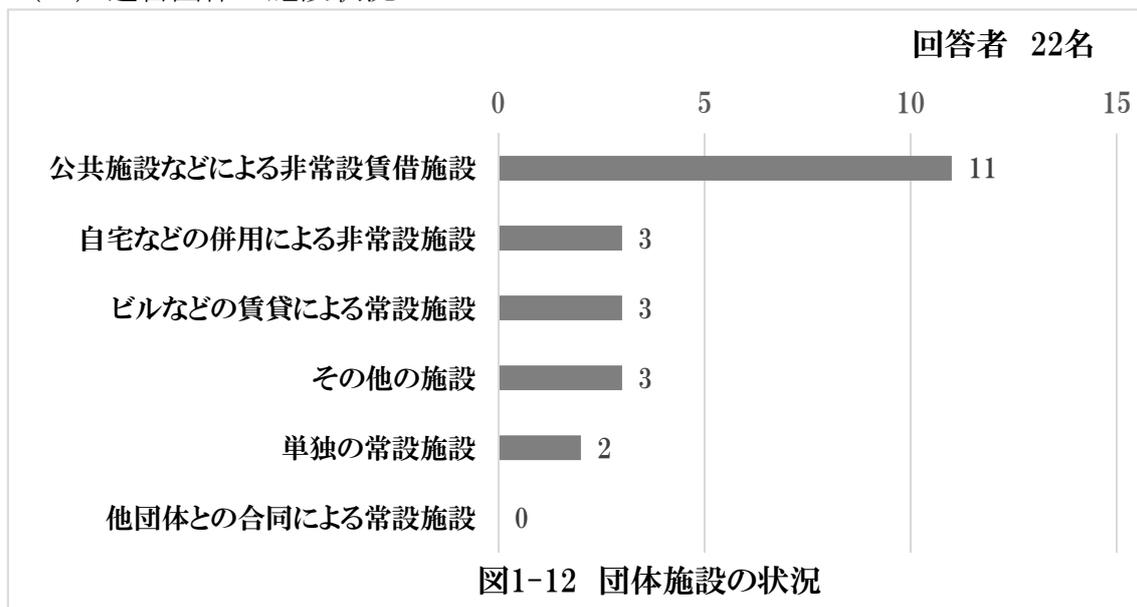


運営開始年については、最長が1991年から、最短が2018年からとなりました。ひきこもりが注目され初めた2000年頃から始まった家族会と2015年ごろから始まった家族会が多いことが分かります。



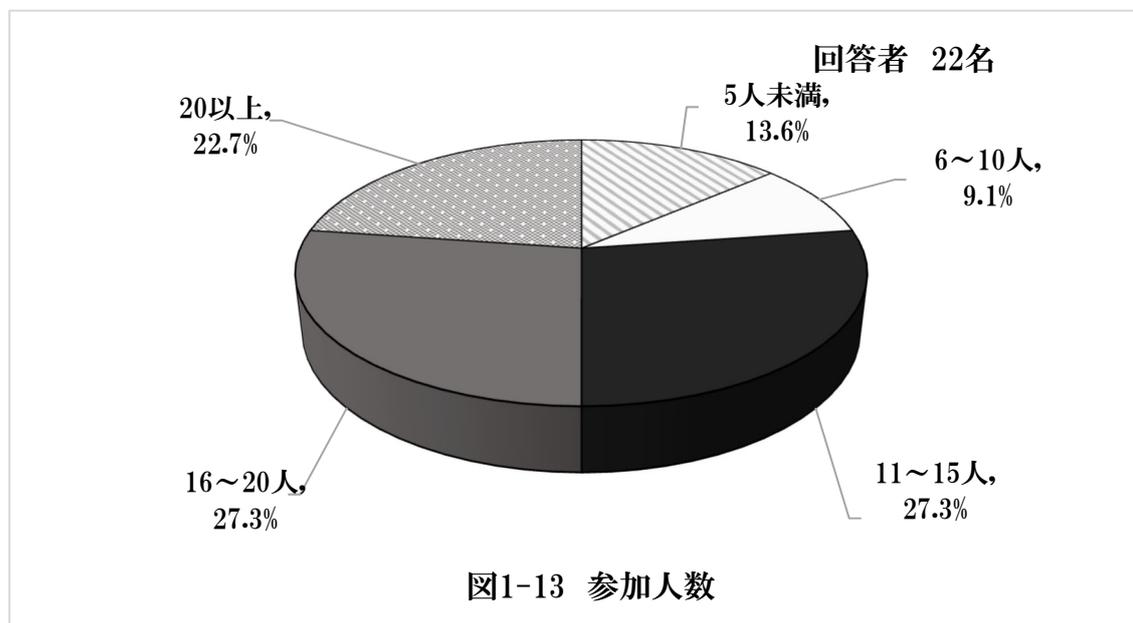
家族会の開催頻度については「月1回」が最も多く、次いで「月2回」が多いという結果でした。

(2) 運営団体の施設状況



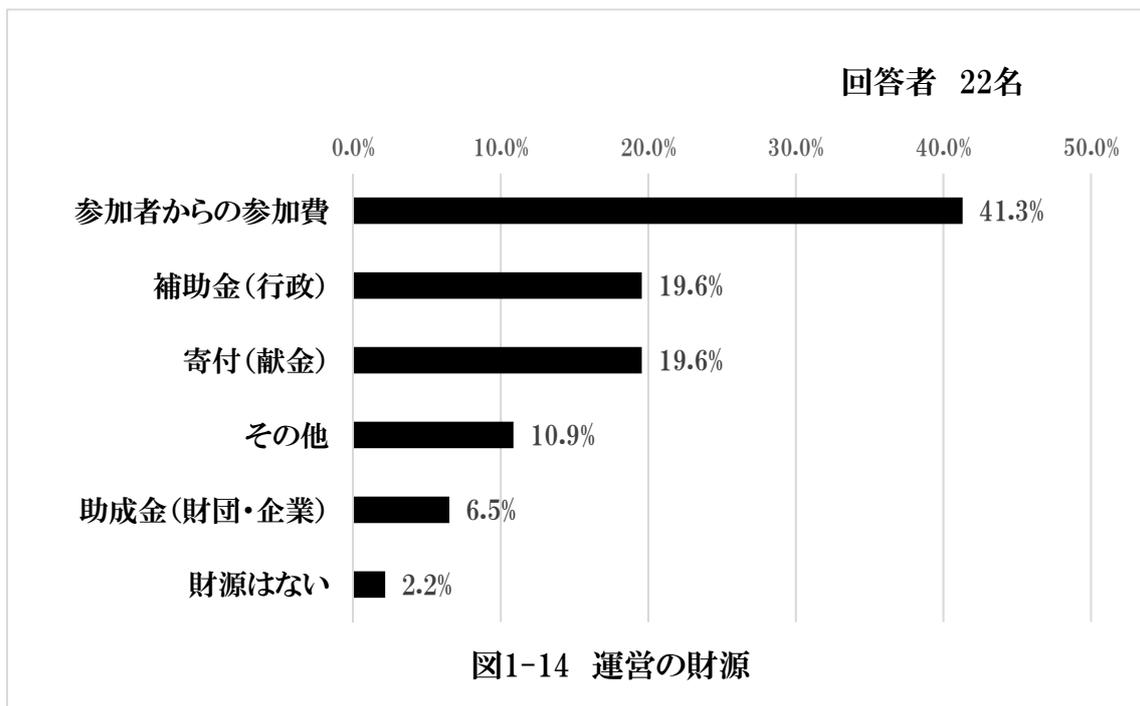
団体の施設状況については、「公共施設などによる非常設賃借施設」が最も多いことがわかります。

(3) 家族会の参加人数



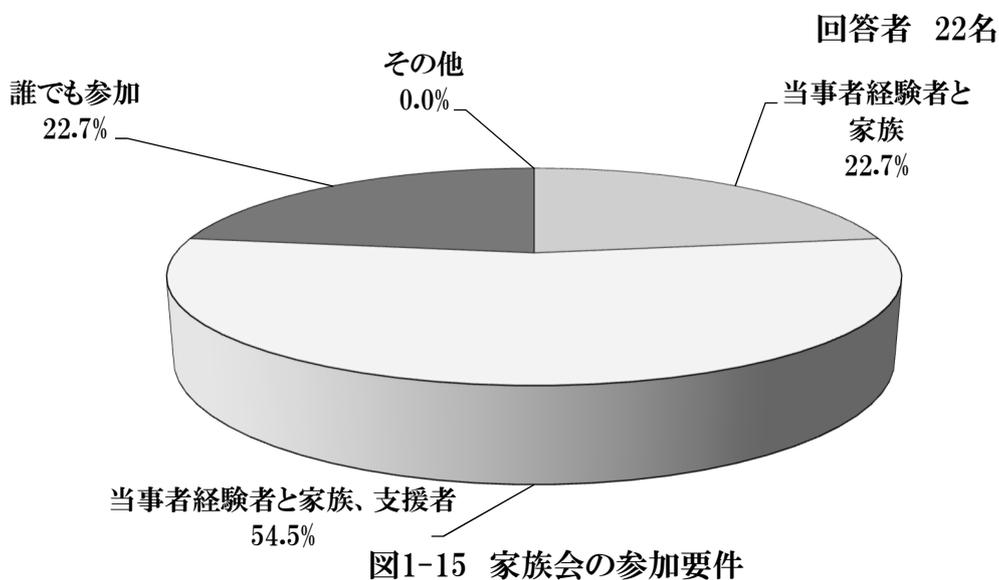
参加人数については、77.3%が10人以上と回答していましたが、10人以下の会も22.7%と4分の1程度あることがわかります。

(4) 家族会の財源



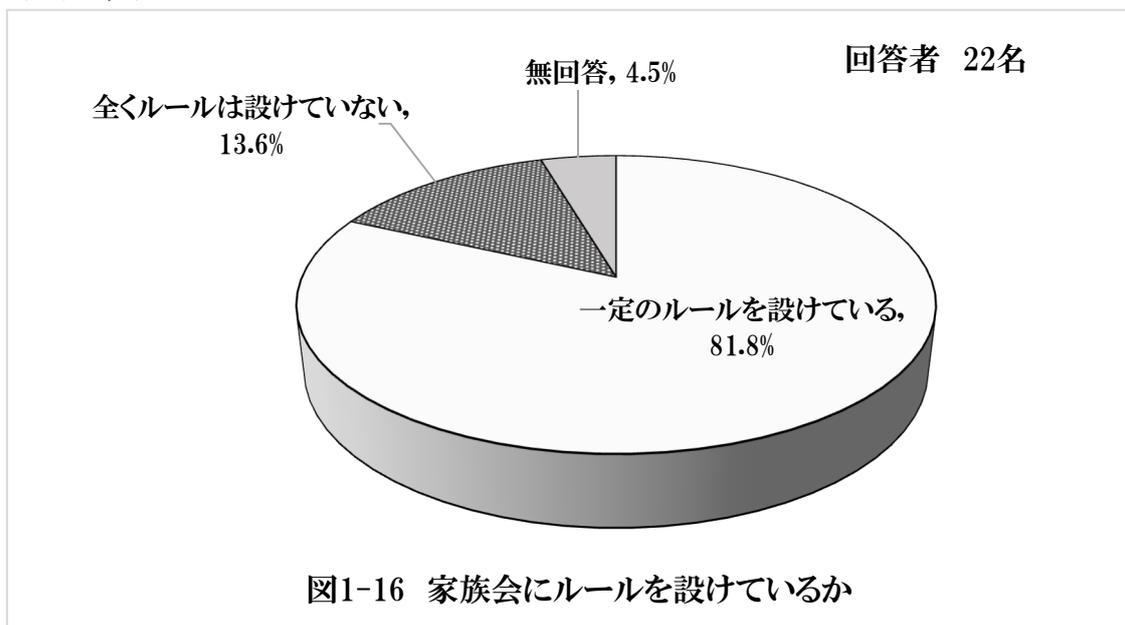
運営の財源については、「参加者からの参加費」が最も多いという結果でした。

(5) 家族会の参加要件

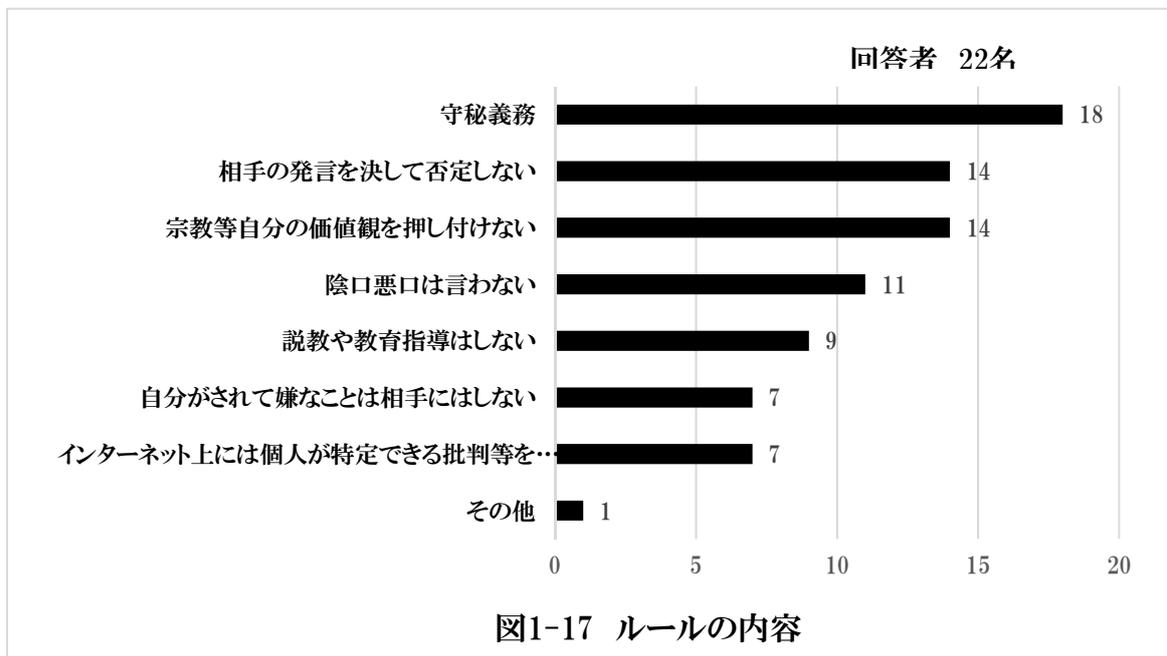


家族会の参加要件としては、22.7%が「当事者経験者と家族」と回答していましたが、それ以外は支援者も含め多様な立場の人が参加可能となっていました。なお、参加要件に年齢制限を設けているところはありませんでした。

(6) 家族会のルール



「家族会にルールを設けているか」については、81.8%が「ルールを設けている」と回答しました。



設けている具体的なルールについては、「守秘義務」が最も多く、「次いで相手の発言を決して否定しない」、「宗教等自分の価値観を押し付けない」、が多いことがわかります。その他としては「会の活動に自主的に協力すると共に、活動に支障を与える行動は慎む」がありました。

(7) 初めて参加する家族のために心掛けていること

初めて参加する家族のための心掛けていることについては、以下の様な回答が得られました。

○ “来て良かった” と思える雰囲気づくり

- ・相談窓口となった会員等が、入室時休憩時の声掛け、帰りの声掛け（次回の案内）等行う。窓口となった会員とともに少人数のグループで安心して話ができるようにする。
- ・自然に打ち解けることができるように無理強いせず、可能であれば話をしてもらう
- ・とにかく安心して過ごせる「親の居場所」であるということ
- ・役員の誰かがつき、不安なく会に入っていけるようにする
- ・同じ悩みを抱える「仲間」として迎える気持ち
- ・時間を使って丁寧に話を聞く
- ・可能な限り要望に応じる
- ・全員で静かに話を聞く
- ・最初はお茶飲んで雑談
- ・話しやすい雰囲気作り
- ・緊張しないよう心配り
- ・孤立しないようにする
- ・労う

○個別面談

- ・最初から大勢の所に入るのではなく、理事長が状況や要望を確認するため個人面談を実施
- ・当日参加費のみで個人面談（顧問カウンセラーが担当）
- ・月例会以外でも電話等で相談に応じる

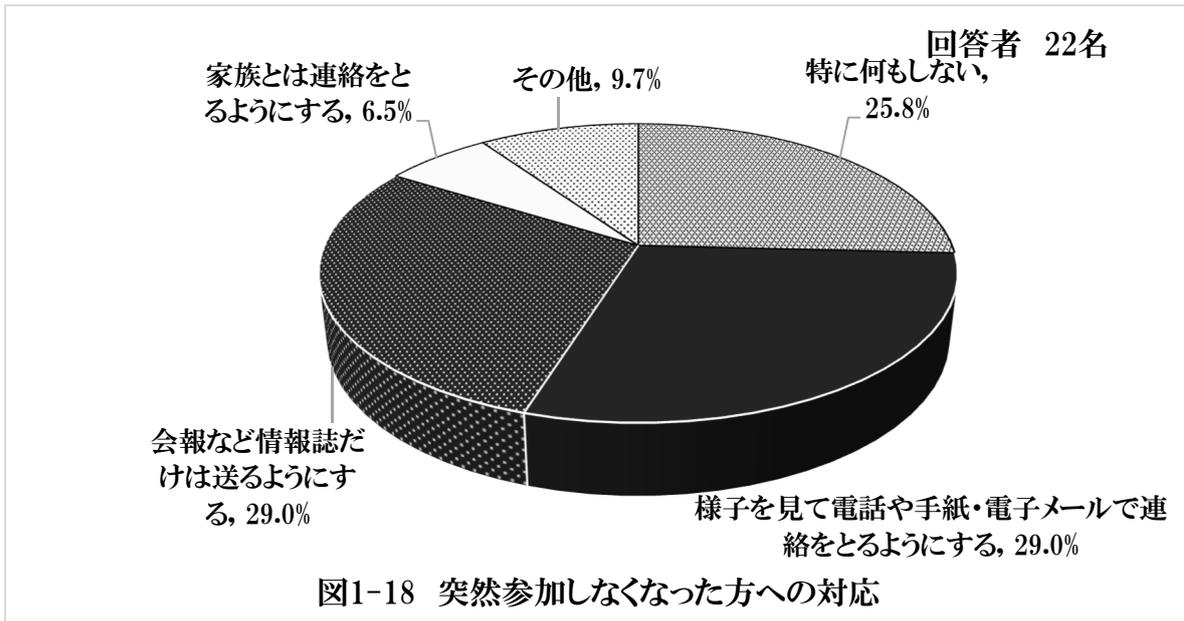
○意向確認

- ・何を求めて来所するか意向確認

○継続参加

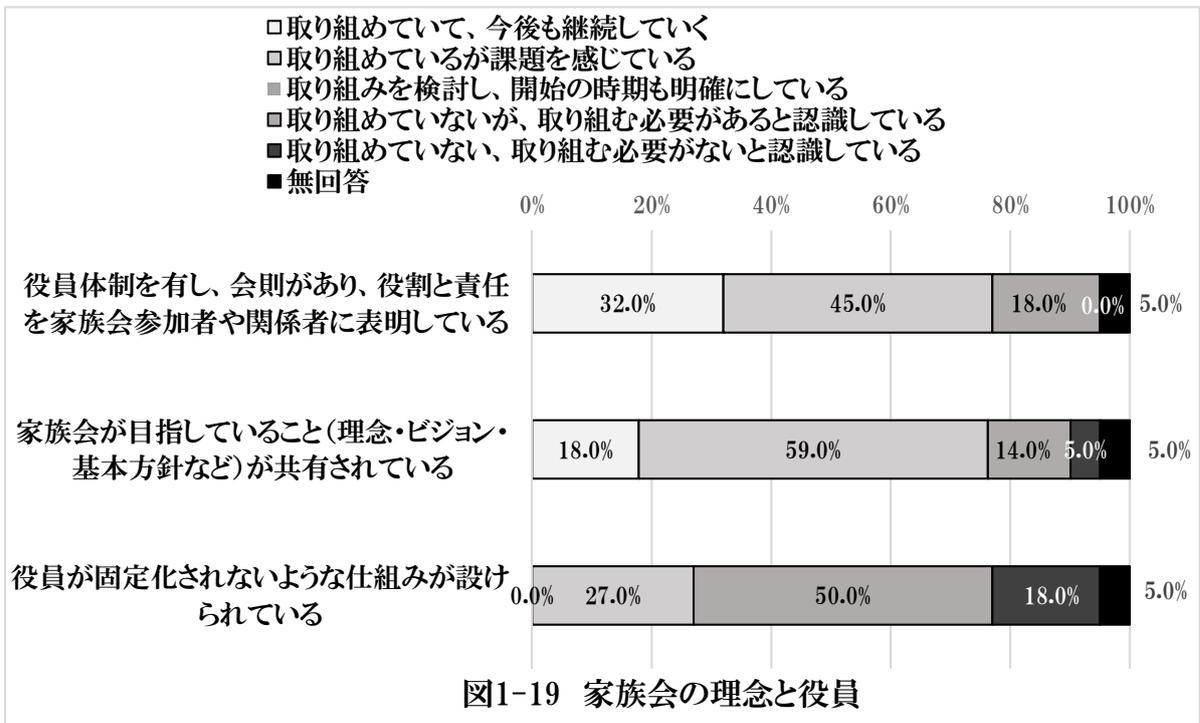
- ・簡単によくならない、時間がかかることを教えてあげる

(8) 突然参加しなくなった場合の対応

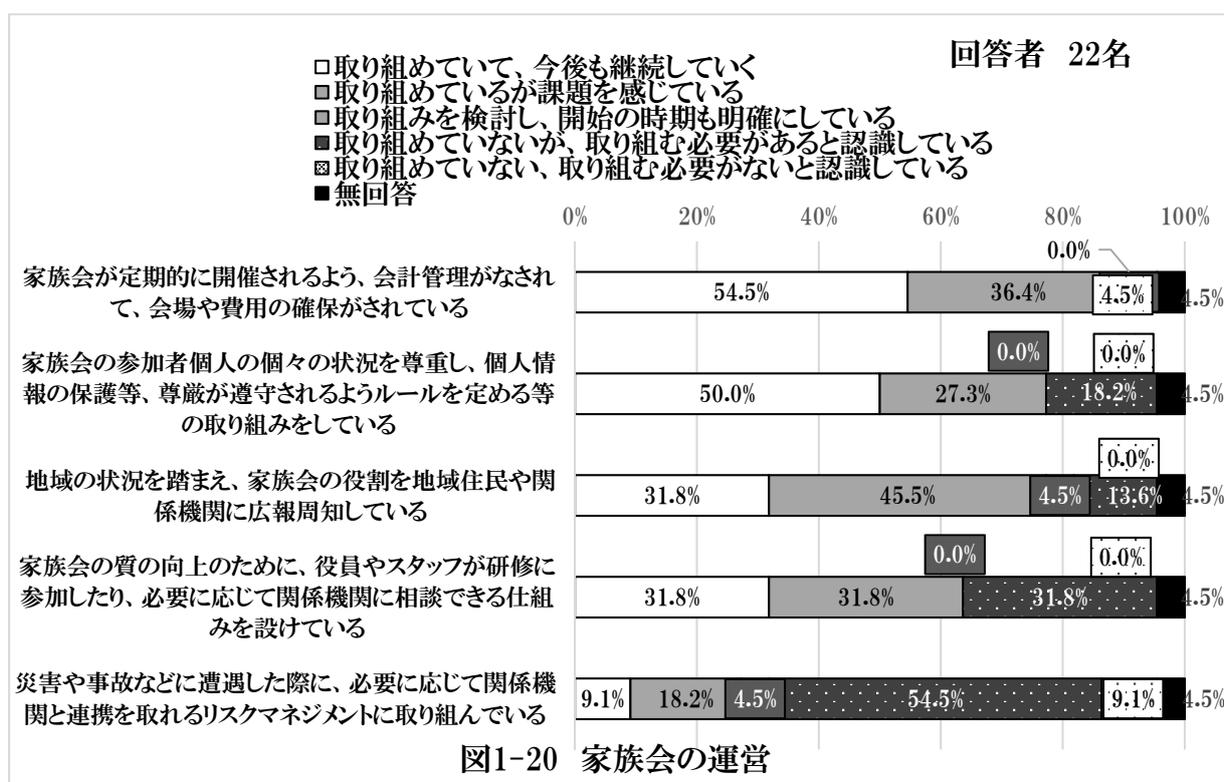


「突然参加しなくなった方への対応」については、「様子を見て電話や手紙・電子メールで連絡を取るようになる」、「会報など情報誌だけは送るようにする」がそれぞれ 29.0%でした。

(9) 家族会の運営状況



「役員体制を有し、会則があり、役割と責任を家族会参加者や関係者に表明している」については、77.0%が表明していると回答しました。「家族会が目指していること（理念・ビジョン・基本方針など）が共有されている」については、77.0%が共有されていると回答しました。「役員が固定化されないような仕組みが設けられている」については、50.0%が「取り組めていないが取り組む必要があると認識している」と回答しましたが、取り組めているという回答は0%でした。家族会の持続可能な運営のためにも、役員の定期的な交替は大きな課題であると言えます。



「家族会が定期的開催されるよう、会計管理がなされて、会場や費用の確保がされている」については、90.9%が取り組んでいると回答しました。また、「家族会の参加者個人の個々の状況を尊重し、個人情報の保護等、尊厳が遵守されるようルールを定める等の取り組みをしている」については77.3%が取り組んでいると回答しました。さらに、「地域の状況を踏まえ、家族会の役割を地域住民や関係機関に広報周知している」については、77.3%が取り組んでいると回答しており、「家族会の質の向上のために、役員やスタッフが研修に参加したり、必要に応じて関係機関に相談できる仕組みを設けている」については、63.6%が取

り組めていると回答しました。これら4つについては、比較的取り組んでいると言えます。

一方で、「災害や事故などに遭遇した際に、必要に応じて関係機関と連携を取れるリスクマネジメントに取り組んでいる」については、54.5%が「取り組めていないが、取り組む必要があると認識している」と回答しました。

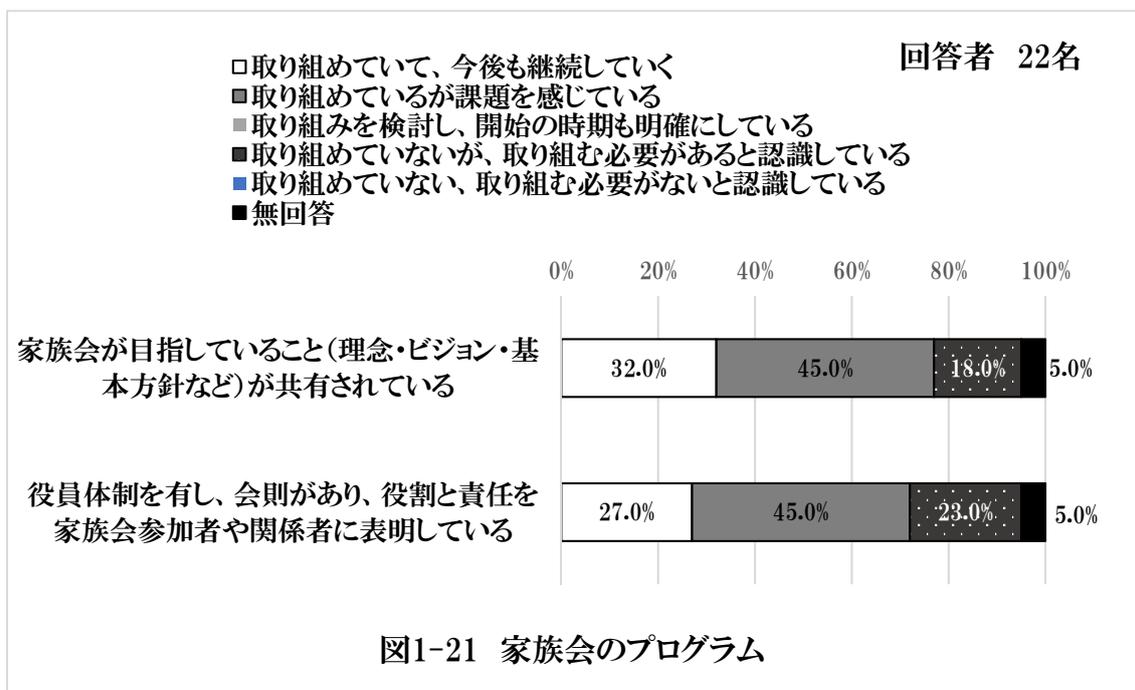


図1-21に示したように、「家族会が目指していること（理念・ビジョン・基本方針など）が共有されている」については77.0%が取り組んでいると回答しました。「役員体制を有し、会則があり、役割と責任を家族会参加者や関係者に表明している」については、72.0%が取り組んでいると回答しました。家族会のプログラムとしては、目指すべきところが明確になっており、関係者と協力して充実したものにできていると考えられます。

図1-22に示したように、「当該地域の行政担当所管と連携し協力関係にある」については、81.9%が取り組んでいると回答していました。また、「家族会参加者が速やかに行政に相談にいける仕組みがある」については、59.1%が取り組んでいると回答しました。これらのことから、行政と協力関係にある家族会が多いことが分かります。

一方で、「家族会参加者からの困りごとや苦情について、行政と共に課題解決を目指す体制がある」については、45.5%が取り組んでいると回答し、「行政担当所管と運営方法や家族会プログラムについて相談できる仕組みがある」については、36.4%が取り組んでいると回答するにとどまりました。また、「当該地域の行政からの事業の委託や人的交流等に応じている」については、40.9%が「取り組めていないが、取り組む必要があると認識している」と回答しました。

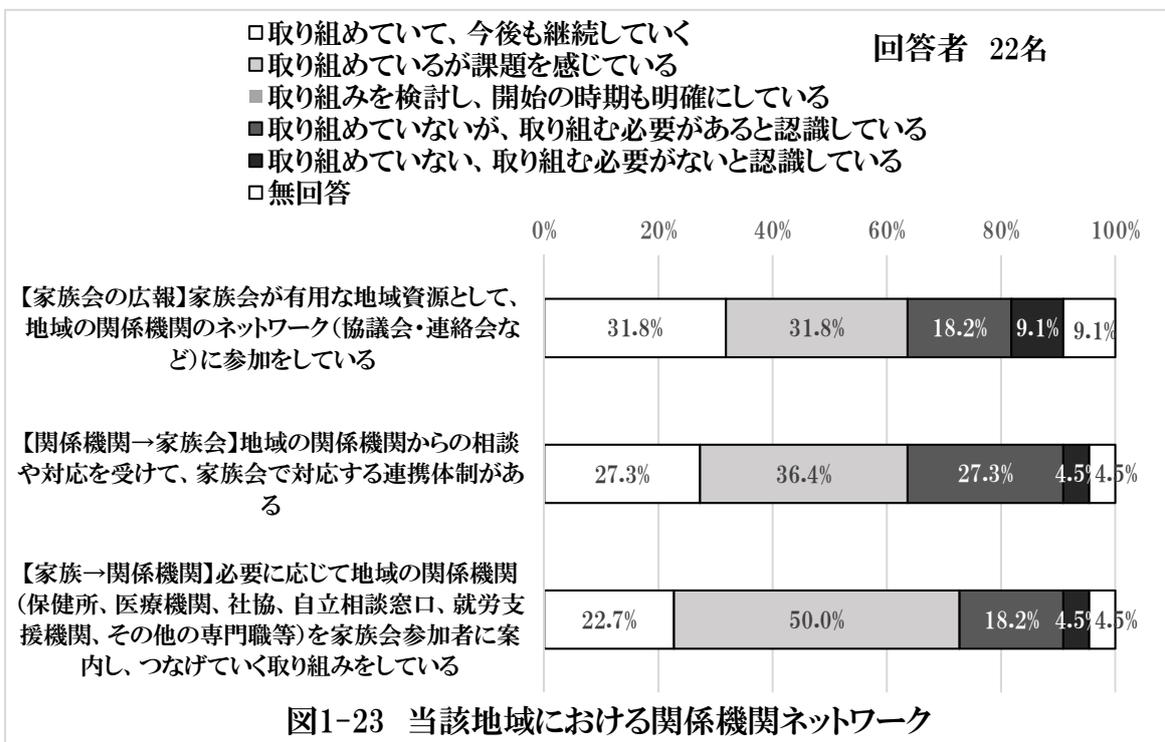
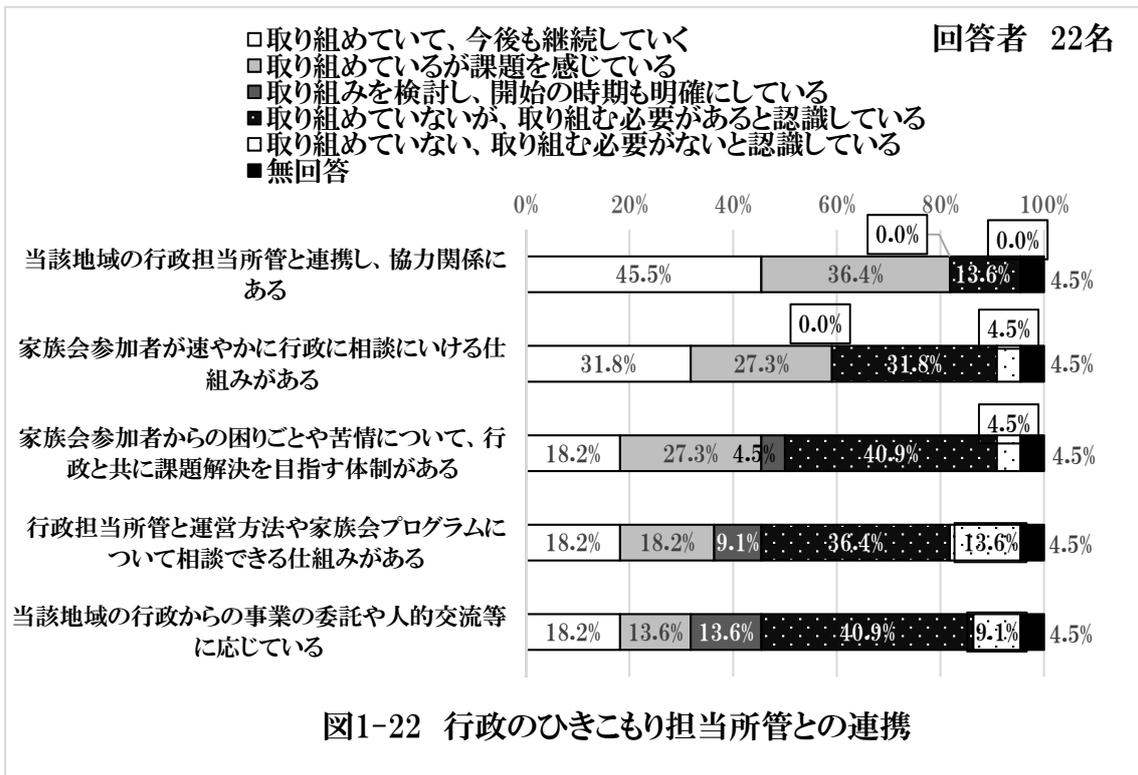


図1-23に示したように、「家族会が有用な地域資源として、地域の関係ネットワーク(協議会・連絡会など)に参加をしている」については、63.6%が取り組んでいると回答しました。また、「地域の関係機関からの相談や対応を受けて、

家族会で対応する連携体制がある」については、63.7%が取り組んでいると回答しました。さらに、「必要に応じて地域の関係機関を家族会参加者に案内し、つなげていく取り組みをしている」については、72.7%が取り組んでいると回答しました。これらのことから、当該地域における関係機関とのネットワークの構築は多くの家族会で進んでいると言えます。

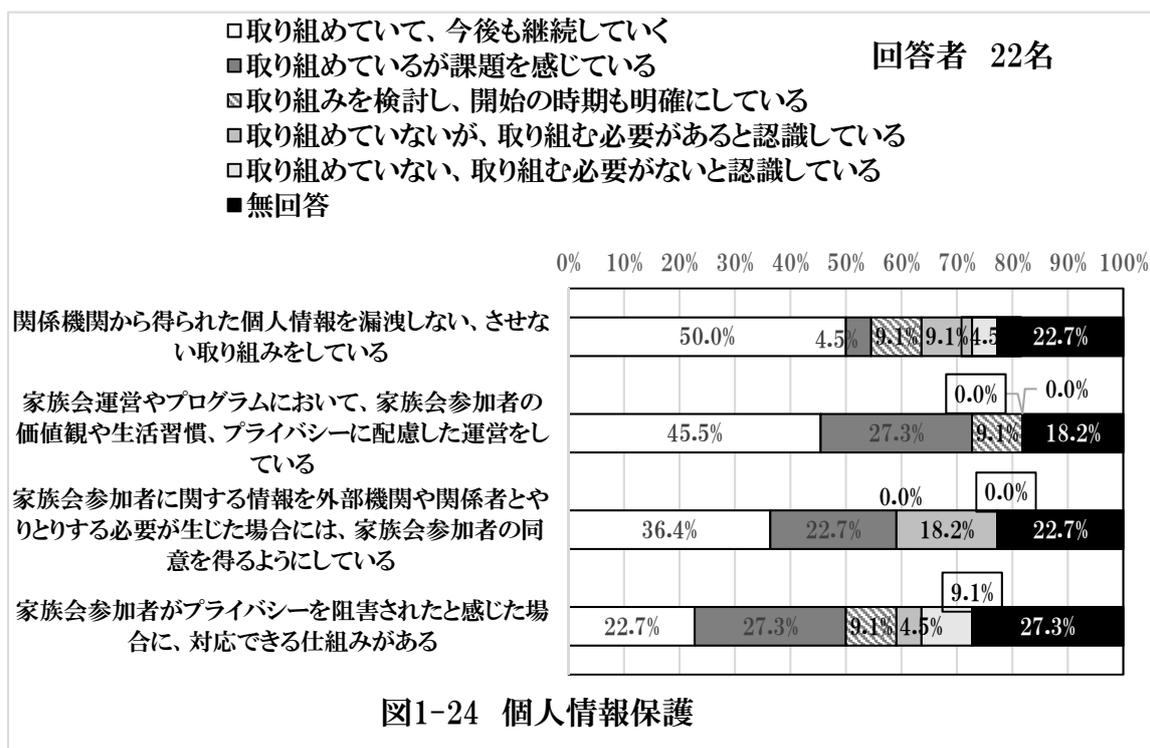


図1-24に示したように、「関係機関から得られた個人情報を漏洩しない、させない取り組みをしている」については、54.5%が取り組んでいると回答しました。「家族会運営やプログラムにおいて、家族会参加者の価値観や生活習慣、プライバシーに配慮した運営をしている」については、72.8%が取り組んでいると回答しました。

「家族会参加者に関する情報を外部機関や関係者とやりとりする必要がある場合には、家族会参加者の同意を得るようにしている」については、59.1%が取り組んでいると回答しました。

「家族会参加者がプライバシーを阻害されたと感じた場合に、対応できる仕組みがある」については50.0%が取り組んでいると回答しました。

(10) 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの影響とそのための支援について自由記述で回答を求めたところ、以下のような回答が得られました。以下に概要を列記しますが、詳細は第4部自由記述をご覧ください。

<新型コロナウイルスの影響>

- 会場の変更・閉鎖
 - ・ 公的機関がコロナ感染防止のため使用できなくなった
- 参加者の減少
 - ・ 参加の自粛・見合わせ意識が働いているようで、参加者は半減
- 定例会の短縮・中止
 - ・ 月例会の時間を短くしている
- 講演会中止・減少
 - ・ 講演会の中止
- 相談の減少
 - ・ コロナで相談が少なくなった。
- リラックスした雰囲気が作れず
 - ・ マスクをしたりはずしたりと落ち着かない気分
- 参加費収入の減少
 - ・ イベントの中止による運営費の不足（赤字）
- 体調悪化
 - ・ 生活リズムや体調不良者の声を聞く
- ネット環境等へつながりにくい方への対応に苦慮
 - ・ ネット環境や、社会との接点を持たない家族や本人はますます社会との隔たりが大きくなっていると感じる
- 例会周知のチャンスを失っている
 - ・ 年2~3回の学習会が開きにくくなり、例会を広く宣伝・告知するチャンスを失っている
- 設備費・人件費アップ
 - ・ リモート等の必要性が高まり、設備/人件費のアップ
- 苦情
 - ・ 最初の頃は月例会に消毒液を用意できずに苦情が出た
- オンライン研修会の導入
 - ・ オンライン研修会により、費用、時間を節約できている
- メールで情報提供
 - ・ 広報、メール、SNS等でできるだけ連絡を取り合ってきた

- 感染防止対策
 - ・衝立、仕切り幕を用意した
- 研修の延期
 - ・スキルアップ研修が延期となった

<新型コロナウイルスと共存していく社会において、家族会にどのような支援が必要になると思うか>

- オンライン支援
 - ・オンラインで会を開催する方法（操作知識）を教えてほしい
- 会場閉鎖となった時の対応
 - ・行政の会場を借りて例会を行っているため、行政の都合で会場閉鎖となることも当然起こり得る。そうした時にどう対応するのか今後の課題
- 各市町村に家族会を
 - ・県内では家族会が2つのみであり参加人数に限られるので、各市町村に家族会があれば良い
- 病院に行かない当事者への対応
 - ・不調を感じても、当事者は病院にも検査にも行けず悪化させてしまう可能性があるため、従来以上に体調管理に気を配る支援が必要
- 行政の指導的支援
 - ・広域ではなく地域での活動が効果的に実現できるよう、官民の福祉関連機関、団体の協働体制づくりに向けた行政の指導的支援が求められる
- 財源の助成
 - ・郵便物の料金も、会費の納入がないと継続できず、会の存続が危ぶまれる。活動助成制度を設置してほしい。
- いいことも
 - ・コロナのおかげでたくさんの「おかげさま、感謝」に気づくことができた。参加者が少なければそれだけ深い話をゆっくりできる

第2部
KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
支部調査

1. 家族調査

1. 目的

本調査は、新型コロナウイルス蔓延禍における家族会の効果を把握することを目的としています。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする。）の支部が令和2年12月～令和3年1月に開催した月例会において調査を実施するとともに、ウェブ調査を実施しました。その結果、252名の回答が分析に用いられました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

（1）基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、ひきこもり状態にある人（以下、ひきこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在のひきこもり状態
- ・過去のひきこもり経験
- ・ひきこもりの初発年齢および期間
- ・現在のひきこもりの程度
- ・ひきこもり本人の1ヵ月の平均外出日数

（2）支援・医療機関について（家族回答者とひきこもり本人）

- ・支援・医療機関の利用状況
- ・支援・医療機関利用の中断

（3）基礎情報2

- ・家族回答者が現在住んでいる都道府県
- ・家族回答者の続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・ひきこもり本人の性別
- ・ひきこもり本人の年齢

（4）社会参加や職業について

- ・現在抱いている社会参加に対する困難感
- ・コロナが蔓延化する前に抱いていた社会参加に対する困難感
- ・昨年の世帯年収
- ・コロナが蔓延化する前の世帯年収

(5) KHJ 家族会について (家族回答者)

- ・家族会への所属
- ・家族会の所属支部 (地方別)
- ・家族会への参加状況
- ・家族会への参加回数

(6) 新型コロナウイルスの影響

- ・生活状況
- ・主観的幸福感

【 調査手続き 】

月例会においては、調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方のみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。ウェブ調査においては、**GoogleForm** で作成した調査フォームのリンク情報を各支部にメールで送信し、同意の得られた会員が回答を行いました。

結果

(1) 基礎情報

1. 現在のひきこもり状態

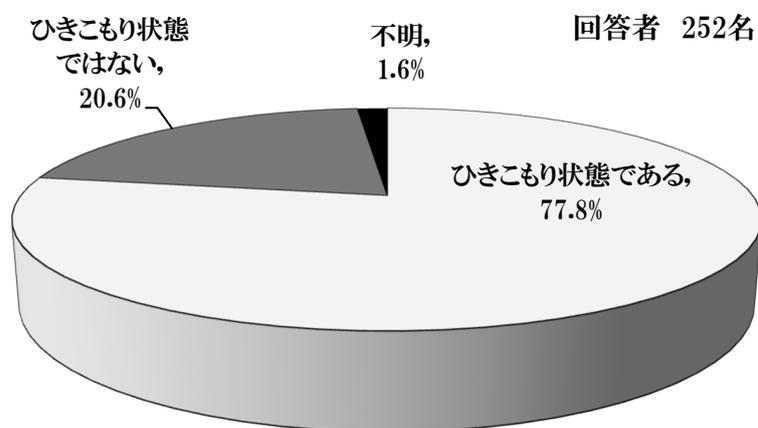


図2-1 ひきこもり状態の有無(現在)

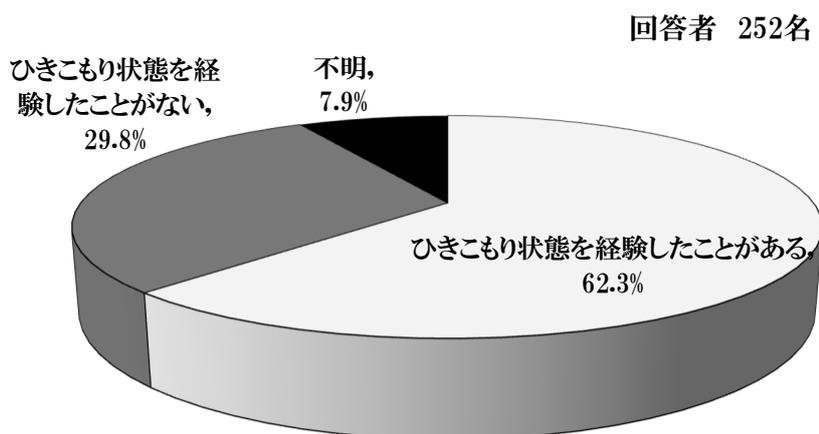


図2-2 ひきこもり経験の有無(過去)

図2-1に家族回答者が、ひきこもり本人の現在のひきこもり状態について回答した結果を示しました。ひきこもり本人が現在「ひきこもり状態である」と回答した方が77.8% (87.2%)、現在「ひきこもり状態ではない」と回答した方が20.6% (12.2%)、不明が1.6% (0.8%)でした。

また、過去にもひきこもり状態を経験したことがあるかについて図2-2に示しました。「ひきこもり状態を経験したことがある」が62.3% (61.7%)、「ひきこもり状態を経験したことがない」が29.8% (29.3%)、不明が7.9% (11.7%)と昨年度の調査で得られた値とほぼ同様の結果でした(カッコ内は昨年度の値)。

2. ひきこもりの初発年齢および期間

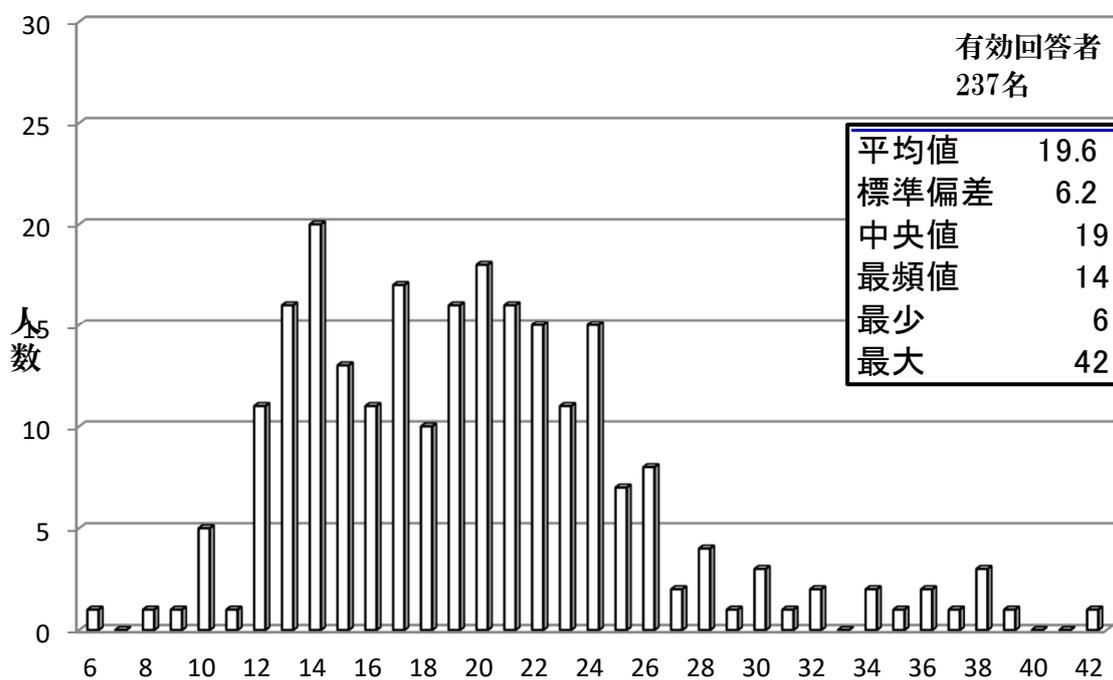
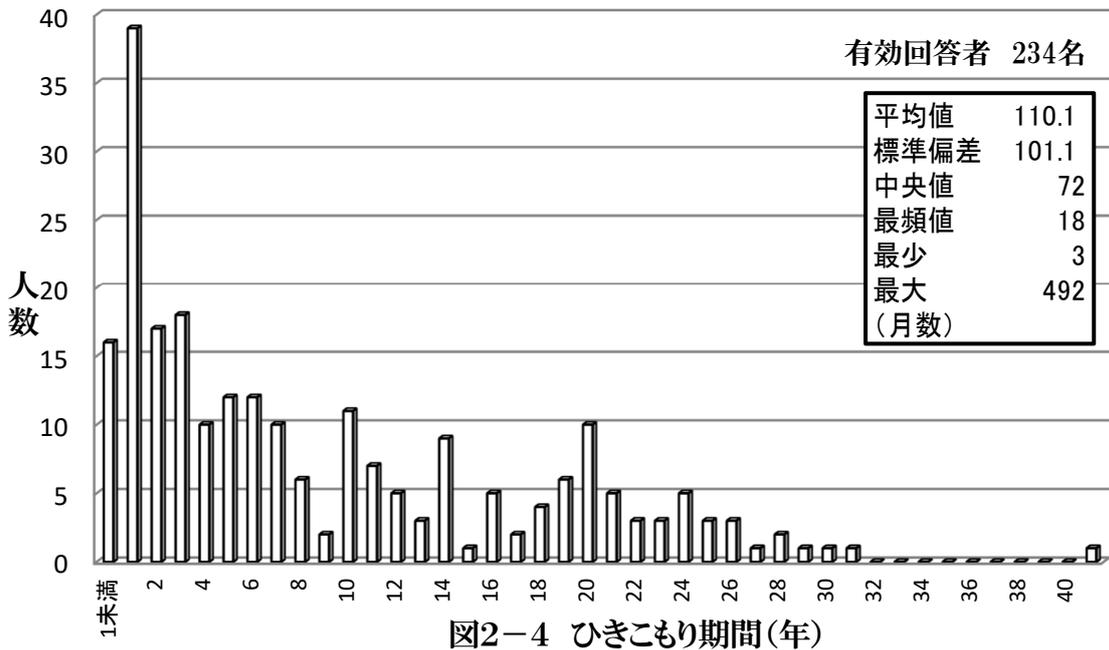


図2-3 ひきこもり初発年齢

図2-3にひきこもり本人のひきこもり初発年齢について示しました。ひきこもりが始まった時期についての平均年齢は19.6歳(20.3歳)でした。最年少が6歳(8歳)、最年長が42歳(47歳)でした。もっとも多かった年齢については14歳(16歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。

図2-4にひきこもり期間について示しています。平均は9.1年(9.1年)、最長が41年(49年)でした。



3. 現在のひきこもりの程度

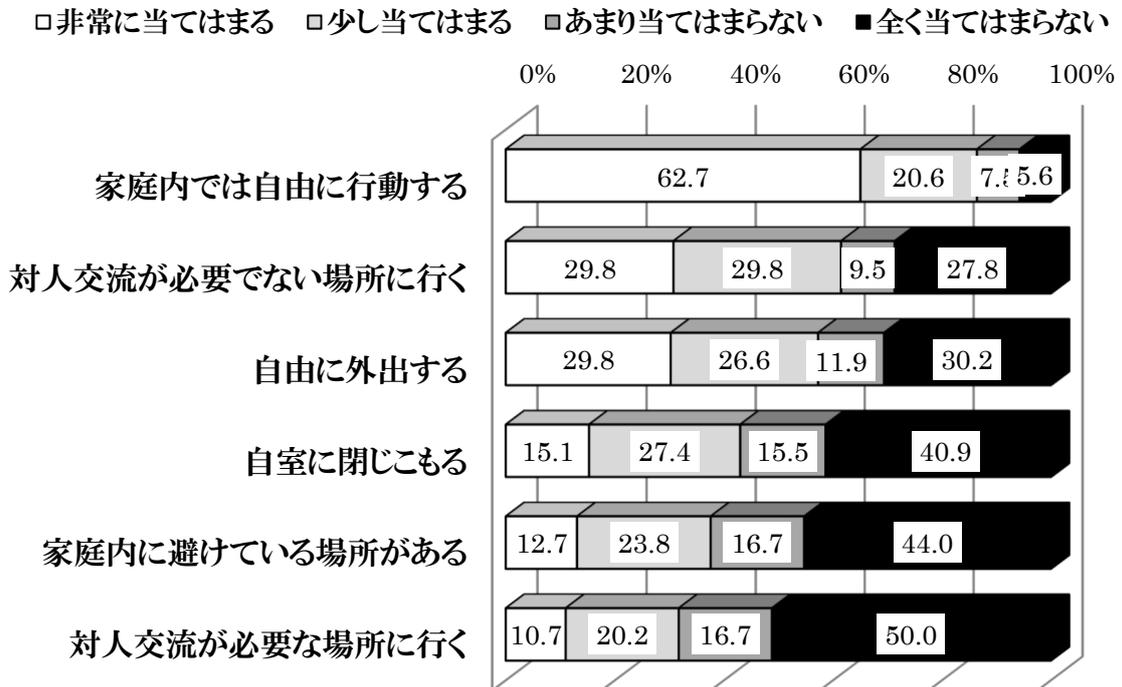


図2-5のとおり、ひきこもりの程度については、家庭内では自由に行動し、対人交流が必要ではない場所へ行く方、自由に外出する方が多いと言えます。これは昨年度と同様の結果となりました。

4. ひきこもり本人の1ヶ月の平均外出日数

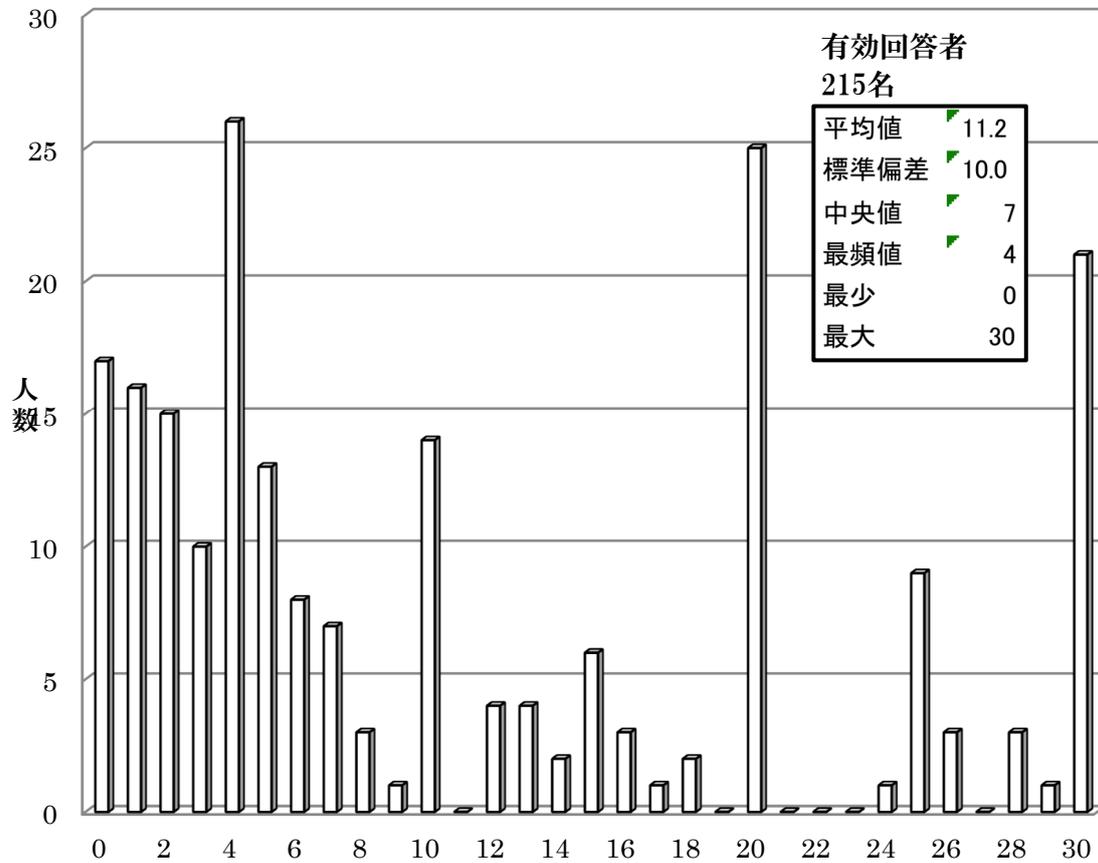


図2-6 ひきこもり本人の1ヶ月の平均外出日数

図2-6に、ひきこもり本人の1ヶ月の平均外出日数について示しました。「毎日外出している」と回答された場合や、「31日外出している」と回答された場合は、「30日」として示しました。外出日数の平均は11.2日（11.4日）、最少は0日（0日）、最大は30日（30日）でした（カッコ内は昨年度の値）。昨年度の調査において、もっとも多かった回答は0日でしたが、今回の調査では、4日、20日、30日と回答した方が多く見られました。

(2) 支援・医療機関について (ひきこもり本人)

1. 支援・医療期間の利用状況

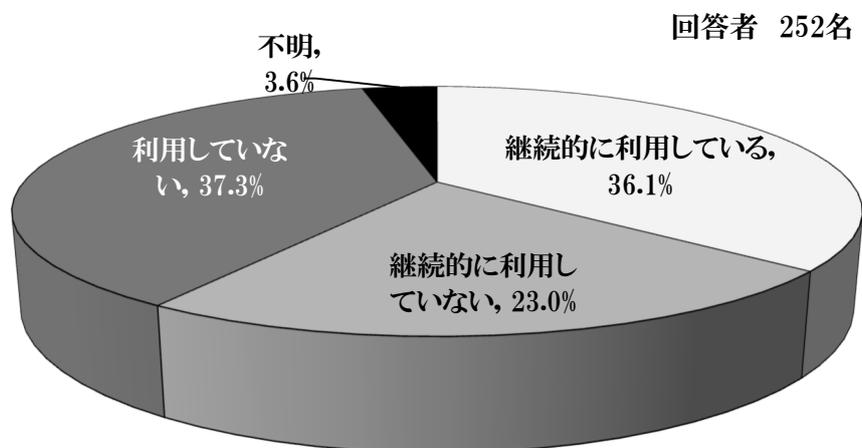


図2-7 支援・医療機関の利用状況(本人)

ひきこもり本人の支援・医療機関の利用状況については図2-7のとおりです。ひきこもり本人が支援・医療機関を利用したことがあると回答した方が、59.1% (59.6%) でした。そのうち、支援・医療機関を継続的に利用していると回答した方が 36.1% (26.8%)、継続的に利用していないと回答した方が 23.0% (19.7%) でした。また、支援・医療機関を利用したことがないと回答した方が 37.3% (36.6%)、不明は 3.6% (3.8%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

2. 支援・医療機関利用の中断

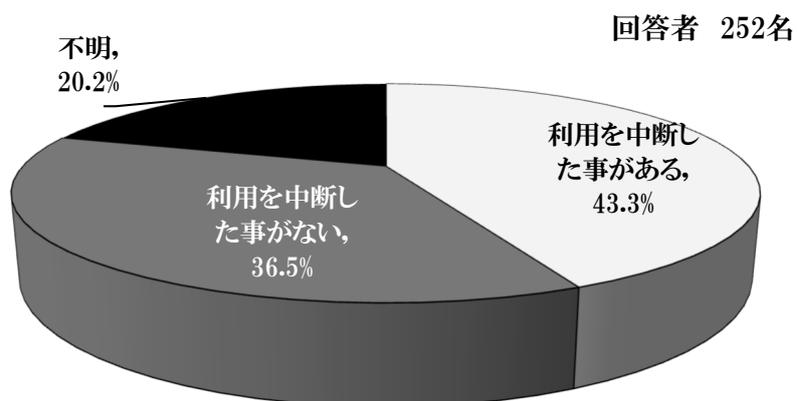


図2-8 支援・医療機関利用の中断(本人)

図2-8にひきこもり本人が支援・医療機関の利用を中断したことがあるかどうかについて示しました。ひきこもり本人が支援・医療機関の利用を中断し

たことがあると回答した方が 43.3% (42.5%)、利用を中断したことがないと回答した方が 36.5% (35.8%)、不明が 20.2% (21.7%) でした (カッコ内は昨年度の値)。昨年度の値とほとんど同じ結果が得られました。

(2) 支援・医療機関について (家族回答者)

1. 支援医療機関の利用状況

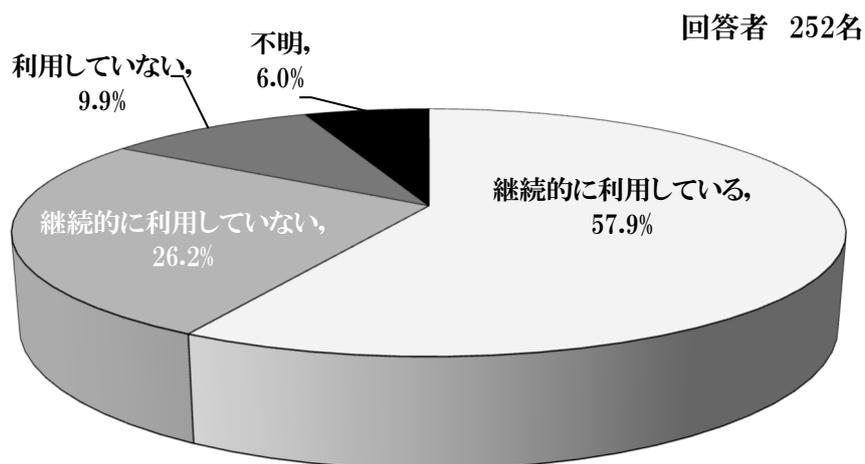


図2-9 支援・医療機関の利用状況(家族回答者)

図2-9のとおり、家族回答者の支援・医療機関の利用状況については、利用したことがあると回答した方が 84.1% (86.2%) でした。そのうち、支援・医療機関を継続的に利用していると回答した方が 57.9% (66.1%)、継続的に利用していないと回答した方が 26.2% (20.1%) でした。また、支援・医療機関を利用したことがないと回答した方が 9.9% (9.5%)、不明が 6% (4.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。家族回答者の8割以上の方が、支援・医療機関を利用していると回答されました。

2. 支援・医療機関利用の中断

図2-10に家族回答者が支援・医療機関の利用を中断したことがあるかについて示しました。支援・医療機関の利用を中断したことがあると回答した方は 43.3% (37.4%)、利用を中断したことがないと回答した方は 46.0% (56.1%)、不明が 10.7% (6.5%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

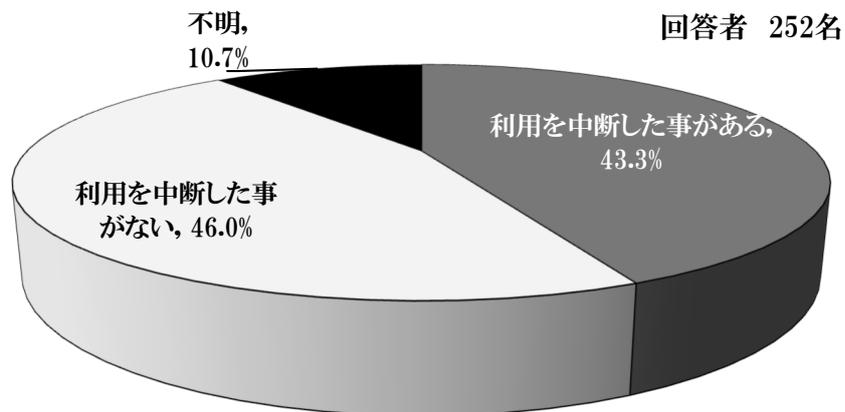


図2-10 支援・医療機関利用の中断(家族回答者)

(3) 基礎情報 2

1. 家族回答者が現在住んでいる都道府県

表2-1 家族回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数	
北海道	北海道	22	近畿地方	三重県	9	
	東北地方	2		大阪府	8	
東北地方	岩手県	2	中国地方	兵庫県	6	
	秋田県	4		奈良県	1	
	山形県	6		島根県	1	
	福島県	1		岡山県	2	
	茨城県	6		広島県	8	
関東地方	栃木県	8	四国地方	山口県	6	
	群馬県	12		香川県	7	
	埼玉県	8		愛媛県	8	
	千葉県	17		徳島県	1	
	東京都	21		高知県	7	
	神奈川県	10		九州地方	福岡県	8
	中部地方	山梨県		1	大分県	1
新潟県		5	宮崎県	9		
富山県		5	沖縄県	4		
石川県		3	不明	5		
静岡県		17	合計	252		
愛知県		10				
岐阜県	1					

表2-1のとおり、家族回答者が住んでいる場所は36都道府県(32都道府県)に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が14.7%(11.9%)と昨年度の値よりもやや増加しました。関東地方が32.5%(34.4%)、中部地方が16.7%(22.5%)、近畿地方が9.5%(7.6%)、中国地方が6.7%(9.8%)、四国地方が9.1%(6.5%)、九州地方が8.7%(6.5%)となっています(カッコ内は昨年度の値)。

2. 家族回答者の続柄

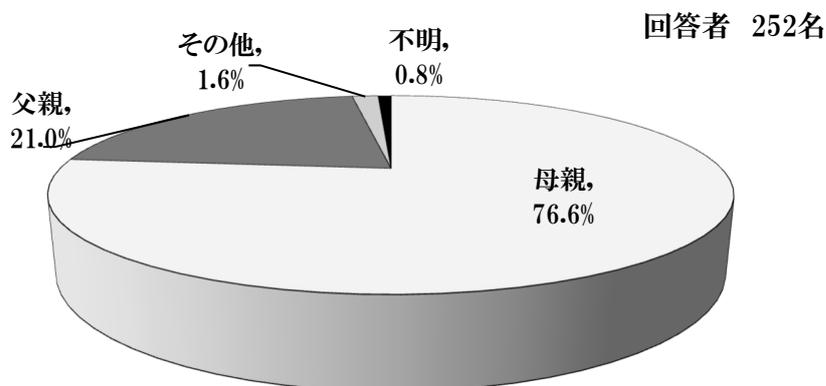


図2-11 家族回答者の続柄

図2-11のとおり、家族回答者とひきこもり本人との続柄は、母親が76.6% (74.5%)、父親が21.0% (23.0%)、その他が1.6% (1.6%)、不明が0.8% (0.8%) でした (カッコ内は昨年度の値)。例年の値とほぼ類似しています。

3. 家族回答者の年齢

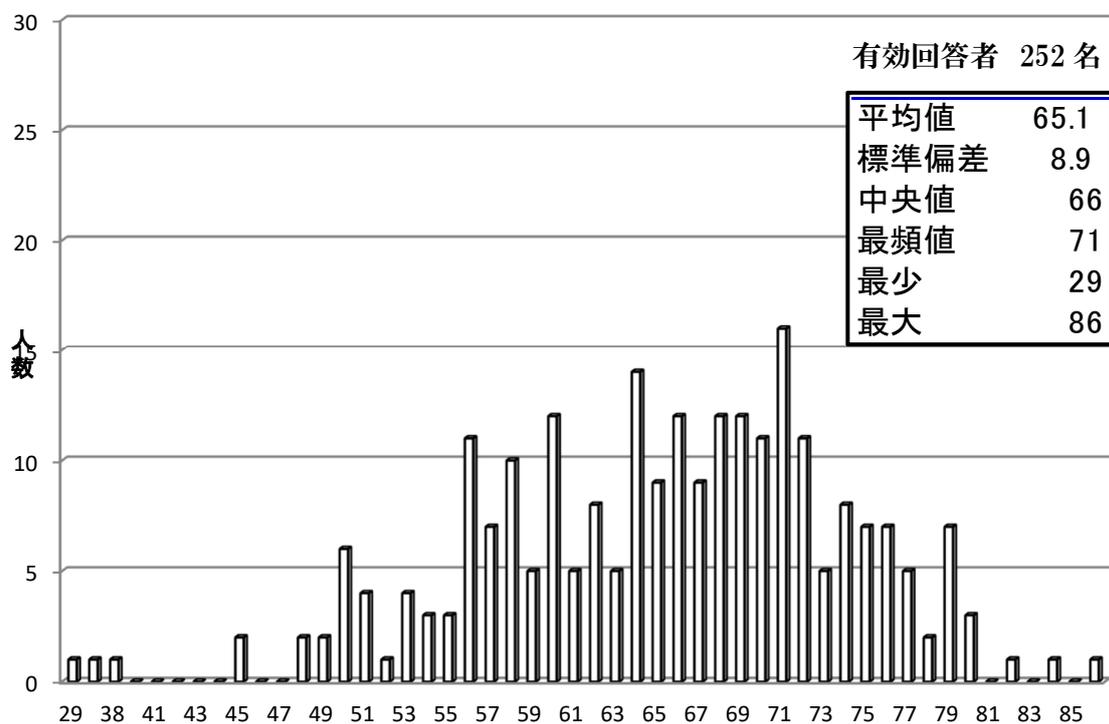


図2-12 家族回答者の年齢

家族回答者の年齢を図2-12に示します。家族回答者の平均年齢は65.1% (65.5歳)、最年少が29歳 (26歳)、最年長が86歳 (89歳) でした (カッコ内は昨年度の値)。こちらも昨年度の調査の値と類似しています。

4. ひきこもり本人の性別

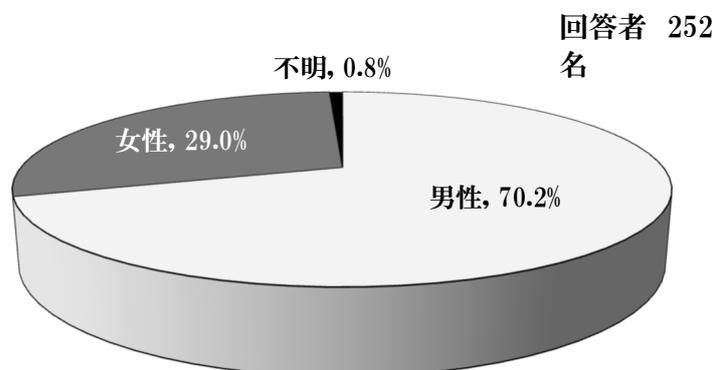


図2-13 ひきこもり本人の性別

図2-13のとおり、ひきこもり本人の性別については、男性が70.2% (77.2%)、女性が29.0% (22.5%)、不明が0.8% (0.3%) でした(カッコ内は昨年度の値)。昨年度の値と比較して女性の割合がやや増加しています。

5. ひきこもり本人の年齢

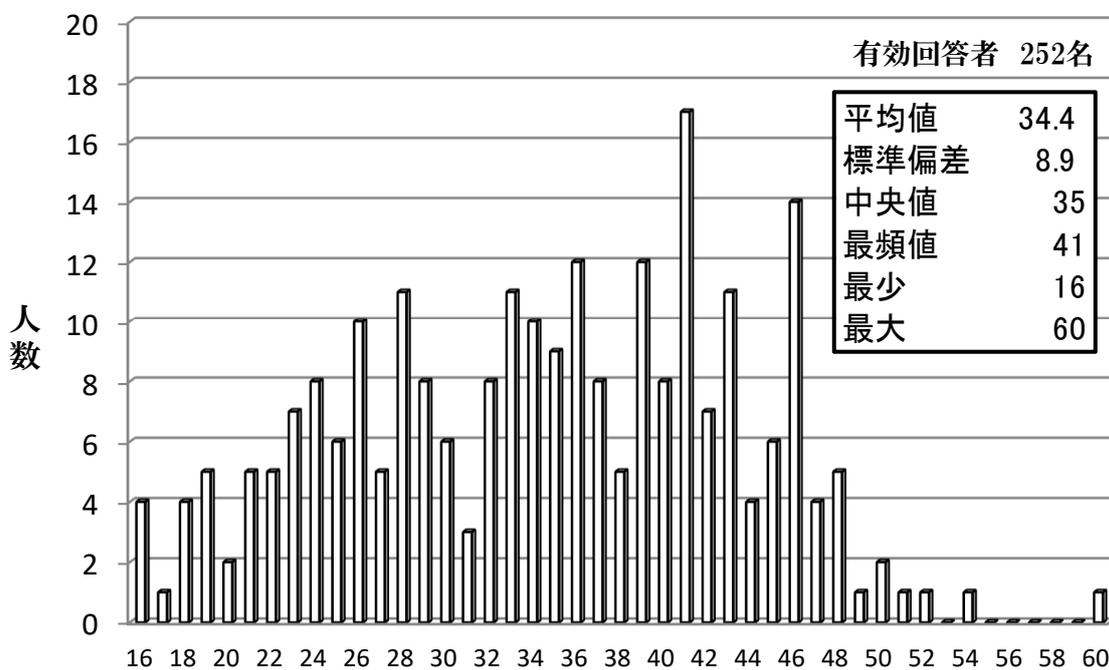


図2-14 ひきこもり本人の年齢

ひきこもり本人の年齢は図2-14のとおりです。平均年齢34.4歳(35.3歳)であり、最年少が16歳(14歳)、最年長が60歳(59歳)でした(カッコ内は昨年度の値)。

(4) 社会参加や職業について

1. 現在抱えている社会参加に対する困難感

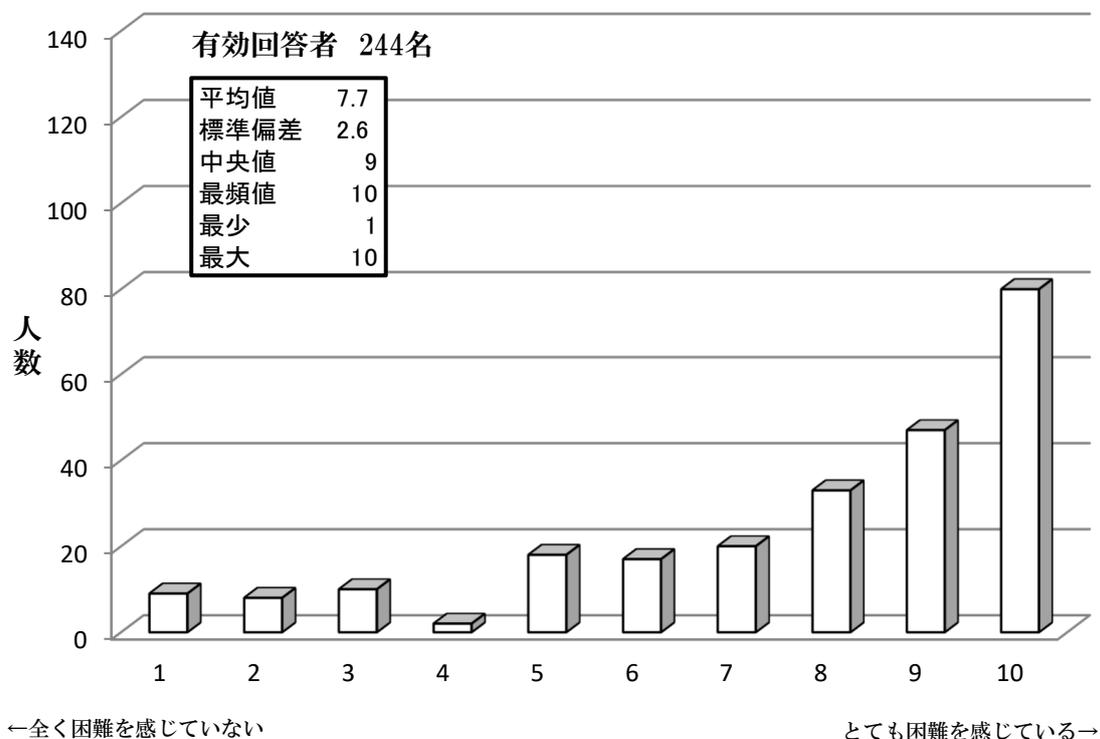


図2-15 社会参加への困難感の程度

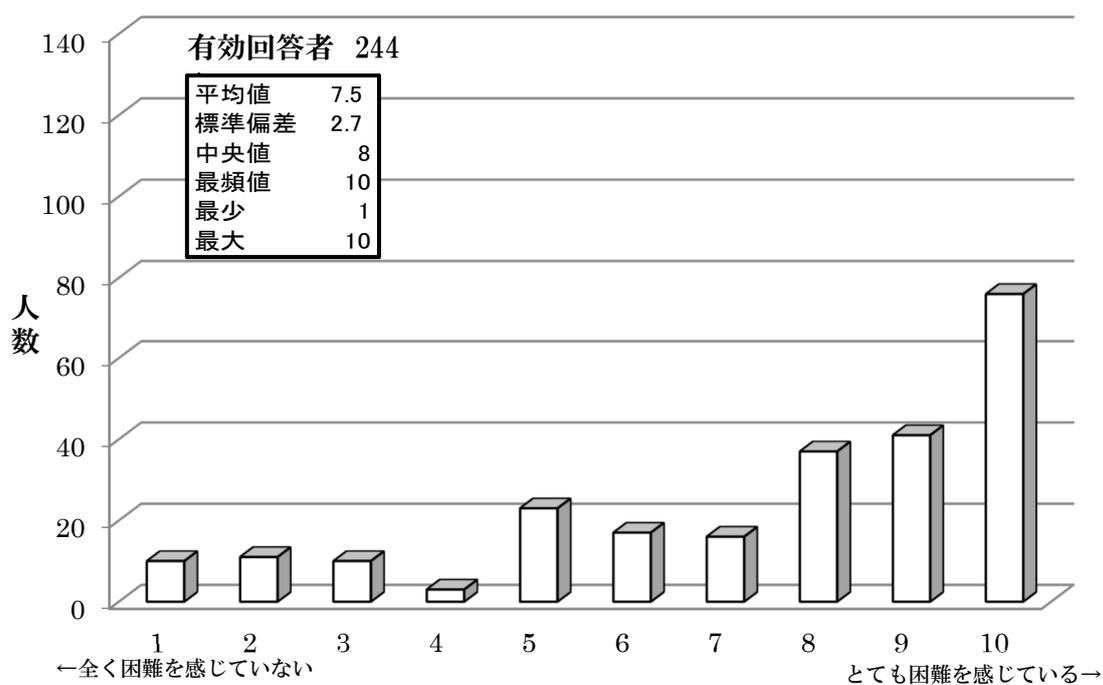


図2-16 社会参加への困難感の程度(コロナ前)

ひきこもり本人が社会参加に対して抱えている困難感の程度を、新型コロナウイルスが蔓延している現在と蔓延化する前について図2-15と図2-16に示しました。平均は現在が7.7、コロナ前が7.5(8.0)でした。どちらも昨年と同様、もっとも多い回答は10段階中10であり、社会参加に対して極めて深刻な困難を感じている方が非常に多いことが分かります。

また、10段階で8以上と回答した方は、現在が65.6%、コロナ前が63.1%(73.6%)とどちらも半数以上を超えました(カッコ内は昨年度の値)。

2. 世帯年収

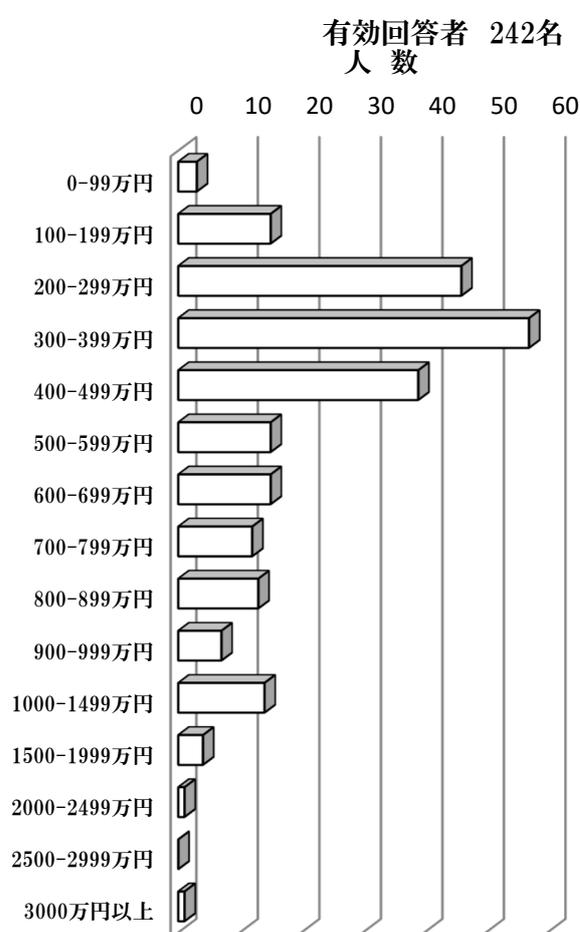


図2-18 昨年の世帯年収(コロナ前)

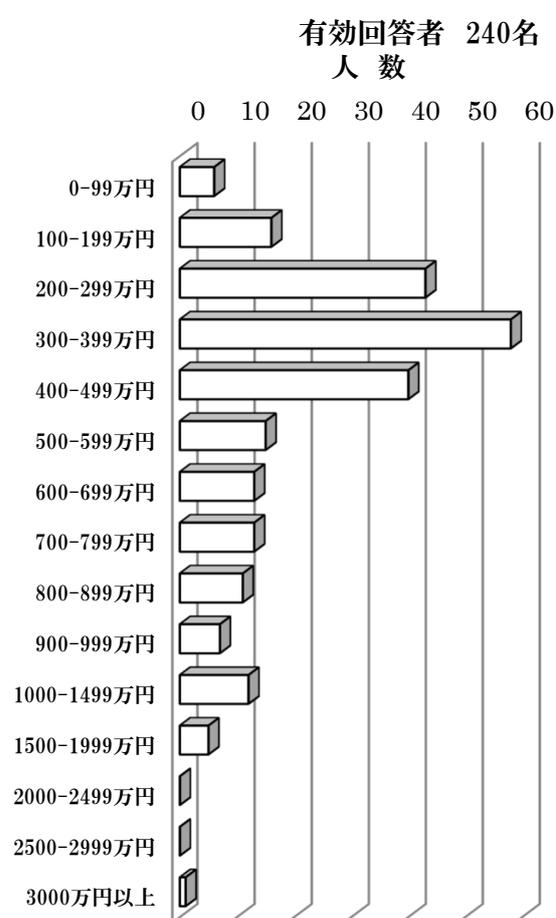


図2-17 昨年の世帯年収

世帯全体の年収について、昨年(2020年)の世帯年収と、新型コロナウイルスが蔓延する前の2019年の世帯年収について、図2-17と図2-18に示しました。どちらも昨年の調査と同様に、もっとも多く得られた回答が300~399万円(300~399万円)でした。次に多く得られた回答は200~299万円(200~

299万円)でした(カッコ内は昨年度の値)。コロナ前と比較しても大きな変化は見られませんでした。

(5) KHJ 家族会について (家族回答者)

1. 家族会への所属

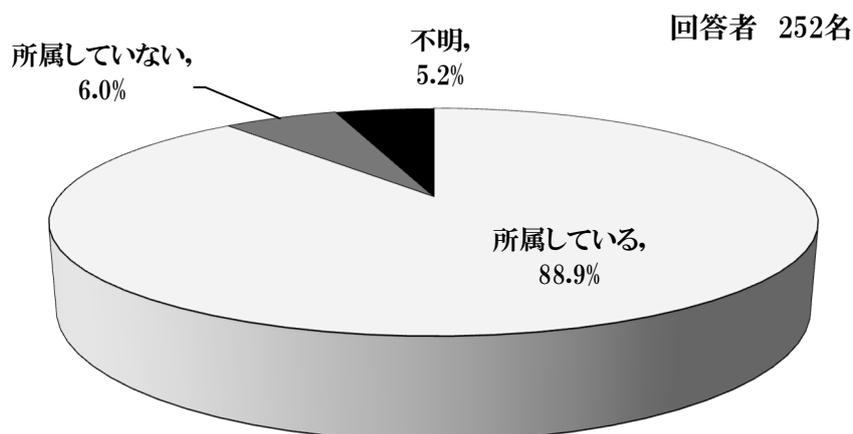


図2-19 家族会への所属

図2-19に家族会への所属の有無について示しました。「所属している」と回答した方が88.9%(87.8%)、「所属していない」と回答した方が6.0%(9.5%)、不明が5.2%(2.7%)でした(カッコ内は昨年度の値)。家族回答者の多くの方が家族会に所属していることが分かります。

2. 家族会の所属支部

表2-2 家族会所属支部

地方	支部名称	人数	地方	支部名称	人数
北海道	KHJ北海道「はまなす」	17	東海地方	KHJ静岡県「いっぶく会」	15
東北地方	NPO法人から・ころセンター	6		NPO法人てくてく	2
	KHJ青森県「さくらの会」	2		豊田・大地の会	4
	KHJいわて石わりの会	2		KHJ三重県「みえオレンジの会」	5
	KHJ秋田ばっけの会	4		KHJ東海NPO法人なでこの会	3
	KHJ福島県花ももの会	1		KHJ岐阜県「岐阜オレンジの会」	1
関東地方	NPO法人KHJとちぎ「ベリー会」	4	近畿地方	KHJ情報センターふきのとう姫路	2
	KHJ群馬県はるかぜの会	12		NPO法人大阪虹の会	9
	KHJ埼玉けやきの会家族会	4		KHJ奈良県わかくさの会	1
	KHJ千葉県なの花会	15	中国地方	NPO法人KHJ岡山きびの会	2
	KHJ西東京「萌の会」	1		KHJ広島もみじの会	8
	グループコスモス	1		KHJ山口県「きらら会」	6
	KHJ町田家族会	1	四国地方	KHJ愛媛県こまどりの会	8
	NPO法人楽の会リーラ	20		KHJ徳島県つばめの会	1
	KHJ山梨県桃の会	1		NPO法人KHJ香川県オリーブの会	7
	KHJ横浜ばらの会	5		KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会	7
北陸地方	KHJ北陸会	1	九州沖縄	KHJみやざき「楠の会」	9
	KHJ長岡フェニックスの会	3		KHJ福岡県「楠の会」	6
	とやま大地の会	4		KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」	4
		104	その他		20
			不明/無所属		28
			合計		252

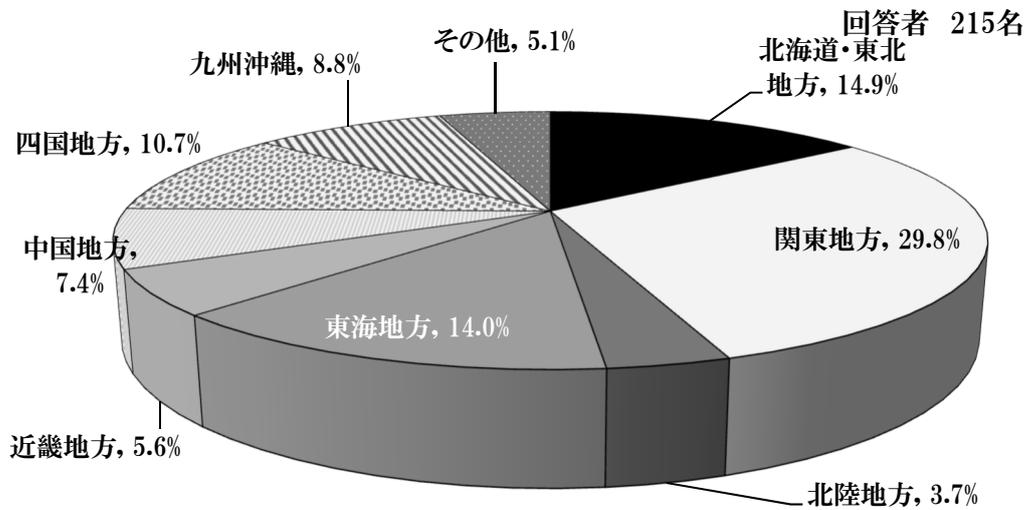


図2-20 家族会所属支部(地方別)

表 2-2 と図 2-20 に家族会に所属していると回答した家族回答者の所属支部について、地方別に示しました。関東地方がもっとも多いことが分かります。次に北海道・東北地方、東海地方、四国地方と多い傾向にありました。

3. 家族会への参加状況

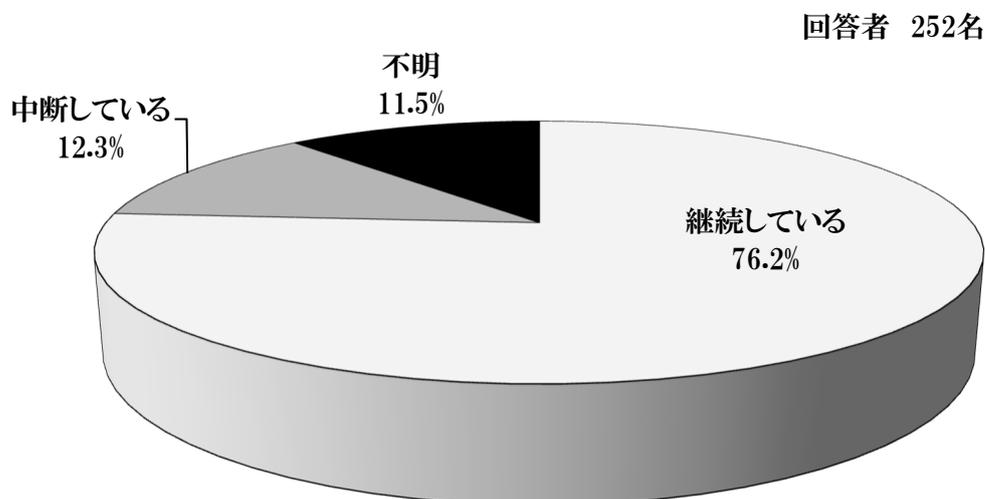


図2-21 家族会への参加状況

図 2-20 に家族会への参加状況について示しました。家族会を「継続している」と回答した方が 76.2% (84.1%)、家族会を「中断している」と回答した方が 12.3% (9.0%)、「不明」が 11.5% (6.9%) でした(カッコ内は昨年度の値)。

4. 家族会への参加回数

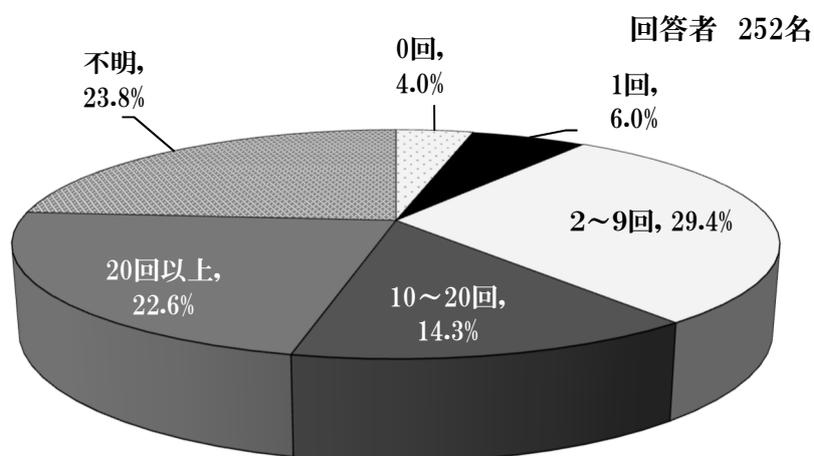


図2-22 家族会への参加回数

家族会への参加回数については、図 2-23 のとおりです。昨年と同様、「2～9回」と回答した方がもっとも多く 29.4% (42.0%) でした。次に「20回以上」と回答した方が多く 22.6% (9.7%) と昨年の値よりも増加しています。次に「10～20回」と回答した方が多く 14.3% (37.0%)、「1回」と回答した方が 6.0% (6.0%)、「0回」と回答した方が 4.0% (5.3%) でした (カッコ内は昨年度の値)。

(6) 新型コロナウイルスの影響

1. 生活状況

ご本人の現在の生活状況を図 2-23、2-24、コロナ以前の生活状況を図 2-25、2-26 に示します。「ときどきある」または「よくある」と回答した人がもっとも多かった項目は「他者と会うことを避ける」(現在 77.8%、コロナ以前 76.7%)、続いて「仕事・学校に行くのを避ける」(現在 71.5%、コロナ以前 73.2%)、「家族に話しかける」(現在 68.4%、コロナ以前 64.1%) であ、もっとも少なかった項目は「他者を遊びに誘う」(現在 8.4%、コロナ以前 9.3%)、続いて「他者と遊びに出掛ける」(現在 13.7%、コロナ以前 15.2%) でした。

また、生活状況の全項目について現在とコロナ以前で比較したところえ、統計的に有意な違いはみられませんでした。

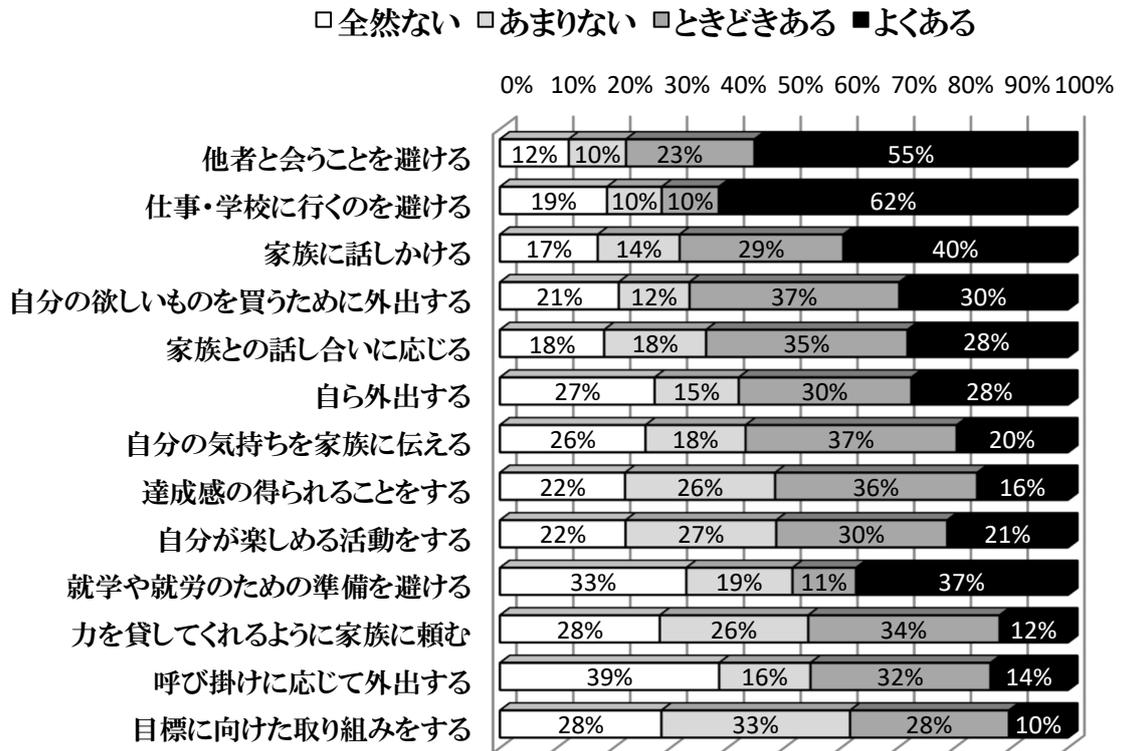


図2-23 現在のご本人の生活状況(1)

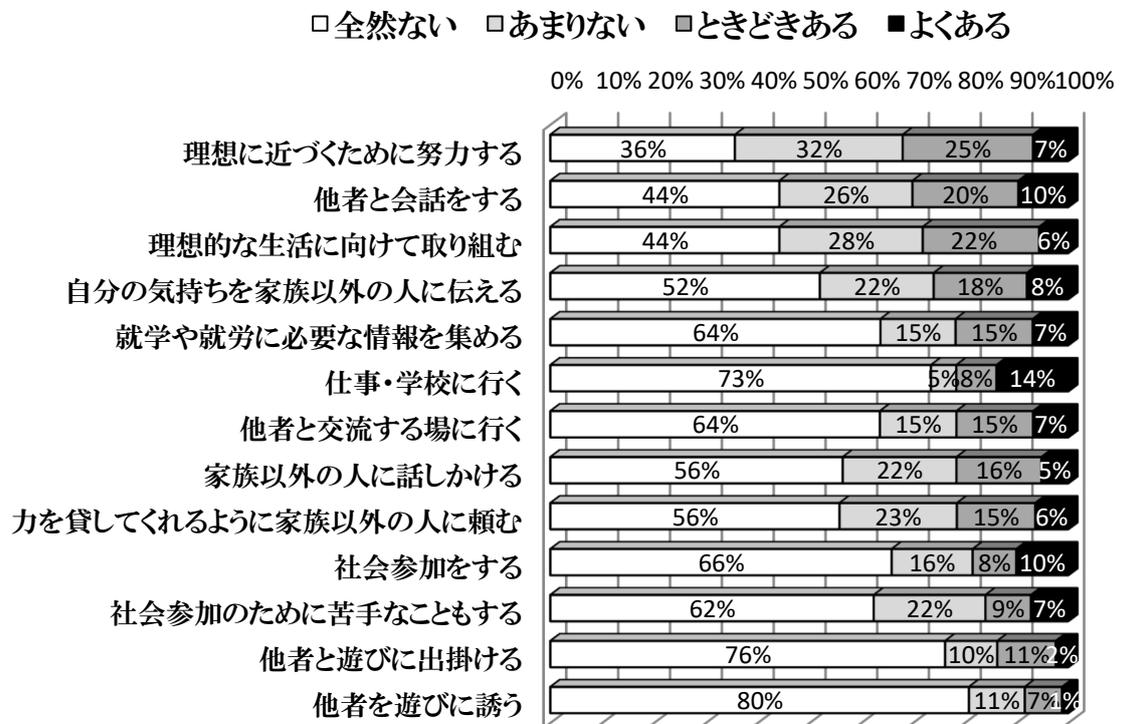


図2-24 現在のご本人の生活状況(2)

□全然ない □あまりない □ときどきある ■よくある

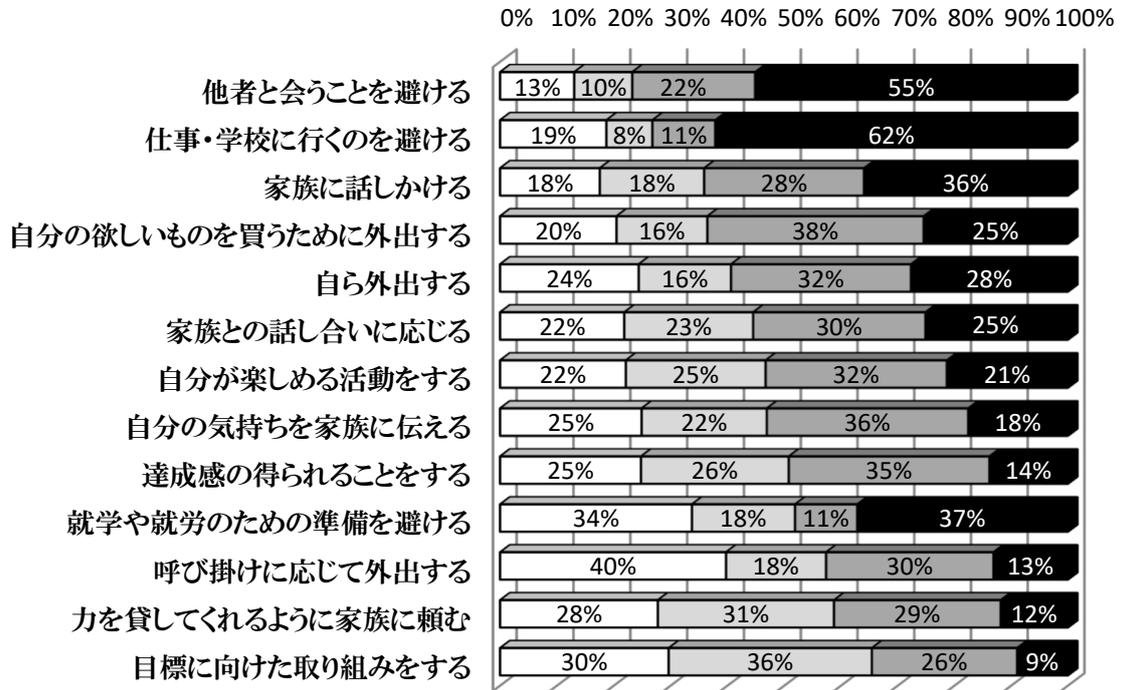


図2-25 コロナ前のご本人の生活状況(1)

□全然ない □あまりない □ときどきある ■よくある

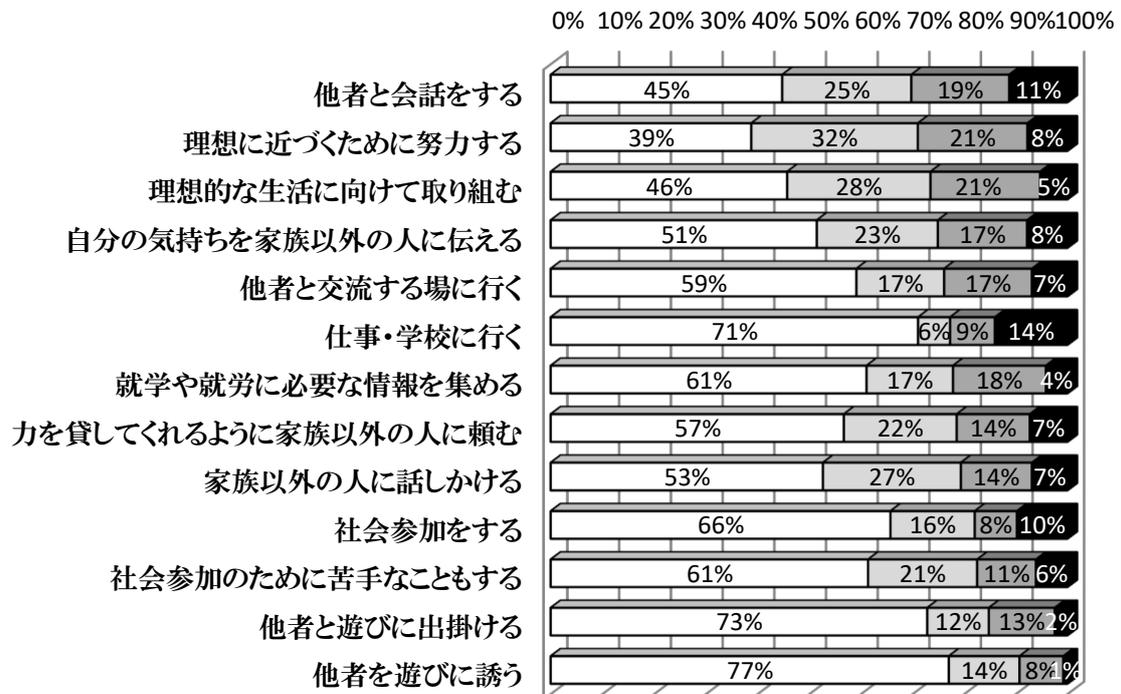


図2-26 コロナ前のご本人の生活状況(2)

2. 主観的幸福感

ご回答者の現在とコロナ以前の主観的幸福感を図 2-27、2-28、2-29、2-30 に示します。「全般的にみて、私は自分のことを（ ）であると考えている」においては「非常に幸福な人間=7」または次に高い「6」と回答した人が現在 27.3%、コロナ以前 25.8%、「わたしは、自分と同年輩の人と比べて、自分を（ ）であると考えている」においては「より幸福な人間=7」または次に高い「6」と回答した人が現在 23.5%、コロナ以前 21.8%、「全般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況の中でも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもちますか？」においては「とてもある=7」または次に高い「6」と回答した人が現在 28.9%、コロナ以前 29.5%であり、約 3 割の人が主観的幸福感が高い回答をしていました。その一方で、「全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもちますか？」においては「とてもある=7」または次に高い「6」と回答した人は現在 9.7%、コロナ以前 8.7%であり、主観的幸福感が低いという回答をした人は 1 割に満たないという結果でした。

また、主観的幸福感の全項目について現在とコロナ以前で比較したところ、統計的に有意な違いはみられませんでした。

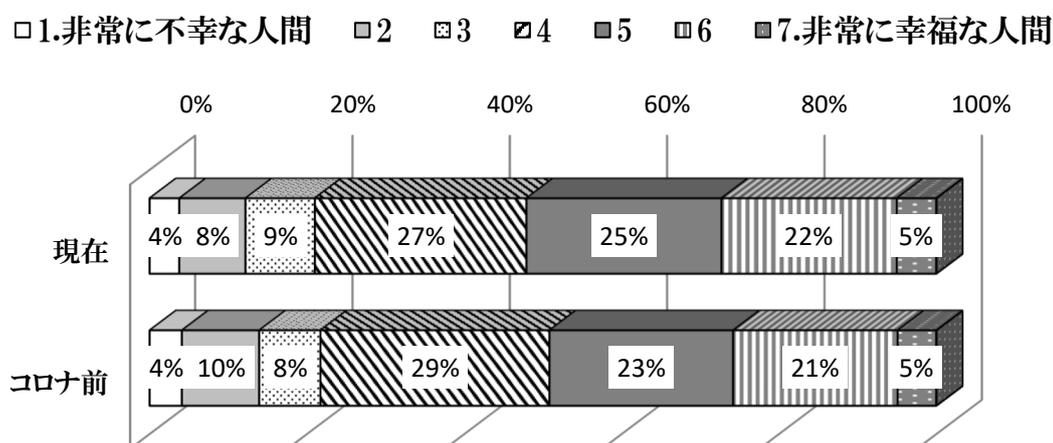


図2-27 全般的にみて、私は自分のことを（ ）であると考えている

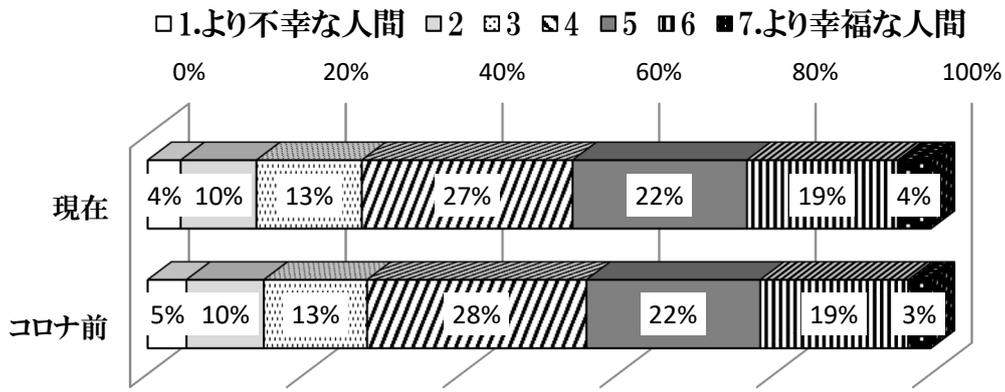


図2-28 わたしは、自分と同年代の人と比べて、自分を()であると考えている

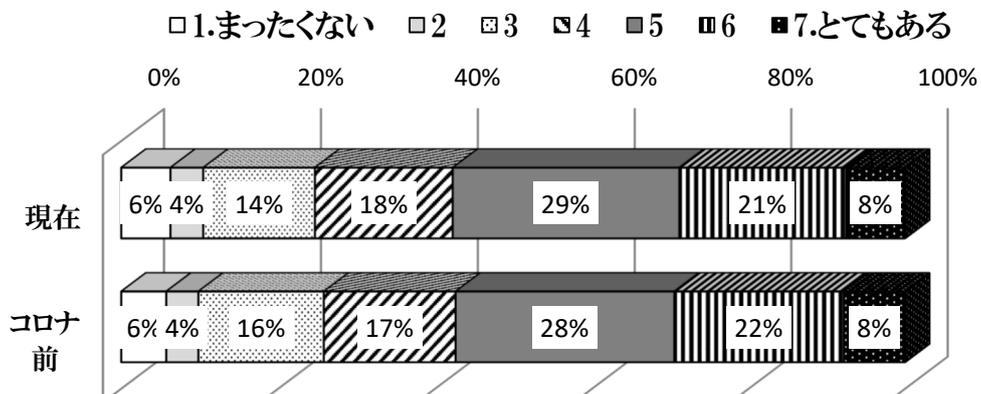


図2-29 全般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況の中でも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？

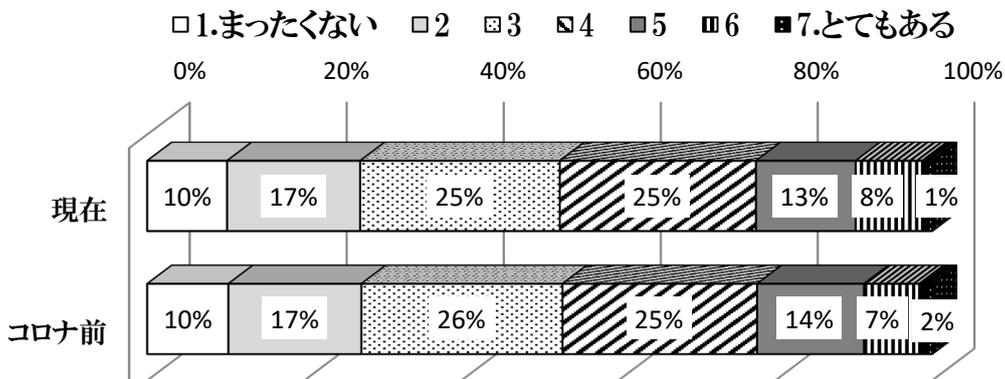


図2-30 全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっていますか？

2. 本人調査

1. 目的

本調査は、新型コロナウイルス蔓延禍における家族会の効果を把握することを目的としています。

2. 調査方法

【 調査対象者 】

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会（以下、「家族会」とする。）の支部が令和2年12月～令和3年1月に開催した月例会において調査を実施するとともに、ウェブ調査を実施しました。その結果、48名の回答が分析に用いられました。

【 調査内容 】（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください。）

（1）基礎情報 本人調査に回答した方（以下、本人回答者）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在のひきこもり状態の有無
- ・過去のひきこもり状態の有無
- ・年齢
- ・性別
- ・本人回答者の住んでいる都道府県
- ・ひきこもりの初発年齢
- ・ひきこもりの期間
- ・現在のひきこもりの程度
- ・1ヶ月の平均外出日数

（2）支援・医療機関について

- ・支援・医療機関の利用状況
- ・支援・医療機関利用の中断

（3）社会参加や職業について

- ・社会参加に関する困難感
- ・世帯全体の年収について

（4）KHJ 家族会について（ご家族）

- ・ 家族会への所属および所属支部
- ・ 家族会への参加状況
- ・ 家族会への参加回数

(5) KHJ 家族会について (本人回答者)

- ・ 家族会への所属および所属支部
- ・ 家族会への参加状況
- ・ 家族会への参加回数

(6) ひきこもり本人の生活状況

- ・ 社会的アイデンティティ
- ・ 現在所属している集団/組織/グループ/団体
- ・ ひきこもる前に所属していた集団/組織/グループ/団体
- ・ ひきこもり始めて以降も所属している集団/組織/グループ/団体
- ・ 新しい集団/組織/グループ/団体
- ・ 帰属意識 (同一化) に関する単項目尺度
- ・ スキーマ (一貫した考え方)
- ・ 孤独感
- ・ 社交不安

【 調査手続き 】

月例会においては、調査の趣旨に関する文書を読んだ上で、調査協力に同意された方がのみが調査用紙に回答をしました。調査の趣旨に関する文書は、調査用紙から切り離して、持ち帰っていただくように依頼しました。回答者には、月例会において調査用紙と返信用封筒を配布し、返信用封筒に入れて郵送にて回収をしました。ウェブ調査においては、**GoogleForm** で作成した調査フォームのリンク情報を各支部にメールで送信し、同意の得られた会員が回答を行いました。

結果

(1) 基礎情報

1. 現在のひきこもり状態の有無

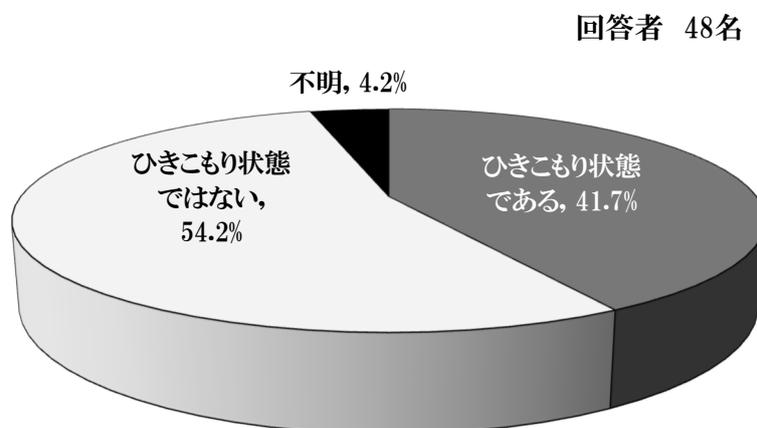


図2-31 ひきこもり状態の有無(現在)

図 2-31 に、本人回答者の現在のひきこもり状態について示しました。現在ひきこもり状態である方が 41.7% (51.5%)、現在ひきこもり状態ではない方が 54.2% (46.5%)、不明が 4.2% (2.0%) でした(カッコ内は昨年度の値)。今年の調査では昨年度の調査と比較して、現在ひきこもり状態である方と現在ひきこもり状態ではない方との割合が逆転しました。

2. 過去のひきこもり状態の有無

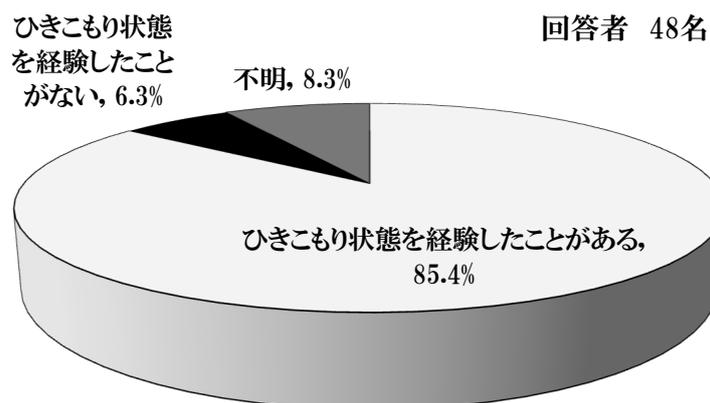


図2-32 ひきこもり状態の有無(過去)

図 2-32 に、本人回答者の過去のひきこもり状態について示しました。過去にひきこもり状態を経験したことがある方が 85.4% (79.2%)、過去にひきこ

もり状態を経験したことがない方が 6.3% (12.9%)、不明が 8.3% (7.9%)
 でした (カッコ内は昨年度の値)。

3. 年齢

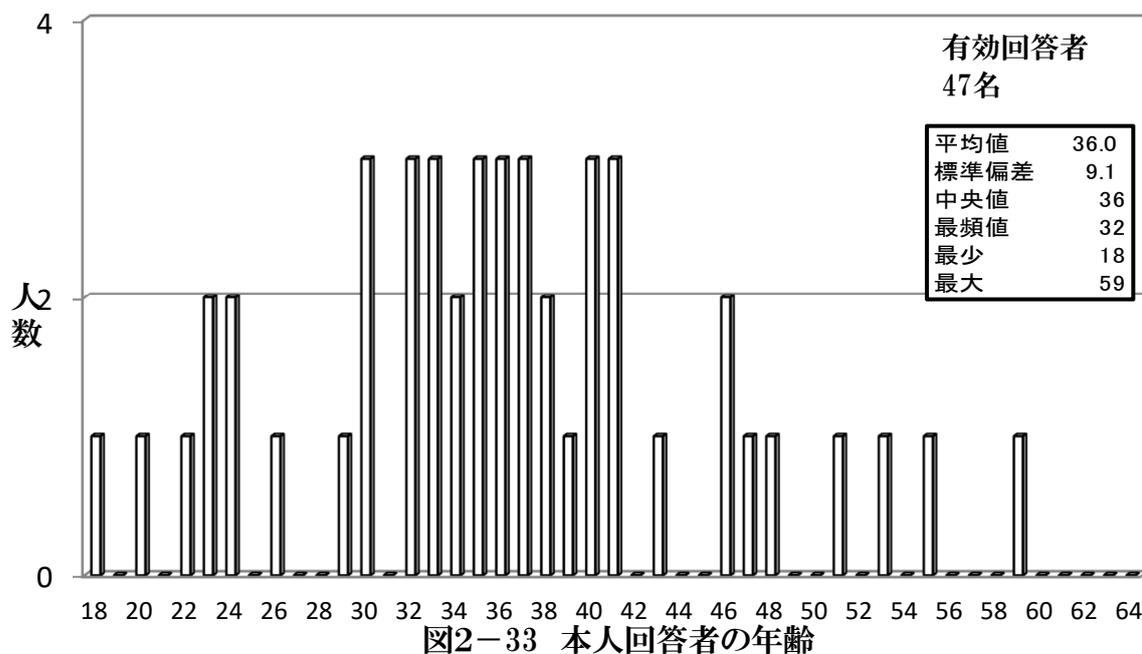


図2-33のとおり、本人回答者の平均年齢は 36 ± 9.1 歳 (35.8 ± 10.3 歳) であり、最年少が 18 歳 (18 歳)、最年長が 59 歳 (64 歳) でした (カッコ内は昨年度の値)。

4. 性別

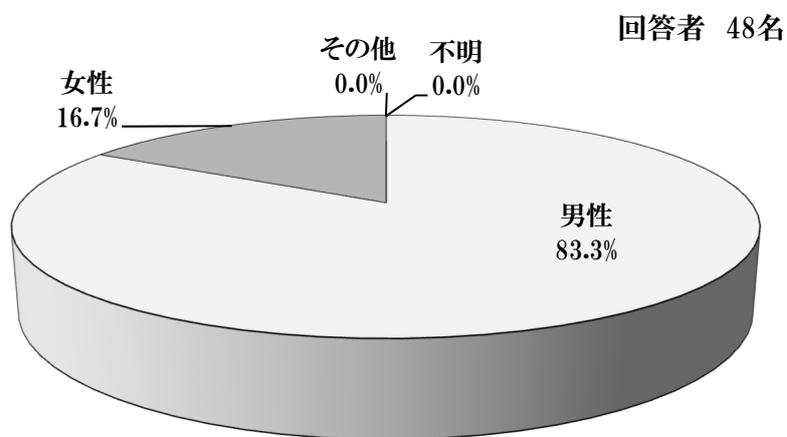


図 2-34 に本人回答者の性別を示しました。男性が 83.3% (69.3%)、女性が 16.7% (26.7%)、その他が 0% (2.0%)、不明が 0% (2.0%) でした (カッコ内は昨年度の値)。昨年度の調査よりも、男性回答者の割合が増えています。

5. 本人回答者の住んでいる都道府県

表 2-3 本人回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道	北海道	2	近畿地方	三重県	5
	東北地方	2		大阪府	1
関東地方	宮城県	1		兵庫県	1
	山形県	3	中国地方	山口県	1
	栃木県	2	四国地方	徳島県	4
	群馬県	1	香川県	1	
	千葉県	1	高知県	1	
	東京都	3	九州地方	福岡県	1
中部地方	神奈川県	1	大分県	1	
	新潟県	3	宮崎県	1	
	富山県	1	沖縄県	2	
	石川県	2	不明	1	
	山梨県	2	合計	48	
	静岡県	1			
	愛知県	3			

表 2-3 に示したとおり、本人回答者が住んでいる場所は 26 都道府県 (29 都道府県) に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が 16.7% (11.9%)、関東地方が 16.7% (30.7%)、中部地方が 25% (17.8%)、近畿地方が 14.6% (14.9%)、中国地方が 2.1% (11.9%)、四国地方が 12.5% (4.0%)、九州地方が 10.4% (5.0%) となっています (カッコ内は昨年度の値)。

6. ひきこもりの初発年齢

図 2-35 のとおり、ひきこもりが始まった時期の平均年齢は、20.7 歳 (19.7 歳)、最年少が 10 歳 (9 歳)、最年長が 54 歳 (36 歳) でした (カッコ内は昨年度の値)。昨年度の調査と同様に、20 歳未満でひきこもり状態となった方が多く見られました。

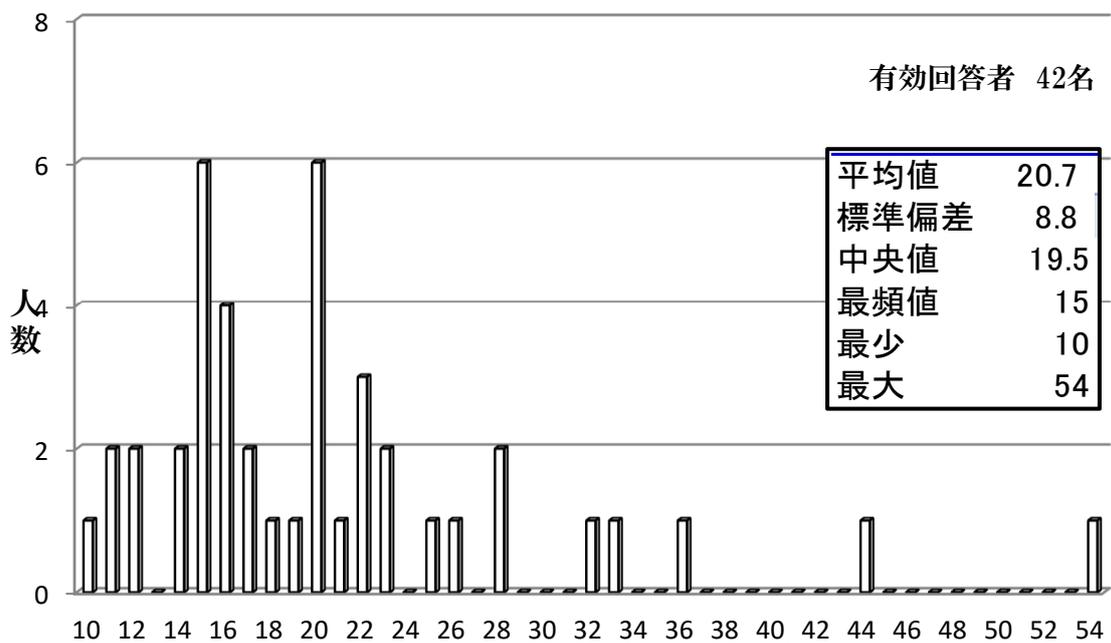


図2-35 ひきこもり初発年齢

7. ひきこもりの期間

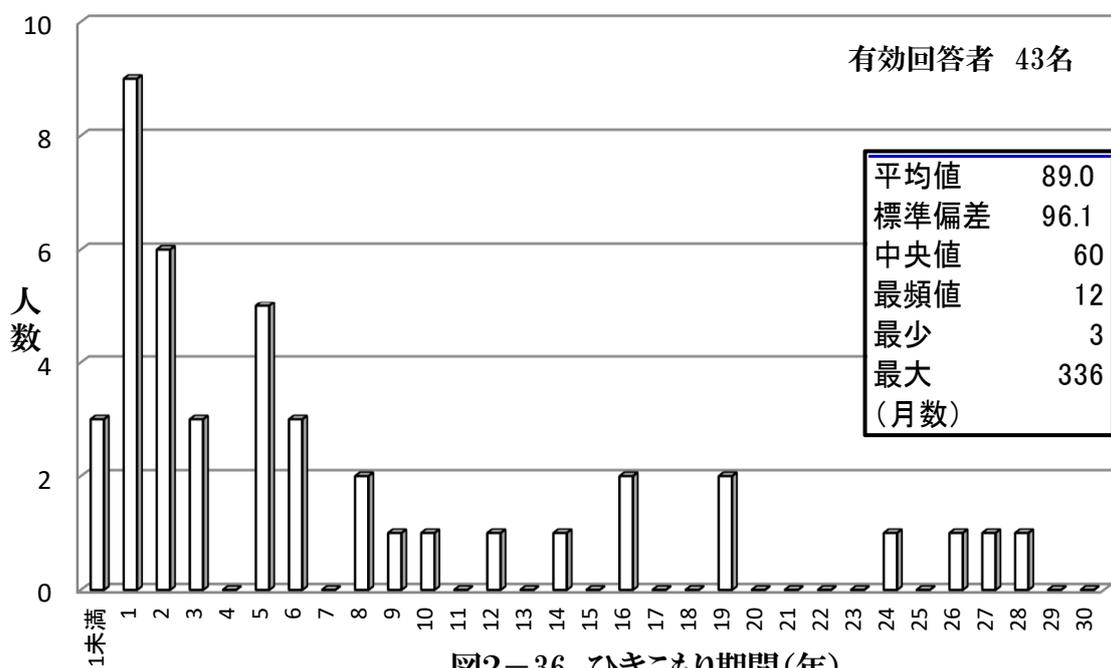


図2-36 ひきこもり期間(年)

図2-36に示したひきこもり期間は、平均7.4年（平均7.8年）、最小が3ヶ月（3ヶ月）、最大は28年（30年）でした（カッコ内は昨年度の値）。

8. 現在のひきこもりの程度

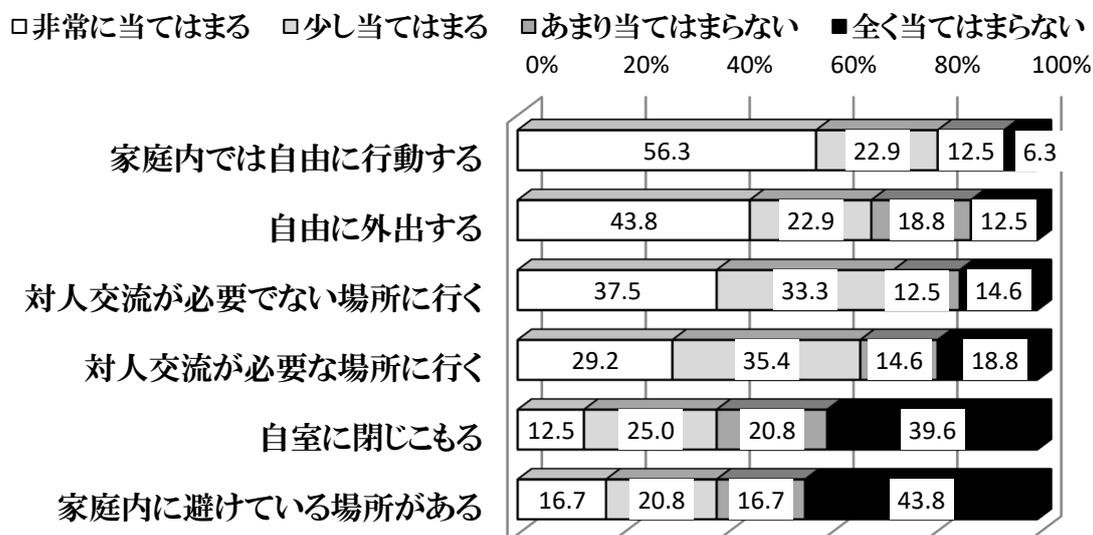


図2-37 ひきこもりの程度

図2-37にひきこもりの程度について示しました。「家庭内では自由に行動する」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した方が79.2%（89.1%）ともっとも多い結果となりました。

次に、「対人交流が必要でない場所に行く」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した人が多く、70.8%（66.3%）でした。「自由に外出する」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した方が多く、66.7%（70.3%）でした。

また、「対人交流が必要な場所に行く」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した方は64.6%（62.4%）でした。「自室に閉じこもる」および「家庭内に避けている場所がある」について「非常に当てはまる」もしくは「少し当てはまる」と回答した方は、どちらも37.5%（36.6%、31.7%）となりました（カッコ内は昨年度の値）。

9. 1ヶ月の平均外出日数

図2-38に、本人回答者の1ヶ月の平均外出日数について示しました。「毎日」外出している場合、「31日」外出している場合は、「30日」として示しました。外出日数の平均は15.3日（16.3日）でした。最少は0日（0日）、最大は30日（30日）とどちらも昨年度の調査と同様の値でした。（カッコ内は昨年度の値）。

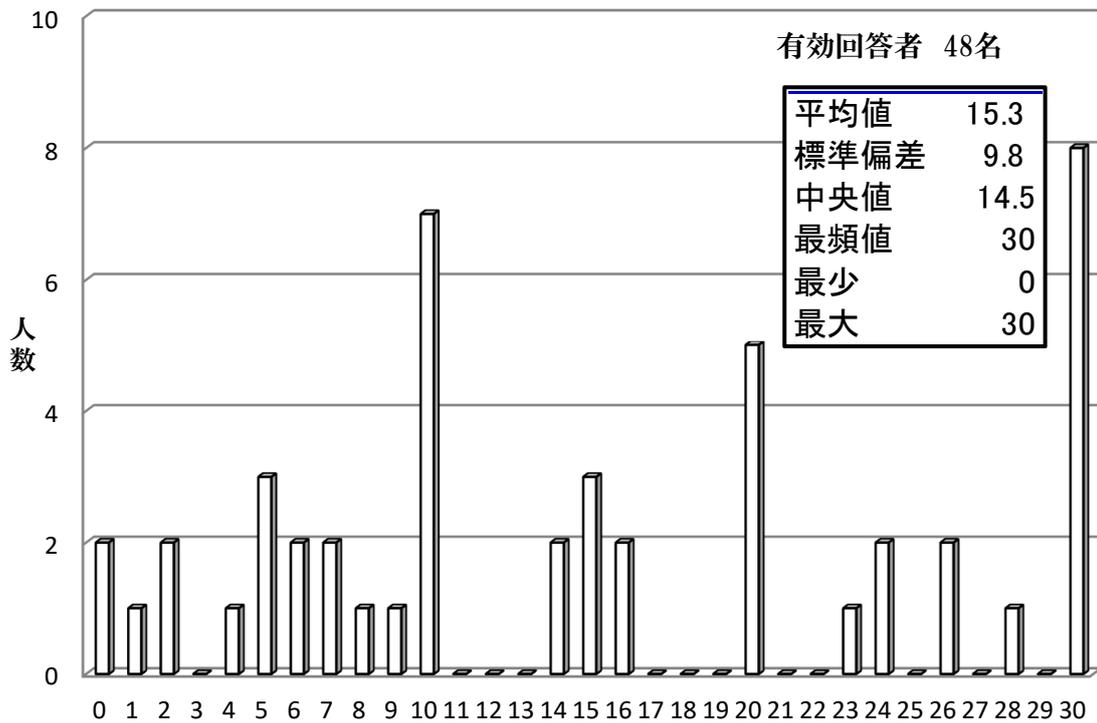


図2-38 本人回答者の1ヶ月の平均外出日数

(2) 支援・医療機関について
1. 支援・医療機関の利用状況

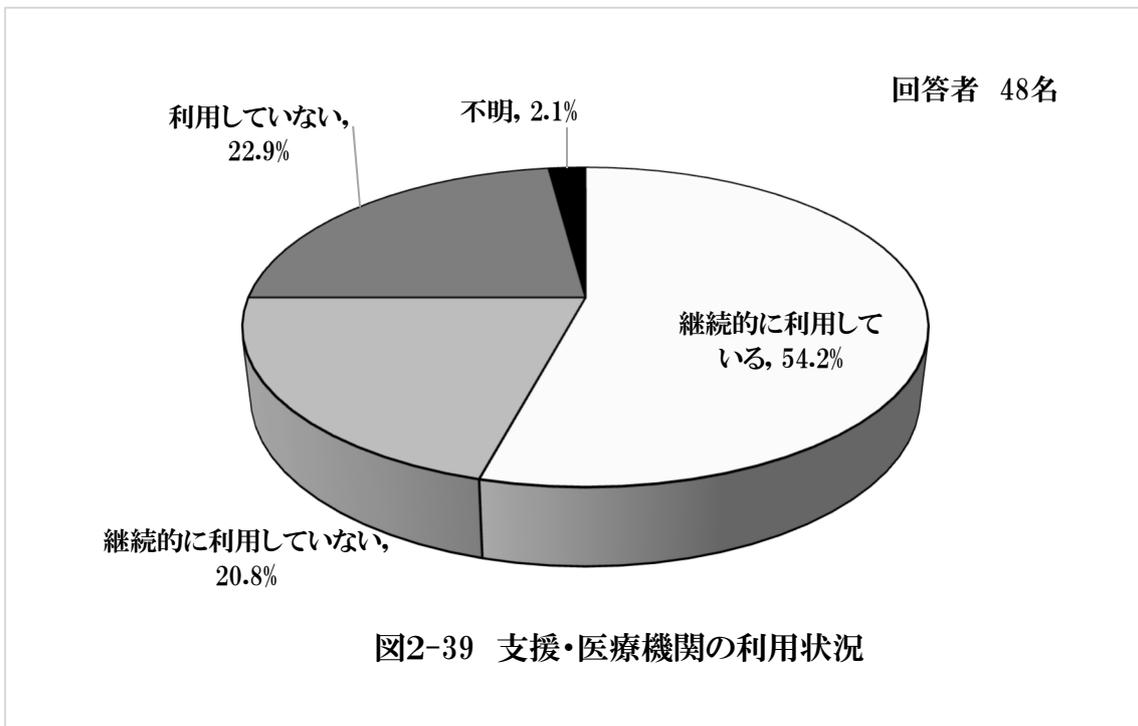


図2-39 支援・医療機関の利用状況

図2-39のとおり、支援・医療機関を継続的に利用している人が54.2% (46.5%)、利用したことがあるが継続的ではない人が20.8% (27.7%)、利用していない人が22.9% (21.8%)、不明が2.1% (4.0%)でした(カッコ内は昨年度の値)。

2. 支援・医療機関利用の中断

回答者 48名

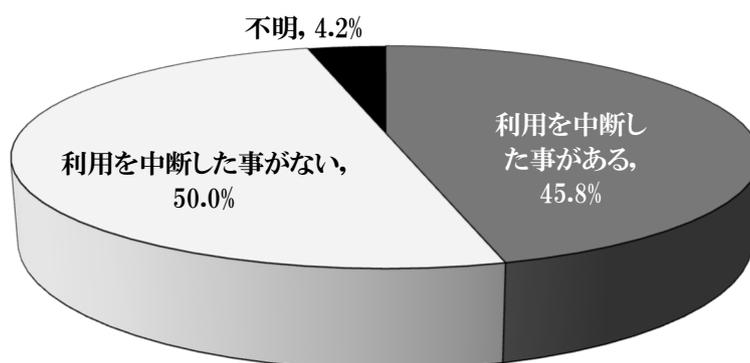


図2-40 支援・医療機関利用の中断

図2-40に支援・医療機関の利用を中断したことがあるかどうかについて示しました。支援・医療機関を利用したことがある人のうち、「支援・医療機関の利用を中断したことがある」と回答した方は45.8% (46.5%)、「支援・医療機関の利用を中断したことがない」と回答した方は50.0% (40.6%)、不明が4.2% (12.9%)でした(カッコ内は昨年度の値)。

(2) 社会参加や職業について

1. 社会参加に対する困難感

図2-41に社会参加に対する困難感について示しました。平均は10段階で7.1 (7.5)でした。3以下と回答した人は14.9% (11.3%)にとどまり、その一方で8以上と回答した人は51.1% (56.7%)でした(カッコ内は昨年度の値)。また、新型コロナウイルスが蔓延する2020年1月1日以前には、どの程度社会参加に対して困難感を抱いていたかについて、図2-42に示しました。平均は7.0でした。3以下と回答した人は19.1%、8以上と回答した人は51.1%でした。新型コロナウイルスが蔓延する前と現在とでは、社会参加に対する困難感にほとんど差は見られませんでした。

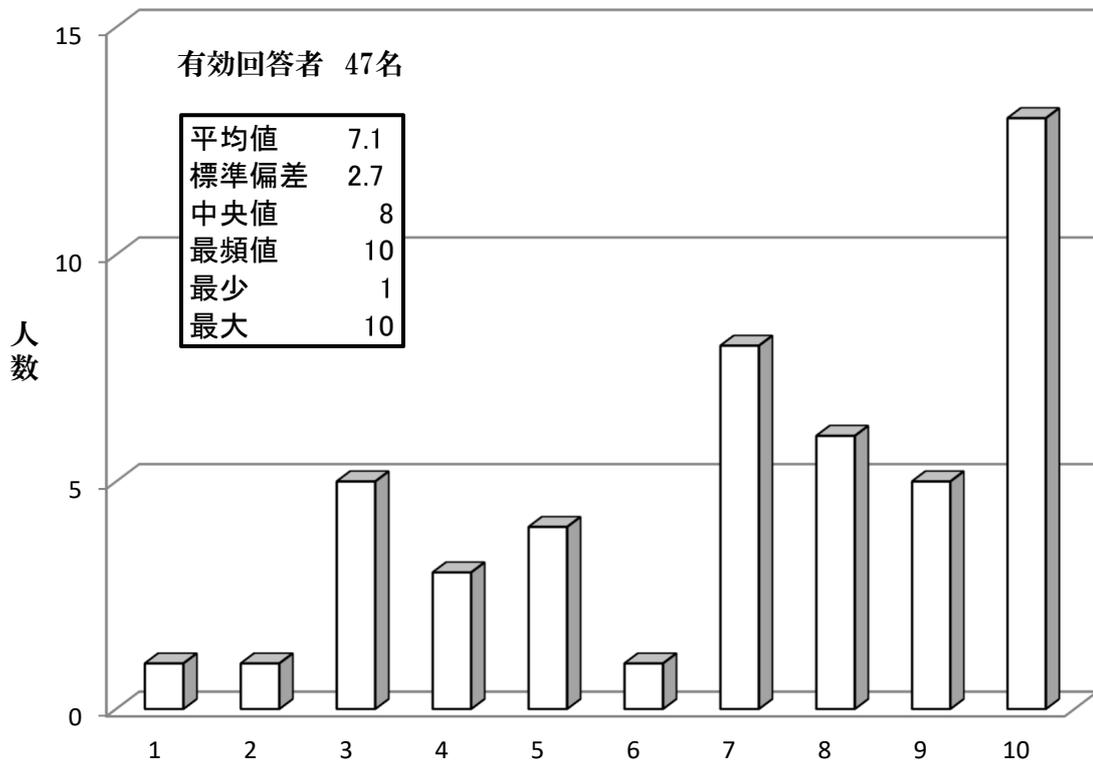


図2-41 社会参加への困難感の程度(現在)

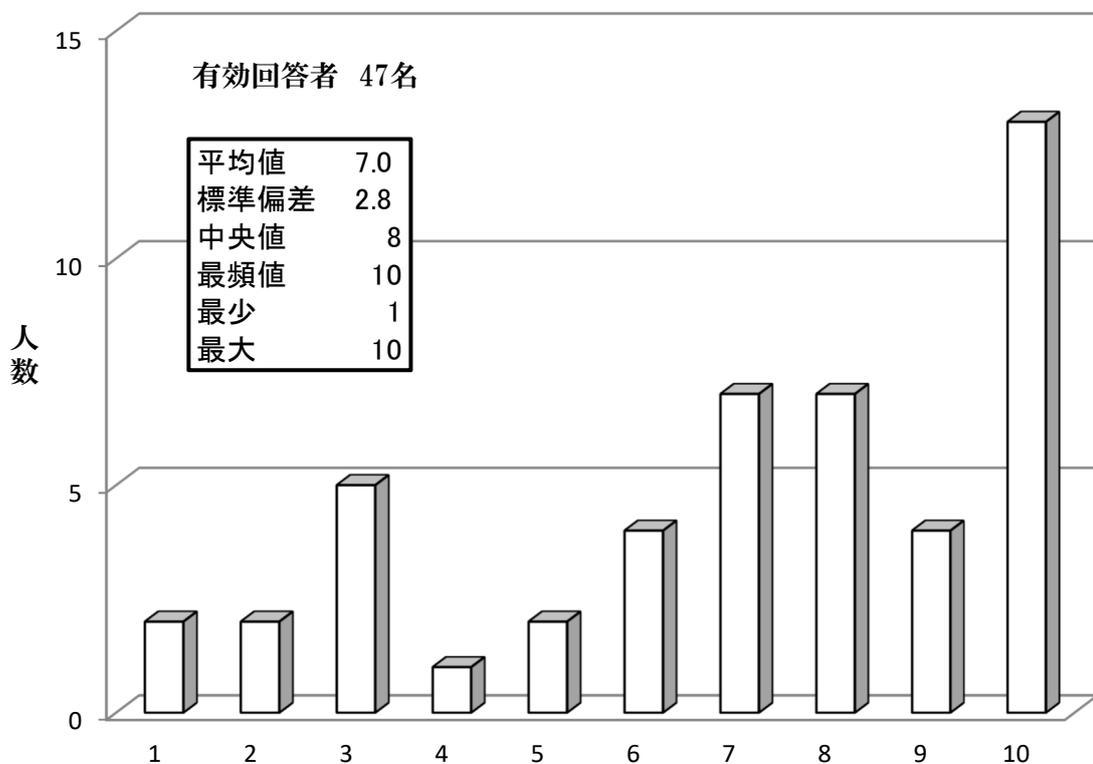


図2-42 社会参加への困難感の程度(コロナ前)

2. 世帯全体の年収について

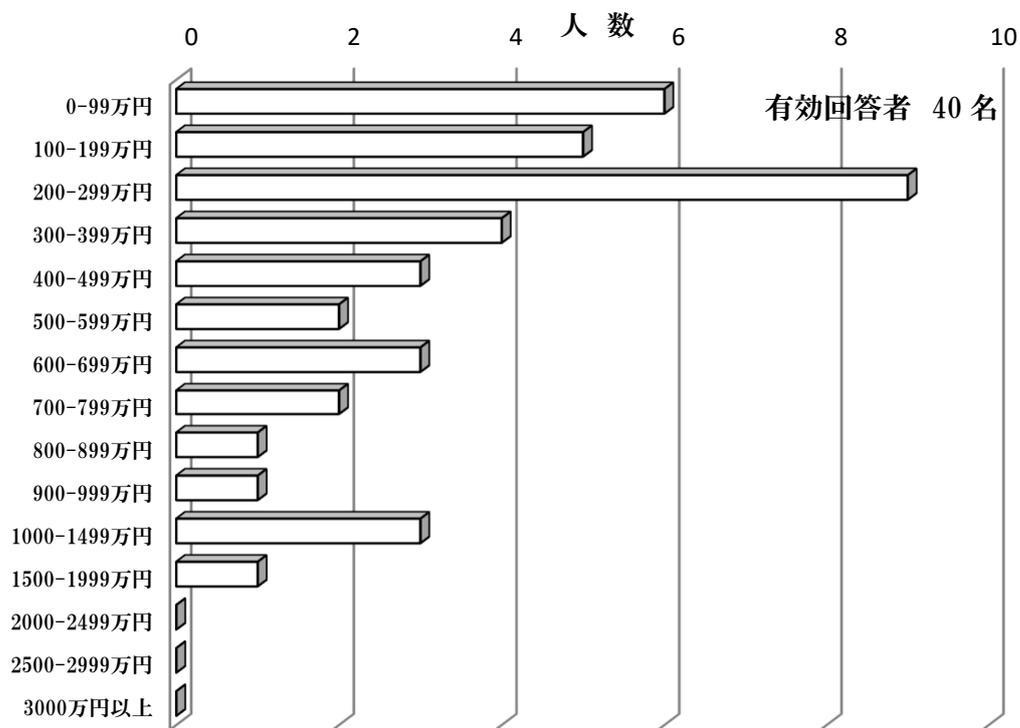


図2-43 昨年の世帯全体年収

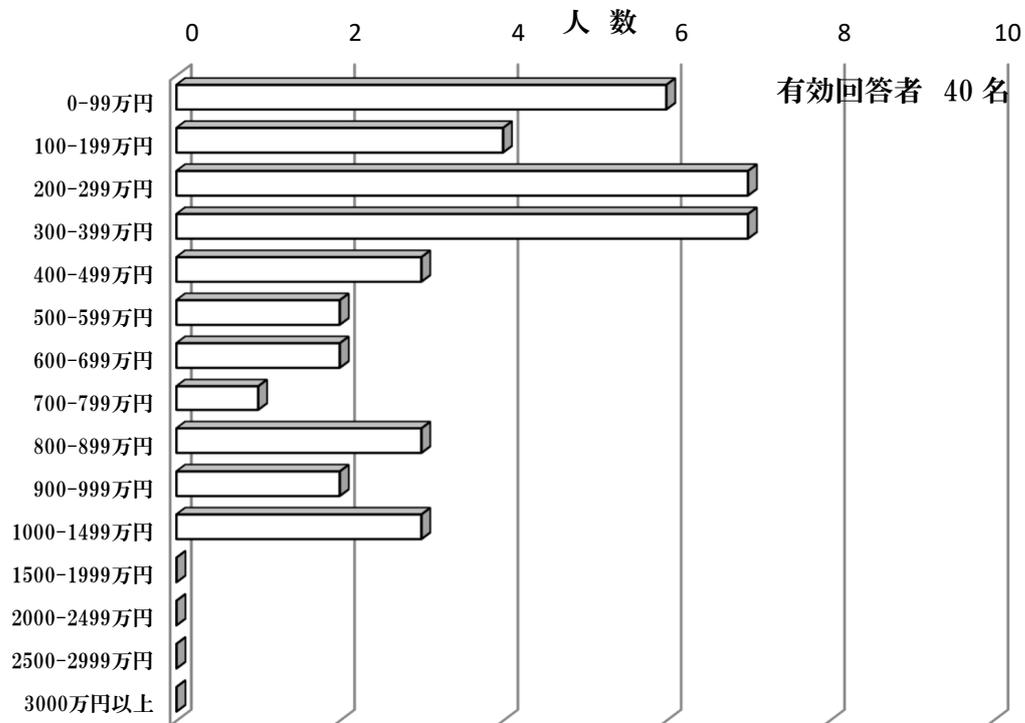


図2-44 2019年の世帯全体年収(コロナ前)

図2-43に2020年の世帯全体の年収について示しました。昨年度の調査では、0～99万円と回答した方がもっとも多く、次に200～299万円と回答した方が多く見られましたが、今回の調査では、200～299万円と回答した方がもっとも多く、次に0～99万円と回答した方が多い結果となりました。

さらに、新型コロナウイルスが蔓延する前の2019年の世帯全体の年収について得られた回答を図2-44に示しました。新型コロナウイルスが蔓延する前の2019年の世帯全体の年収図2-44と比較して、2020年の世帯全体の年収図2-43では、299万円以下と回答した方が増加し、300～399万円以上と回答した方が減っていました。

(4) KHJ家族会について(ご家族)

1. 家族会への所属および所属支部

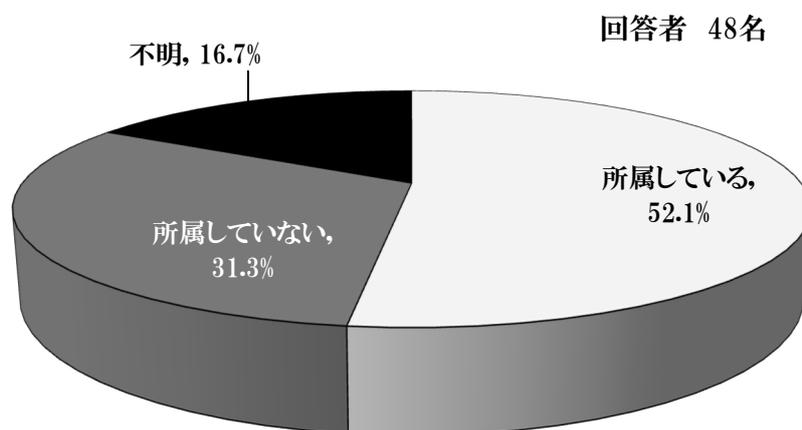


図2-45 家族会への所属(家族)

図2-45に本人回答者のご家族が家族会に所属しているかについて示しました。ご家族が家族会に「所属している」と回答した方が52.1%、「所属していない」と回答した方が31.3%、不明が16.7%でした。

表2-4 家族会所属支部(ご家族)

地方	支部名称	人数	地方	支部名称	人数
北海道	NPO法人から・ころセンター	2	近畿地方	兵庫県中央支部 ひまわりの家家族会	1
東北地方	KHJ青森県「さくらの会」	1		NPO法人大阪虹の会	1
関東地方	NPO法人KHJとちぎ「ベリー会」	1	中国地方	KHJ山口県「きらら会」	1
	KHJ千葉県なの花会	1	四国地方	NPO法人KHJ香川県オーリーブの会	1
	NPO法人楽の会リーラ	2	九州沖縄	KHJ福岡県「楠の会」	1
	KHJ山梨県桃の会	1		KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」	3
北陸地方	KHJ長岡フェニックスの会	2	その他	(いばとく)	1
東海地方	豊田・大地の会	2	不明/無所属		24
	KHJ三重県「みえオレンジの会」	2			
	KHJ東海NPO法人なでしこの会	1			

15

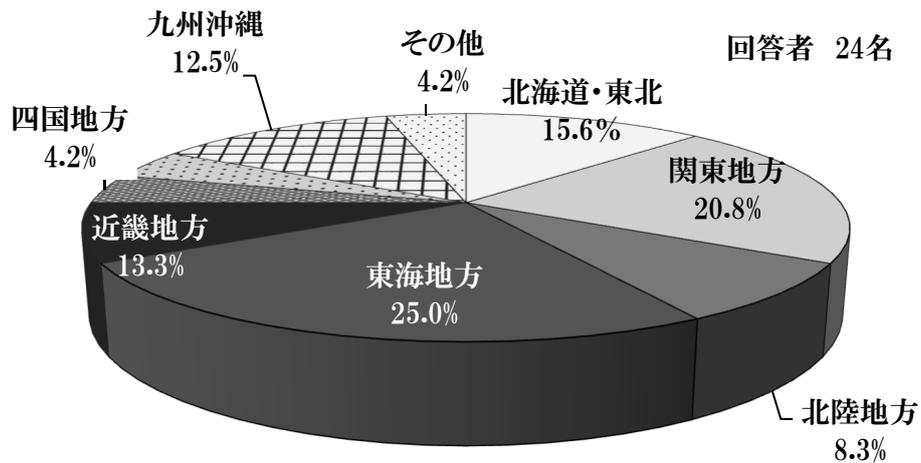


図2-46 家族の家族会所属支部(地方別)

さらに、ご家族が所属している家族会支部の詳細を表2-4と図2-46に示しています。

2. 家族会への参加状況

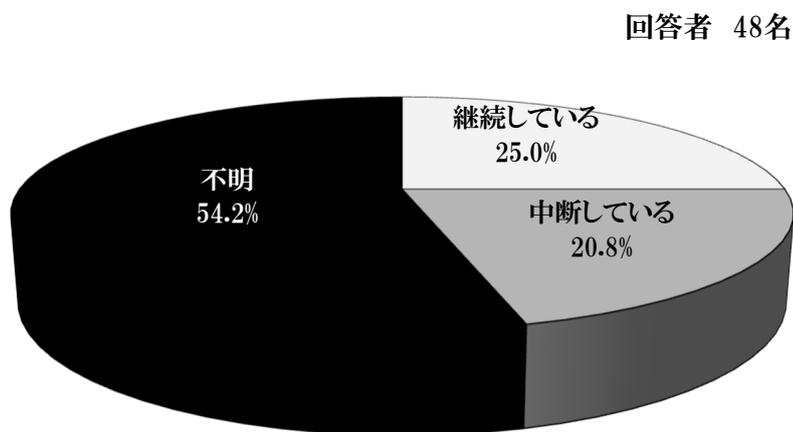


図2-47 家族会への参加状況(家族)

ご家族の家族会への参加状況を図2-47に示しました。ご家族は家族会への参加を「継続している」と回答した方が25%、「中断している」と回答した方が20.8%、不明が54.2%でした。不明と回答した方が半数以上おり、ご家族と家族会について会話をすることは少ないのかもしれませんが。

3. 家族会への参加回数

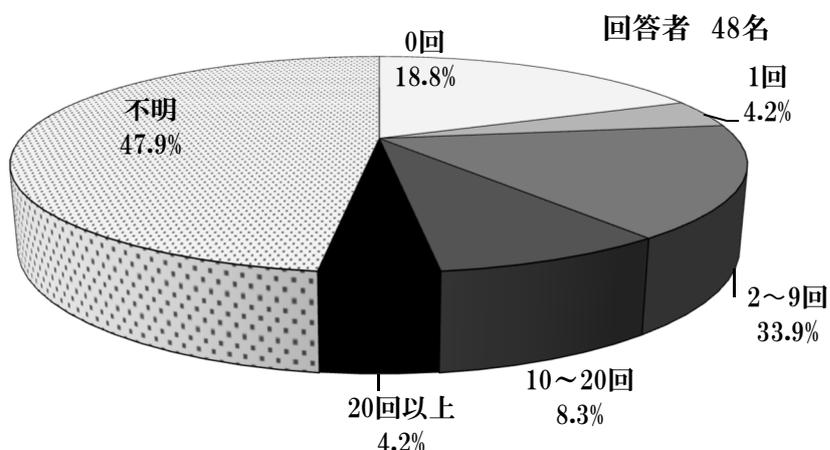


図2-48 家族会への参加回数(家族)

図2-48にご家族の家族会への参加回数について示しました。「2~9回」と回答した方がもっとも多く33.9%でした。次に「0回」と回答した方が多く18.8%でした。また、「10~20回」と回答した方が8.3%、「1回」と回答した方が4.2%、「20回以上」と回答した方が4.2%、不明が47.9%でした。こちらも不明と回答した方が目立ちました。

(5) KHJ家族会について(本人回答者)

1. 家族会への所属および所属支部

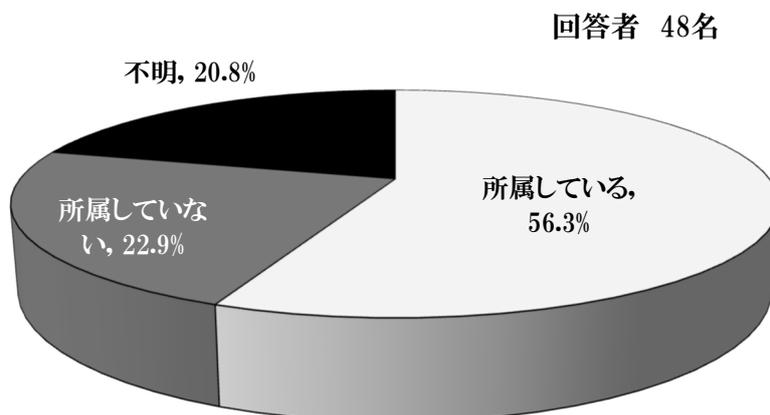


図2-49 家族会への所属(本人)

図2-49に家族会への所属の有無について示しました。「所属している」と回答した方が56.3%(41.6%)、「所属していない」と回答した方が22.9%(50.5%)、不明が20.8%(7.9%)でした。昨年度の値と比較すると、「所属していない」と回答した方の値は大幅に低くなっています(カッコ内は昨年度の値)。

表2-5 家族会所属支部(本人)

地方	支部名称	人数	地方	支部名称	人数
東北地方	NPO法人から・ころセンター	2	近畿地方	兵庫県宍粟支部 ひまわりの家家族会	1
	KHJ青森県「さくらの会」	2		NPO法人大阪虹の会	1
	KHJ石巻まきっこの会	1	四国地方	KHJ徳島県つばめの会	1
関東地方	NPO法人KHJとちぎ「ベリー会」	1	NPO法人KHJ香川県オリーブの会	1	
	KHJ千葉県なの花会	1	KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会	1	
	NPO法人楽の会リーラ	1	九州沖縄	KHJ福岡県「楠の会」	1
	KHJ山梨県桃の会	1	KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」	1	
北陸地方	KHJ北陸会	2	その他	(練馬灯火、いばとく)	2
	KHJ長岡フェニックスの会	2	合計		27
東海地方	KHJ静岡県「いっぶく会」	1			
	豊田・大地の会	2			
近畿地方	KHJ三重県「みえオレンジの会」	1			
	KHJ東海NPO法人なでしこの会	1			

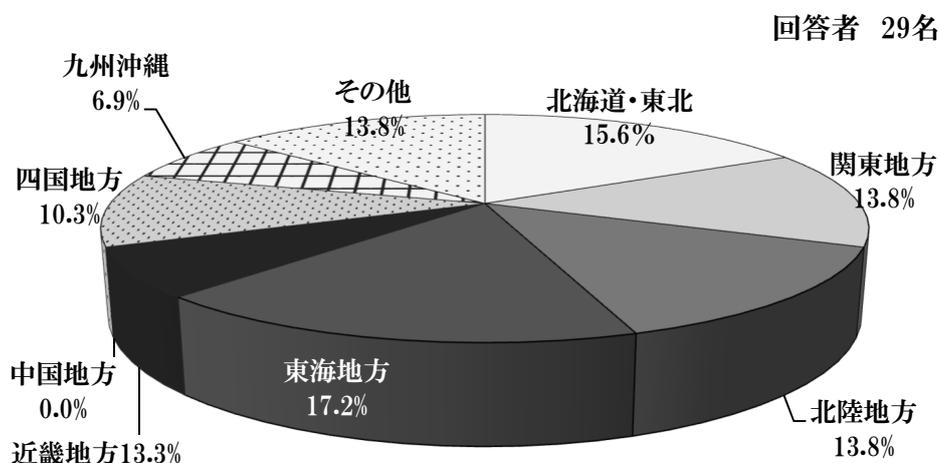


図2-50 本人回答者の家族会所属支部(地方別)

図2-50に本人回答者の家族会所属支部を地方別に示しました。今年度の調査では、東海地方の支部より、もっとも多く回答が得られました。北海道・東北地方・関東地方および北陸地方の支部からも、多くの回答が得られました。

3. 家族会への参加状況

図2-51に家族会への参加状況について示しました。家族会に所属している回答者のうち、家族会を継続していると回答した方が31.3% (72.0%)、家族会を中断していると回答した方が14.6% (20.0%) でした(カッコ内は昨年度の値)。昨年度の調査と比較すると、家族会への参加を継続していると回答した方の値は大幅に低くなっています。

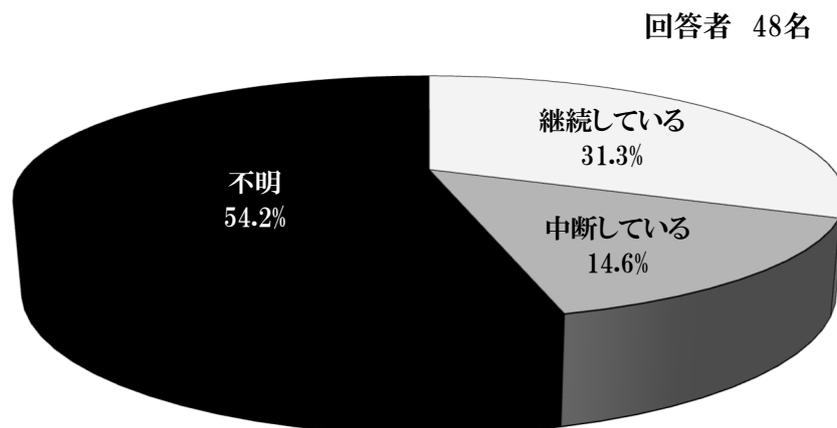


図2-51 家族会への参加状況(本人)

4. 家族会への参加回数

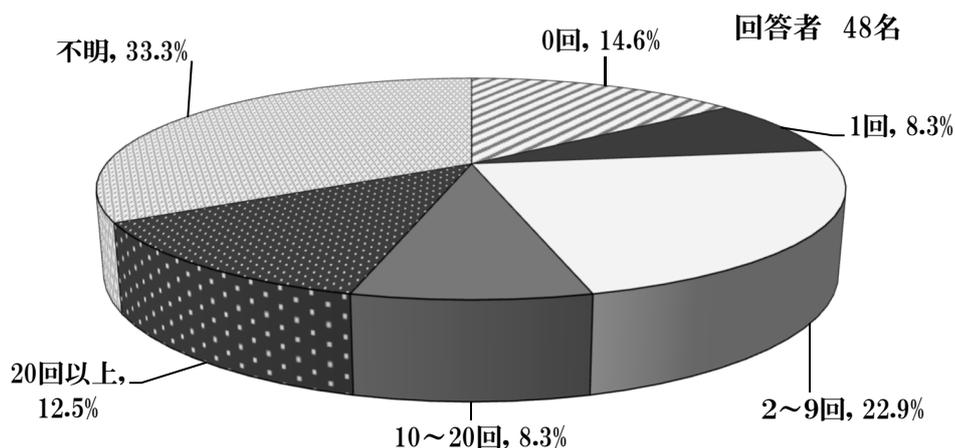


図2-52 家族会への参加回数(本人)

図2-52に家族会への参加回数について示しました。回答が得られた方のうち、昨年度の調査と同様に、2～9回と回答した方が最も多く22.9% (33.9%) でした。次に一度も家族会に参加したことがないと回答した方が14.6% (28.8%)、20回以上と回答した方が12.5% (10.2%) でした。10～20回程度と回答した方、また1回と回答した方がどちらも8.3% (20.3%) でした(カッコ内は昨年度の値)。

1. ひきこもり本人の生活状況

(1) 社会的アイデンティティ

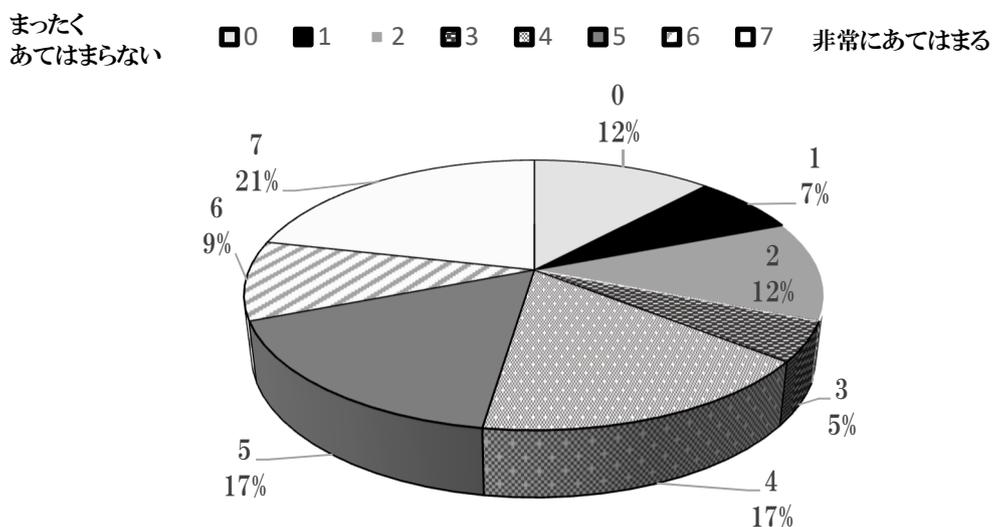


図2-53 私は自分がひきこもりであると考えている (回答者42名)

図2-53は、本人はどの程度自分がひきこもりであると考えているかについての結果を示しました。自分自身が引きこもりであると強く自覚している方は21%であったのに対し、全くそうではないと考えている方は12%でした。また、26%の方は自分自身が引きこもる傾向にあると考えているのに対して、そうではない傾向にあると考える方は19%でした。最後に、どちらでもないと考えている方は17%でした。

(2) 現在所属している集団／組織／グループ／団体

図2-54は、現在所属している集団／組織／グループ／団体について示した結果です。複数のグループや団体に所属し、かつ友人を持つ方はそれぞれわずか10%程度でした。また、それらのグループや団体の活動に参加する方は約15%でした。一方、約40%の方は複数のグループや団体にまったく属さず、関連した活動にまったく参加しないことがわかりました。さらに、これらのグループや団体と強いつながりを持たない方は50%にも達しました。

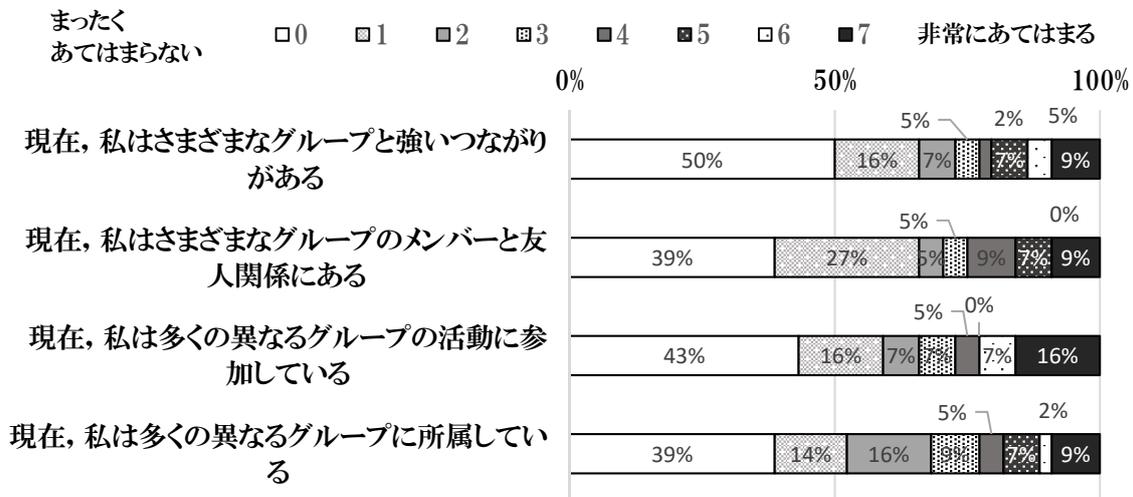


図 2-54 現在所属している集団／組織／グループ／団体（回答者44名）

(3) ひきこもる前に所属していた集団／組織／グループ／団体

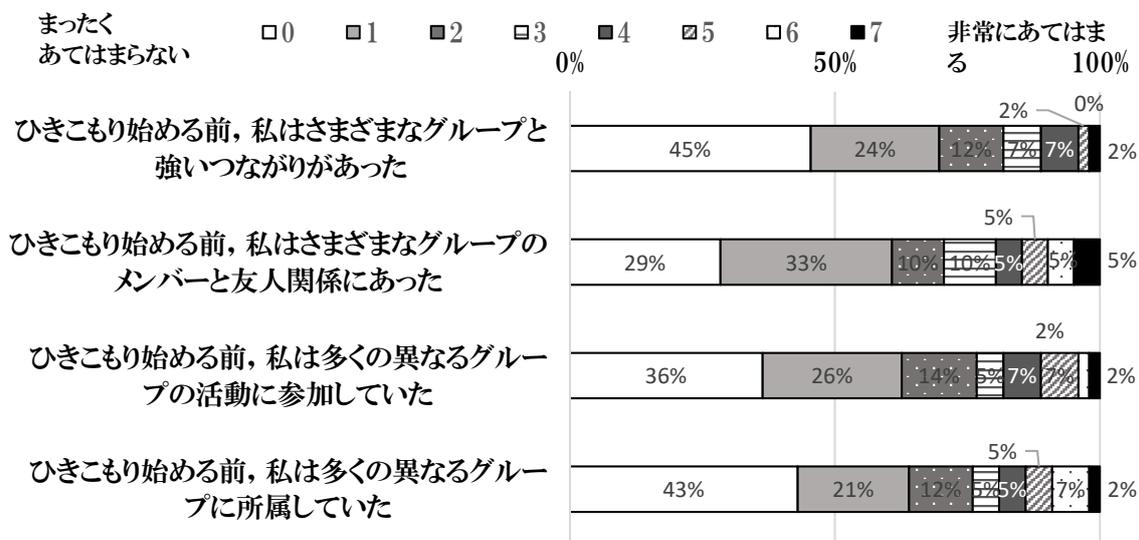


図 2-55 ひきこもる前に所属していた集団／組織／グループ／団体

図 2-55は、ひきこもる前に所属していた集団／組織／グループ／団体に関する結果です。引きこもる前に複数のグループや団体（の活動）に参加し、または、強いつながりがあった方はわずか2%で、複数のグループや団体の人と友人関係にあった方はわずか5%でした。一方、複数のグループや団体にまったく参加しなかった方は40%を上回り、強いつながりがなかったと答え方は80%にも達しました（特に、まったくつながりがなかった方は45%でした）。

(4) ひきこもり始めて以降も所属している集団／組織／グループ／団体

図2-56は、ひきこもり始めて以降も複数の集団／組織／グループ／団体に継続して属し、関連した活動に引き続き参加しているかどうかについての結果を示しました。ひきこもり始めて以降、複数のグループや団体（の活動）を継続している方はわずか3%でした。継続する傾向にある（選択肢の5と6とつけた）と答えた方は0%でした。一方、引き続きグループや団体にまったく属さず、関連した活動にまったく参加せず、強いつながりを持っていないと答えた方は70%に達し、中でも、ひきこもり始める前の友人関係と強いつながりを持たなくなる傾向にある（選択肢の1と2とつけた）方の割合は90%を超えました。

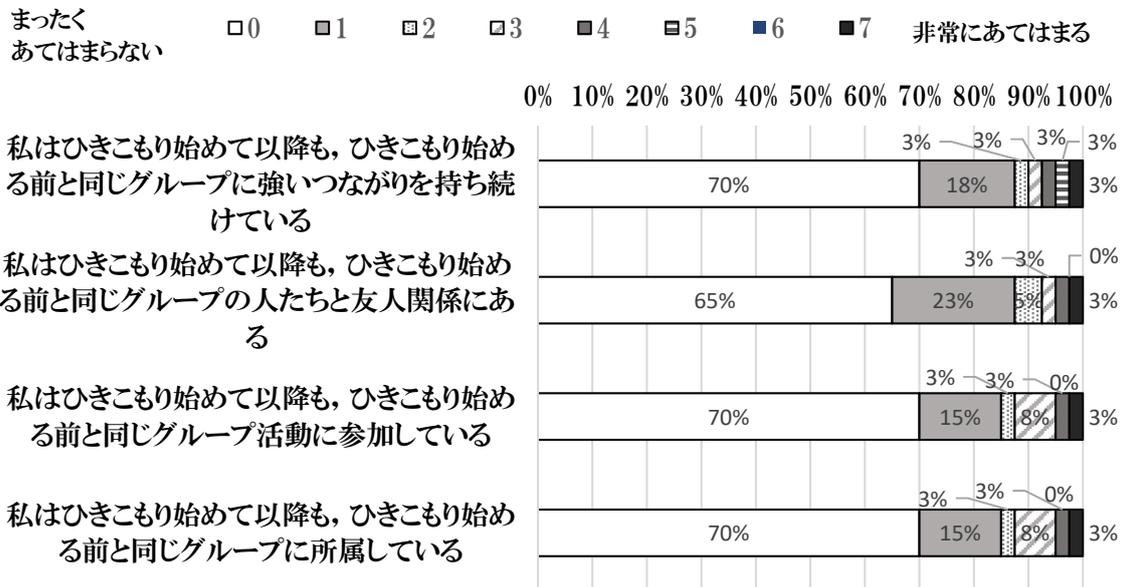


図2-56 ひきこもり始めて以降も所属している集団／組織／グループ／団体
(回答者40名)

(5) 新しい集団／組織／グループ／団体

図2-57は、ひきこもり始めて以降、新しい集団／組織／グループ／団体や活動に参加したかどうかについての結果です。ひきこもり始めて以降、30%の方は新しいグループや団体に属すようになり、関連した活動に参加するようになりました。しかしながら、これらのグループや団体の人と友人になり、強いつながりを持つ方は20%を下回り、まったくこうした関係になっていないと答えた方は35%を超えました。つまり、引きこもり始めて以降、新しいグループや団体（の活動）に参加できても、他者とつながりを持つことは難しいことがわかりました。

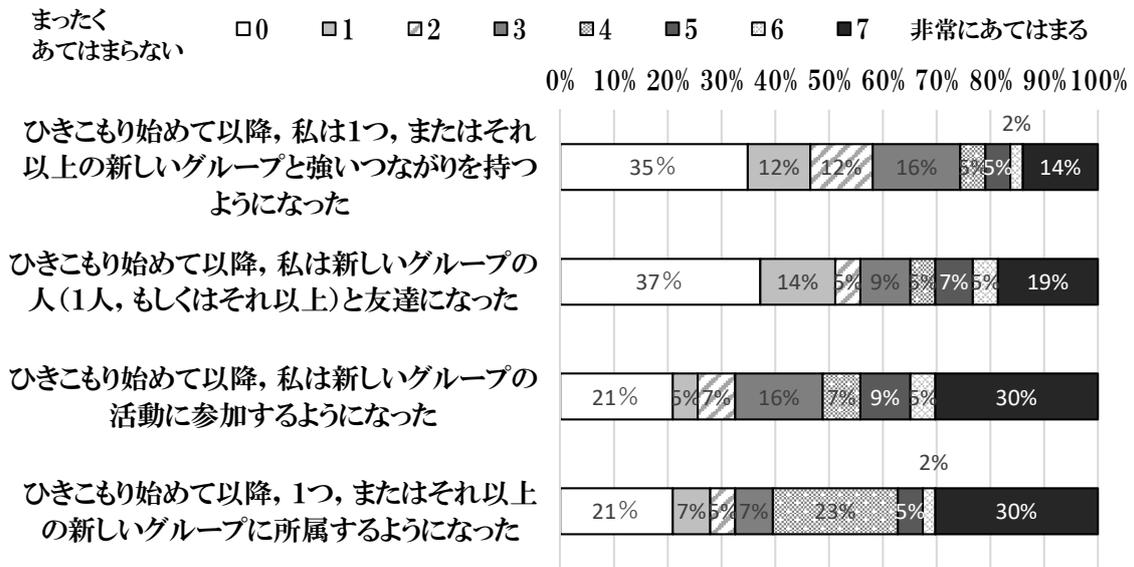


図 2-57 新しい集団／組織／グループ／団体 (回答者43名)

(6) 帰属意識 (同一化) に関する単項目尺度

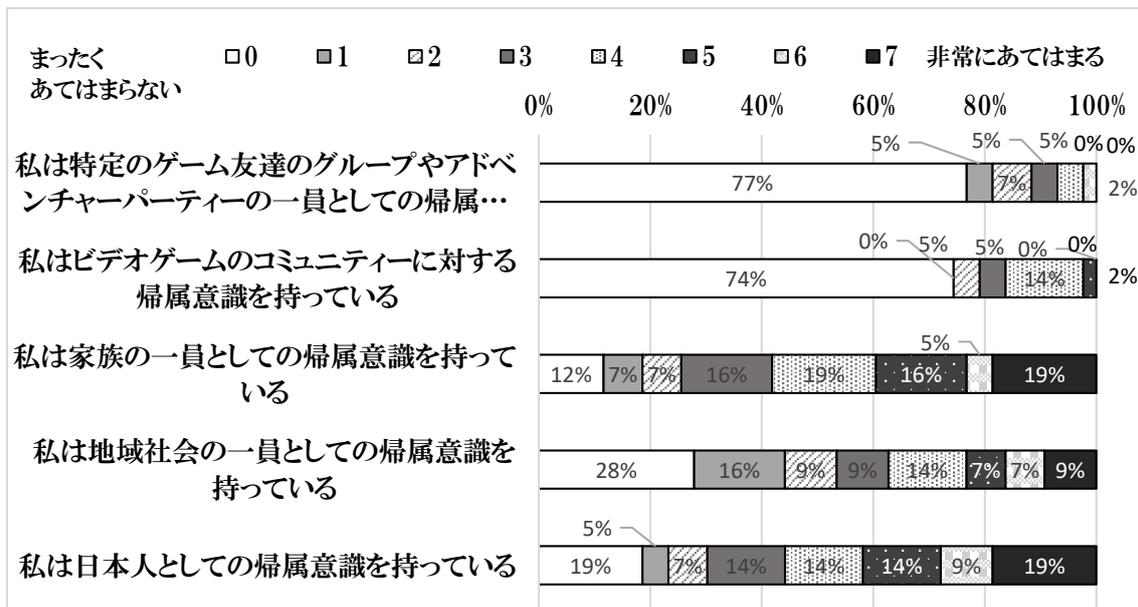


図 2-58 帰属意識 (同一化) に関する単項目尺度 (回答者43名)

図 2-58は、個人の帰属意識に関する結果を示しました。日本人としての帰属意識を強く持っている方とそうでない方はそれぞれ約20%でした。全体的に、日本人としての帰属意識を持っている方(5-7につけた)とそうでない方(0-3につけた)の割合はほぼ同程度でした(42%対31%)。家族の一員としての帰属意識について、同様の傾向が示されました。一方、地域社会の一員としての帰属

意識について、こうした意識を強く持つ方は9%であるのに対し、こうした意識を強く持たない方は28%であることがわかりました。最後に、特定のゲームやビデオゲームに帰属する方は少なく、そうしたグループに帰属意識を持っていないと答えた方は約80%に達しました。

(7) スキーマ (一貫した考え方)

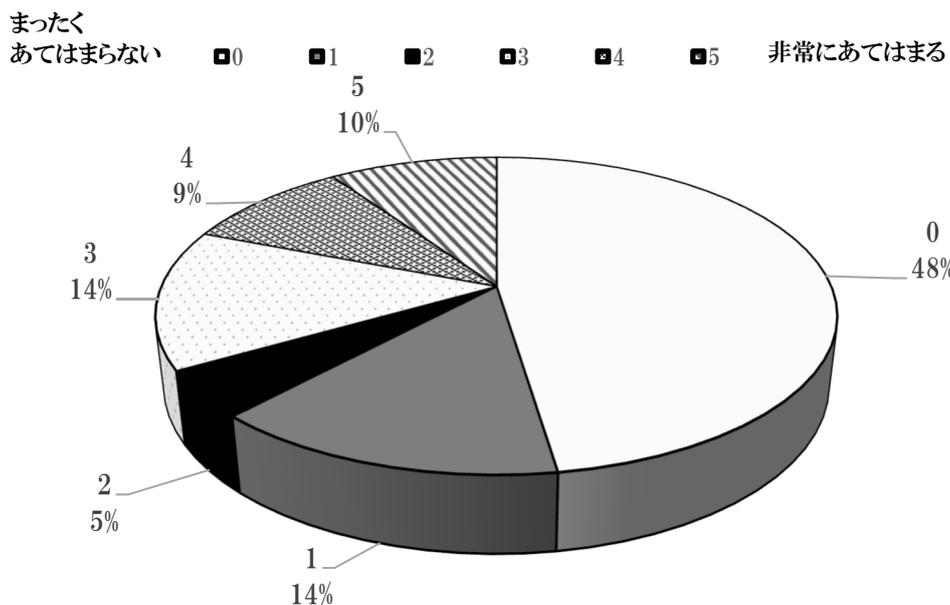


図2-59 不適応的な考え方 (スキーマ) (回答者44名)

図2-59は、不適応的な考え方に関する結果を示しました。一貫した不適応的な考え方は、スキーマとも呼ばれます。まず、この尺度の採点について、選択肢の5と6を選んだ場合は、1点、それ以外の選択肢を選んだ場合は、0と点数つけます。次に、5項目の合計が2点以上である場合は、臨床的に意味のあることと判断されます。図2-59に示されたように、2点以上の方は38%に達しており、引きこもりと不適応的な考え方の関連が示されました。

(8) 孤独感

図2-60は、孤独感に関する結果を示しました。本尺度は3項目からなり、点数が高いほど孤独感が強いと判断されます。3項目の合計得点について、3-5点は孤独でなく、6-9点は孤独であるとみなされます。図2-60からわかりますように、5点以下の方は28%であるのに対し、6-9点の方は73%にも達しました。特に、9点(満点)の方は34%にもなっています。これらの結果から、孤独感を持つ方は70%を上回ることがわかりました。

選択肢:1=ほとんどない 2=たまにある 3=よくある

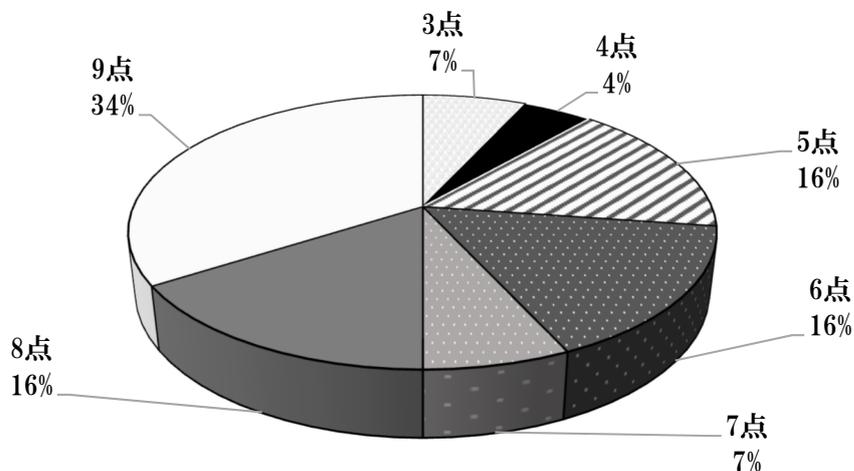


図2-60 孤独感 (回答者44名)

(9) 社交不安

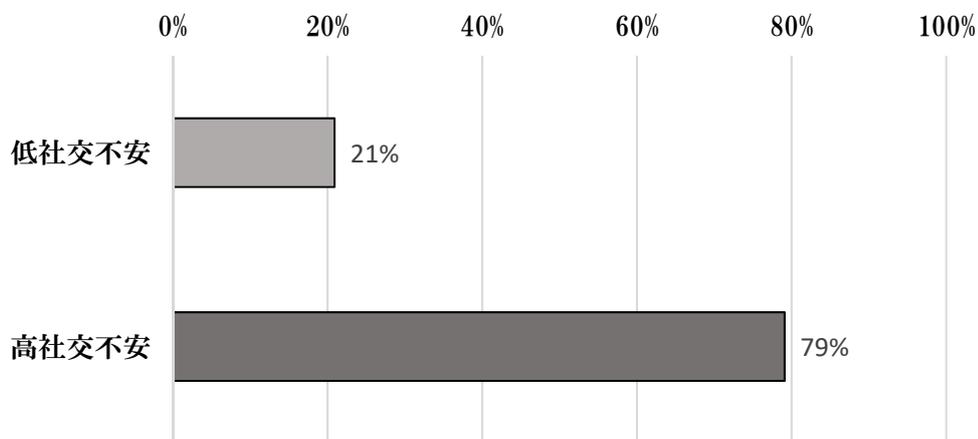


図2-61 社交不安の割合 (回答者43名)

図2-61は、回答者の方の社交不安の程度を示しました。本尺度について、合計得点が19点以上であった場合は、臨床的に意味があるとみなされます。この基準に基づいて、19点以上の方は79%に達したのに対し、それ以下の方は21%でした。これらの結果から、約80%の方は社交不安が高いことがわかりました。

第3部 全体のまとめ

1. ひきこもり本人の年齢の推移

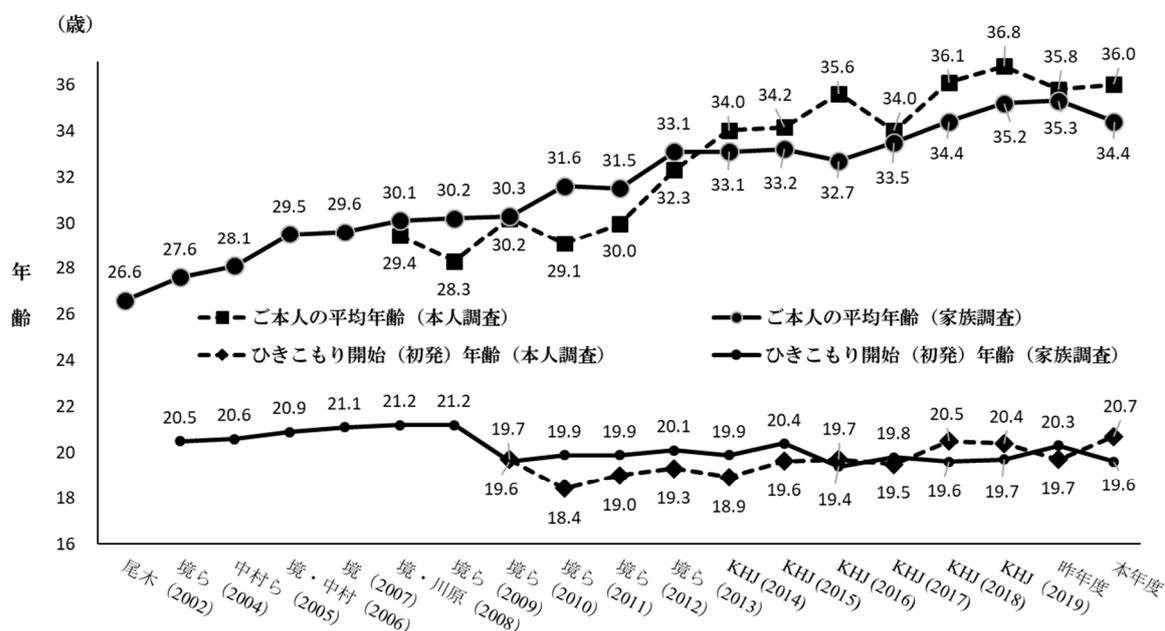


図3-1 ご本人の平均年齢の推移

当会の調査を開始した2002年以降のご本人の年齢の推移を図3-1に示しました（中村ら, 2005；尾木, 2002；境ら, 2004；2005；2007；2008；2009；2010；2011；2012；2013；特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会, 2014；特定非営利活動法人全国引きこもりKHJ親の会, 2015；特定非営利活動法人KHJ全国引きこもり家族会連合会, 2016；2017；2018；2019；2020）。図中の実線の折れ線は家族調査の結果を示し、点線の折れ線は本人調査の結果を示しています。

家族調査の結果をみると、ご本人の平均年齢は本年度34.4歳となり、昨年度より1歳低下していました。昨年度はこれまでの調査で最高年齢という結果でしたが、今年度は減少に転じています。また、本人調査の結果の推移をみると、本年度は36.0歳と昨年よりも若干上昇がみられました。

家族調査における本人の年齢上昇の停滞は、家族自身の高齢化により家族会に来られなくなることが一つの要因であると考えられます。また、ひきこもりの長期化によって、家族のひきこもりに取り組む動機づけが低下し、家族会への参加も少なくなっている可能性も考えられます。

ひきこもり本人の高年齢化や「8050問題」に対応するには、家族会に来られなくなった家族とのつながりを保つための取り組みが必要になると考えられます。

その一方、ひきこもりの開始（初発）の平均年齢については、これまでと同様に約 20 歳でした。ひきこもりの開始年齢の結果は、時代に関わらず一貫して中学生から 20 代のひきこもり好発期における予防的対応の重要性を示唆しているものと考えられます。

2. ご家族の年齢の推移

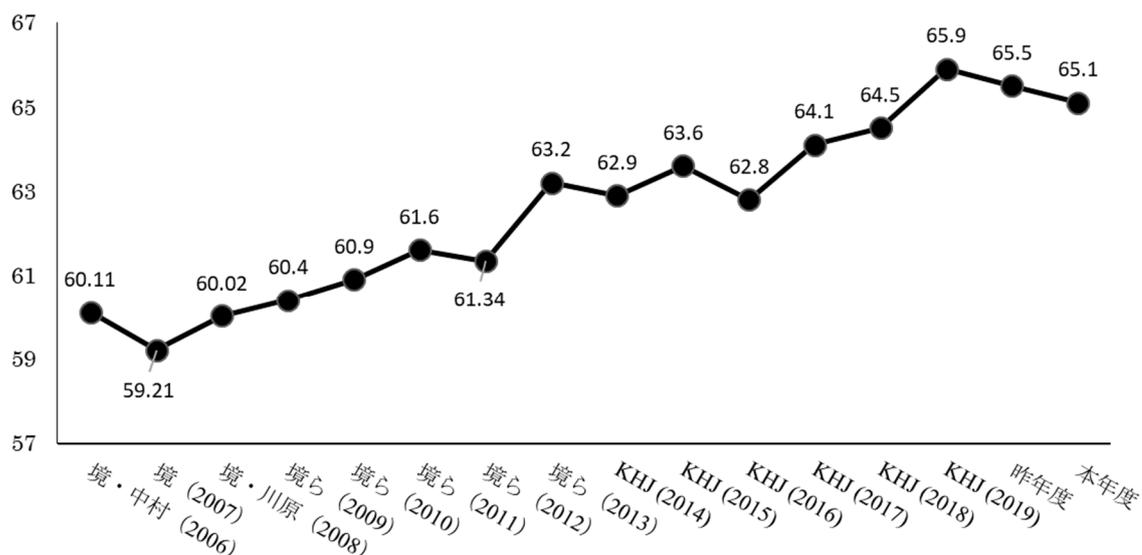


図 3-2 ご家族の平均年齢の推移

2006 年以降の当会の調査における、ご家族の平均年齢の推移を図 3-2 に示しました。ご家族の平均年齢は、2019 年の 65.9 歳をピークに、やや低減する傾向にあります。このことから、65 歳を超えたあたりから家族会への足が遠のいてしまう可能性が考えられます。また、本年度の結果からも、65 歳をも超えるご家族が多く、それらのご家族の多くが定年を迎えている可能性があります。図 2-18、19 で示した 300～399 万円がもっとも多いという世帯年収の結果も、その傾向を示しているといえるでしょう。

図 1-18 に示したように、突然参加しなくなった方への対応として、KHJ 家族会では様々な取り組みを行っていますが、今後はより積極的に関係機関と連携したつながりを維持する取り組みが必要になると考えられます。

2. ひきこもり期間の推移

2005 年以降のひきこもり期間の推移を図 3-3 に示しました。家族調査におけるひきこもり期間は、昨年度とほぼ同様という結果でした。この結果は、家族会参加者に入れ替わりが生じている可能性を示しています。その一方で、本人調査においては、昨年度よりもやや短いという結果でした。

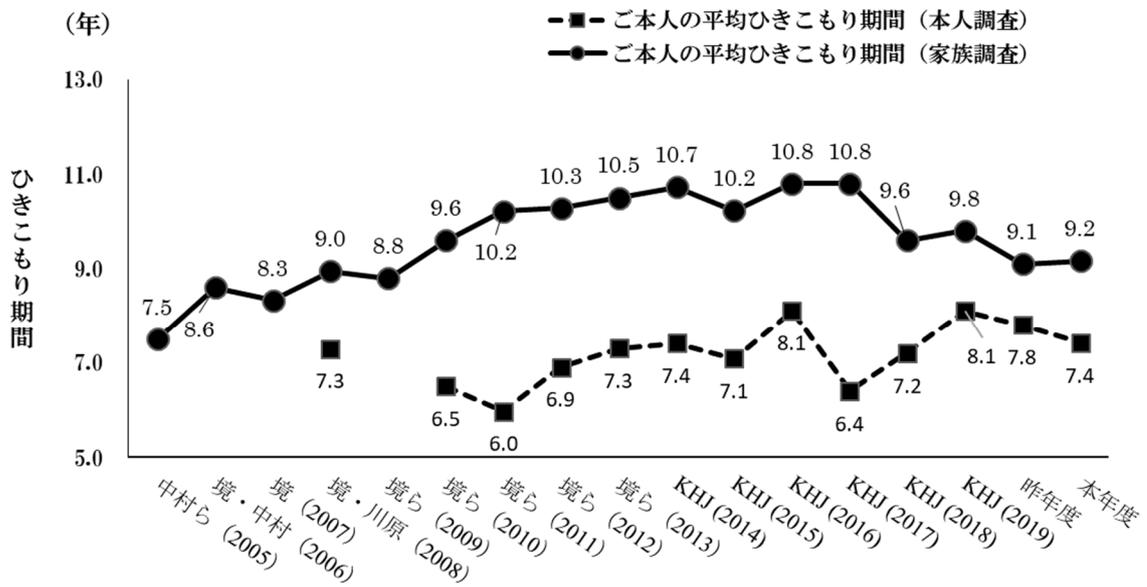


図3-3 平均ひきこもり期間の推移

3. 高年齢化事例の傾向

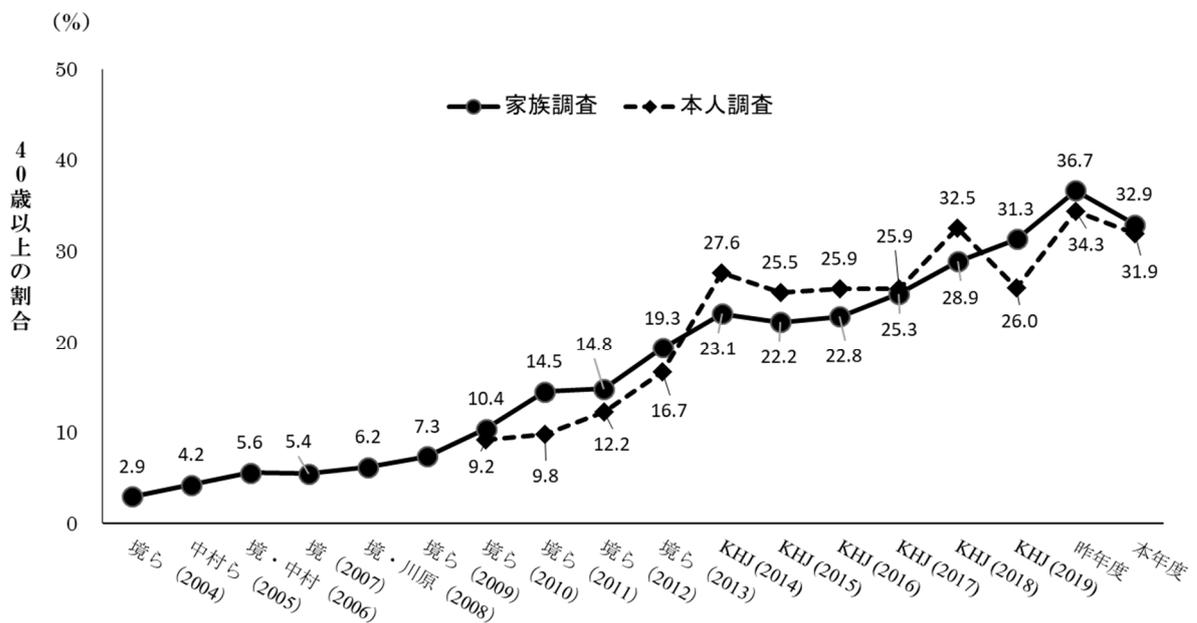


図3-4 40歳以上の割合の推移

家族調査、本人調査ごとに、40歳以上の割合、および50歳以上の割合の推移を図3-4、図3-5に示しました。40歳以上の割合は、家族調査、本人調

査のいずれにおいても昨年度に過去最高割合を示しており、本年度は若干減少してはいますが3人に1人は40歳以上でした。

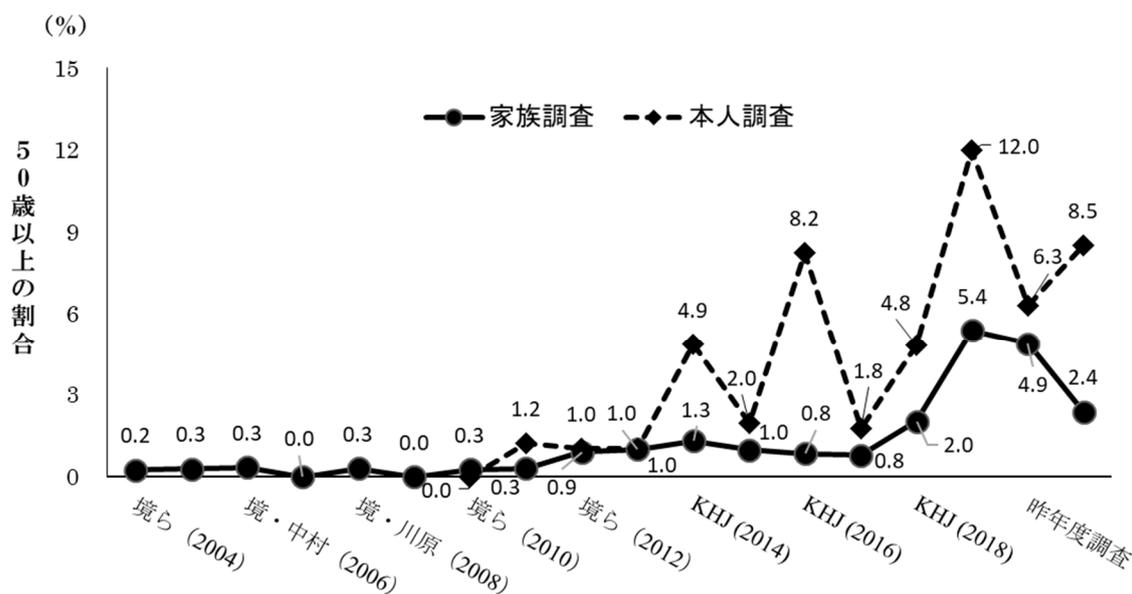


図3-5 50歳以上の割合の推移

50歳以上のケースは、2011年頃からみられるようになり、今年度調査においては、本人調査では上昇していますが、家族調査では下降しているという結果でした。この結果は、高年齢化しか本人が家族会に来られるようになった一方で、その家族は来られなくなっている現状を示していると考えられます。

4. 家族会の設置状況について

本年度も昨年度と同様に、ひきこもり地域支援センターと自立相談支援における調査を行いました。昨年度は、居場所の設置状況について調査を行いました。昨年度、本年度の調査結果と合わせると、居場所、家族会ともにひきこもり地域支援センターでの設置が進んでいる現状があります。自立相談支援窓口は、ひきこもりに特化した機関ではないため、自立相談支援窓口でひきこもりのための居場所や家族会設置する場合には、ひきこもり地域支援センターのノウハウを活用できる仕組み作りが有効と考えられます。

また、家族会の設置に関するニーズに関しては、3分の1の機関がニーズを把握していました。その一方で、3分の1の機関がわからないと回答していました。昨年度の居場所に関する調査においても、3分の1の機関が居場所の必要性があるかわからないと回答していました。これらのことから、ひきこもりの実態や支援ニーズを各自治体で把握することが最初の課題として挙げられると考えられます。

5. 家族会の運営状況について

昨年度の居場所調査においては、KHJ 支部に限らず広くひきこもり支援のための居場所を対象としましたが、本年度の家族会の設置状況に関しては、KHJ の支部を対象にしました。こうした対象の違いはありますが、居場所と家族会の違いとして、運営財源の違いが挙げられます。居場所の運営財源は補助金が最も大きな割合を占めましたが、家族会は参加者からの参加費が最も大きな割合を占めました。家族会がまさに自助によって運営されていることを示しています。また、参加要件に関しても、家族会の方がより広い範囲の人を年齢に関係なく受け入れていることがわかりました。これらのことから、居場所よりも家族会の方が自助の力によって自主的に広い範囲の人たちと関わる場になっていると考えられます。

本年度の調査においては、家族会の運営状況についてより詳しく調査を行いました。この調査の中で、KHJ の支部が最も取り組めていない点が明らかになりました。それは、「役員が固定化されないような仕組みが設けられている」という点です。家族会の運営を担う役員の新陳代謝は極めて重要です。特に、若い年齢の役員の参画が会の持続可能性が決定します。KHJ 家族会の支部は、ある特定の志ある家族に頼りすぎている面が否めません。こうした状況を解消するためにも、役員が定期的に交代できるような仕組み作りが必要になると考えられます。

6. 新型コロナウイルスの影響について

新型コロナウイルスの影響については、支援者、家族会運営者、ひきこもり本人とその家族から多くの意見が寄せられました。それらの詳細は、第4部の自由記述に記載されています。

自由記述からは、自粛生活によって安定してひきこもる生活ができるようになった一方で、より一層孤立してしまうことへの不安が伝わってきました。こうした中で今後求められる支援として、オンラインによる支援について多くの意見がありました。ただその中では、オンラインがいいというだけでなく、対面で会えないことを補う手段としてオンラインの活用が求められているように感じました。

対面とオンラインの二つの方法があれば、ひきこもりの本人や家族の状況に応じて無理なく安心して社会とつながれる体制続くが可能になると考えられます。直接的な接触が制限されることで、多様な形での社会とのつながり方が社会に浸透してきています。この流れは、ひきこもり支援においても大きな追い風になると言えます。

第4部 自由記述

自由記述では、以下のことについて回答を求めました。

- ・貴機関（自治体）内で家族会を運営する上で考えられる課題（回答者：行政機関）
- ・家族会において重要だと思うこと（回答者：ご家族、ご本人）
- ・新型コロナウイルスの蔓延で家族会が受けた影響（回答者：家族会運営者）
- ・新型コロナウイルスと共存していく社会において、家族会に必要な支援（回答者：家族会運営者）
- ・新型コロナウイルスの蔓延が、自治体の管轄内におけるひきこもり支援に与えた影響（回答者：行政機関）
- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延で受けた影響（回答者：ご家族、ご本人）
- ・新型コロナウイルス感染症と共存していく社会において必要な支援（回答者：ご家族、ご本人）

以下には、それぞれの質問についての回答を行政機関、家族回答者、本人回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、記述内容の要約を掲載しており、個人が特定できないように記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述もあります。また、読み取ることの困難であった記述や個人を特定しうる固有名詞は「●」で示しています。

<自治体内で家族会を運営する上で考えられる課題（回答者：行政機関）>

○ひきこもり対応の窓口が明確でない

- ・ひきこもり支援については、困窮分野、障害分野、保健所にて行っていることから、それぞれの役割を整理する必要がある
- ・相談窓口として福祉課をあてがっているが、実際に要支援者へのアプローチは社会福祉協議会が担っている
- ・他市町村のひきこもり支援 NPO が当市へ、出張窓口を月回設けている程度で、市内に支援団体がいない
- ・関係すると思われる障害福祉、生活保護など、担当課が分かれており調整が必要
- ・ひきこもり当事者の年齢により担当部署が分かれている
- ・自治体において運営に関わる課（部署）の特定が難しい
- ・「ひきこもり」に対する所管課が明確になっていない
- ・各部署毎で対応しており、明確な担当がない
- ・相談窓口の一本化

○協力体制が構築されていない

- ・現状のひきこもり支援体制は非正規職員が1名のみで、課をまたいだ連携や異業多職種の協力体制やネットワークが構築されていない
- ・ひきこもりの方は障害に関する支援を受けている場合が想定されるので、その担当部署との連携も必要

- ・ひきこもりは社会福祉分野だと思うが、福祉部局が保健師の仕事だと言って担当しない
- ・各関係機関との情報共有（連携）がとれていない、難しい
- ・秘密保持をしながら他機関との連携の方法
- ・横断的な連携体制の構築が課題
- ・社会協議会の協力が無い
- ・精神科との連携

○実態把握ができていない

- ・実態調査の必要性は感じているが、自治体により手法が異なっておりどれが有効なのか分からない
- ・ひきこもりの実態があったとしても、家族がそのことを隠そうとして支援につながりにくい
- ・家族からの相談よりも他者からの相談がほとんどで、十分な相談及び対応ができていない
- ・本人はひきこもりと思っていない（親が心配している）方への関りが難しい
- ・家族会のニーズの有無が調査できていない
- ・どこからがひきこもりなのか判断が難しい
- ・ひきこもりの実数把握等ができていない
- ・実態把握の難しさ

○長期間継続して伴走できる体制

- ・信頼関係を構築するのに相当の期間を要するので、見捨てられたと感じさせない、長期間継続して伴走できる体制を確立することが必要
- ・会の運営に目が向き、ひきこもり当事者が置き去りにならないように留意していく必要がある
- ・定期的な異動があるので、安定した支援を長期的に行っていくのは難しい
- ・行政担当者は3年前後で変わるため、長年支援できる支援者が必要
- ・信頼関係が作られた頃に担当者が異動になる
- ・アドバイザーの継続的確保

○行政が担当することの難しさ

- ・行政が家族会を管理・運営した場合、民間主体の家族会が立ち上がった際に、それぞれの会で取扱い等の差が生じる
- ・セルフヘルプグループとして運営されるものの、課題解決が期待される相談機関と思われる
- ・行政が管理・運営するにあたり、会をコーディネートすることが難しい（能力的な問題）
- ・行政は敷居が高いと言われる（気軽に利用できない）
- ・行政に対する要望の場で終わってしまう懸念
- ・行政として支援の方向性が定まっていない

○マンパワーの不足

- ・人材不足
- ・会の運営を保健師のみで実施しており、心理職などが担当できると良いが人材が不在
- ・社会資源に乏しく、直接的に支援できる人材、スキルの不足
- ・参加者や支援者を育成したいが難しい
- ・専門職が極めて少ない
- ・専門職の確保

○世間体を気にする家族は近隣の家族会を利用しない

- ・住み慣れた地域内の家族会であると気まずく参加をためらうことも考えられるので、広域的に交互利用できたり、地域格差が生じないように整備することが課題
- ・市内在住の家族を対象としているため、家族同士が顔見知りであったり、街中で遭遇する可能性があることから参加したくてもできない人もいる
- ・両親が高齢であればあるほど、世間体を気にする傾向が強いため、当自治体ではない、近隣の自治体の方々の「家族会」への参加が多い
- ・町内機関（役場など）は身近過ぎて知っている人も多く相談しづらく、町外の相談を希望される方がいる
- ・周囲を気にして、少し離れたところで相談したい人もいるため、保健所圏域や県単位での支援も重要

○参加者の確保

- ・過去に1.2度家族会の設置の要望があった程度で、実際に設置した時に参加者がいるのか疑問
- ・ひきこもりの数が少なく、単身が多いので、立ち上げのニーズが感じられない
- ・人口が少ないので参加者が少ないと考えられる
- ・少人数のため「家族会」としての運営は困難
- ・集まりが悪い

○家族会の内容や進行に苦慮

- ・支援対象の方の状態や年齢は様々で、グループで話をする際の進行などは、支援者側で技術や配慮が必要となることがある
- ・参加される家族に有益な時間を過ごしてもらいたいが、考え方や方向性も違い、毎回内容や進行に苦慮している
- ・さまざまな年代層が混在する中で、プログラムの組み立てが難しい
- ・プログラムの内容について現状で良いか不安がある
- ・家族同士でのトークに発展しにくい

○家族会を立ち上げるには、引きこもりの家族が先頭に立つことが大事

- ・ひきこもりを抱える家族が、行政や地域社会に「うちにはひきこもりがいます」と打ち明けるのには、かなりの勇気が必要だが、そういう勇気を持った人が先頭に立たないとうまくいかない、行政主導では困難である
- ・家族がより主体的に運営する方法を当初から模索しているが、参加者の入れ替わりも影響し、なかなか実現に至らない
- ・財源は別として、互いにメリットのある施策を作り上げないと事業として継続できない、そのイメージが持てない
- ・家族が設置の必要性を感じ、自主的に運営するものでないと、かえって自治体の負担になりかねない

○担当職員の業務負担

- ・有職の家族を対象に家族会を開催すると、休日や夜間の開催となるが、その時間帯の開催はスタッフに負担がかかる
- ・ひきこもり以外の業務との併行が難しい
- ・現状でも相当の人員不足である
- ・通常業務の増加

○当事者の年齢によって家族会を分けるべき（8050、不登校等）

- ・ひきこもり者の年齢別にしてほしい、母親の会を設けてほしい（父親と母親とでは思いが違うので）等の要望がある
- ・ひきこもり当事者の年代により、家族の年齢層や今後の不安や抱える問題も異なる
- ・当事者の年代や回復段階の幅が広すぎると、ニーズも異なり満足感が得られにくい
- ・当事者同士・親同士の年代が違うので話が合わない

○家族会の周知方法

- ・行政がどのように周知したら、本当に利用したい人へ声が届くか、参加したいと思えるか
- ・広報紙等で周知はしているが、届けたい方へピンポイントで届けるのが難しい
- ・地区民に十分に理解浸透していない
- ・誘う手立てがない

○当事者が支援・関わりを希望していない場合、どう家族会に結び付けるのか

- ・当事者は支援や関わりを希望しない人が多く、家族会の設置が当事者の問題解決に向けてどのようにつながっていくのか方向性が見えづらい
- ・機関は生活改善に繋がる選択肢の提供等のアシストはできても、本人等に支援を拒まれれば事業を中止せざるを得ない
- ・当事者の意識次第で支援方針が限られている

○家族会に抵抗がある方をどう家族会に結びつけるのか

- ・家族会の存在を知らない、抵抗がある、世間の目もあり隠しておきたいという方を、家族会にどう結び付けていくのか
- ・嫌悪感や抵抗なく参加しやすい環境をどう整備するか
- ・身近で参加しやすい環境づくりの検討

○当事者家族の高齢化

- ・メインで企画運営している当事者家族の高齢化による体調不安
- ・高齢家族が多く、設置したところで出席が難しい
- ・現在ある家族会メンバーの高齢化

○設置のニーズはあっても、運営は負担がかかる

- ・ひきこもりを抱える家族は高齢者が多く、家族会設置のニーズはあっても、運営等については避けたがる傾向にある
- ・自主的な家族のつどいを実施しているが、幹事役になる人の負担が大きい

○開催日時・頻度が課題

- ・現在は日曜の昼間に開催しているが、できるだけ多くの人に参加できるよう、平日夜間等開催頻度を増やしたいが、ボランティアの負担もあり難しい
- ・平日開催による、有職の親の不参加

○支援における効果の判定が難しい

- ・ひきこもり退却後のビジョンを描きにくい（社会復帰、就労など）
- ・何をもって成果と捉えるのか、目標設定の難しさ

○開催に適した会場探し

- ・相談の最初の段階から大勢集まる場所に来ることは抵抗がある
- ・地域的に単独で開催できる施設はない

○管轄範囲が広いと、センターから遠方の方の参加が難しい

- ・少人数のため広域で実施しているが、会場が遠い等通いづらさがある
- ・地域（市町村）での立ち上げの必要性がある

○新規参加者が増えない、続かない

- ・従来からの利用者（グループ）と新規参加者との間に現状の捉え方や認識の違いがあり、共感・共有できる場として機能していない
- ・メンバーの固定化により、新規参加者が入りこみづらい

○家族会の設置目的をどう捉えるのか難しい

- ・当事者の支援のみとするか、行政と連携していくのか等

○ひきこもってからの支援では遅い

- ・ひきこもってからの支援では遅く、予防（社会生活を送るための準備、医療や療育、心理的サポート）が必要

○家族会との連携ができていない

- ・家族会との連携など円滑な関係ができていない

○オンライン開催の方法

- ・インターネット環境の整備が不十分

○予算の確保

- ・内容がマンネリ化し、参加者同士の情報交換のみではなく専門家からの情報提供が欲しいとの意見があるが、予算がない

○ひとりひとりにかかる時間が短くなるのではないか

- ・人数規模や開催頻度をニーズに応じて増やしていくと、参加者ひとりひとりにかかる時間が短くなりじっくり話を聞き合える環境の提供が難しい

○その他の課題

- ・家族会の前にアウトリーチの充実、居場所づくり等が課題

<家族会において重要だと思うこと（回答者：ご家族）>

○話を聞ける

- ・当事者の話を聞ける（家族にどのように接してもらいたかったか、困ったこと、苦しんだこと）
- ・第三者の意見を聞ける（どのような支援の方法があるか、どのように支援をしてきたか）
- ・多くの知識を得ることで適切な対応を学ぶことができること
- ・同じ思いの家族の話を聞いてほっとする情報が得られる
- ・子供に対しての対応の仕方、言葉など教えてもらえる
- ・他の方々の経験・体験を学ぶことができること
- ・家族の話を聞ける（どのように対応しているか）
- ・いろいろな家族の話を聞いて勉強になる

○家族の居場所となる

- ・家族の孤立を防ぐ。泣き言が言える。ひきこもりを理解する勉強ができる
- ・自責の念、自己否定、孤立感が軽減されること
- ・悩みをわかってもらえる安心の場

- ・親の安定、安心を得られること
- ・家族の居場所となること
- ・親のガス抜きの場
- ・癒しの場

○同じ境遇にある人との悩みの分かち合いができる

- ・同じ立場の方たちとの交流は私の生きていく為には大切な場所で、本音で話し合える唯一の会である
- ・家族会の仕事を手伝うことにより、他の親御さんと話せたり、また、気持ちの支えとなる
- ・今はコロナで難しいが、親同志のつながりがもっとあってもいい
- ・親同志で話すことにより、気持ちを軽くすることができる
- ・悩んでいるのは自分だけではないと思えること
- ・仲間ができる

○話を聞いてもらえる

- ・家族の大変な話も聞いていただけるので、気持ちも少し落ち着き、来てよかったといつも思いながら帰ることができる
- ・本人に対する自分の行動がこれでいいのかどうか、皆に意見を聞ける場
- ・良いことも悪いことも隠さずに話ができ共感してもらえる場所
- ・悩みを聞いてもらえることによって、少し気持ちが軽くなる
- ・話を聞いてもらえてストレス解消になる

○自分の家庭を客観的に見ることができる

- ・親子で家族会や当事者の会に参加しているので、家族として見るだけでなく、冷静に一人の人間として見る事が出来るので、気付かされる事がある
- ・様々なひきこもり家庭の実情を知り、自分の家庭を客観的に見ることができる。解決のためのヒントを得られることもある
- ・ひきこもり状態にある本人を客観的にみることができる
- ・自分自身の行動や考え方を振り返ることができる
- ・自分の気持ちや行動の整理がつく

○孤立しない

- ・どんな親でも（ひきこもり状態を受け入れることがスムーズでない親）参加しやすい環境
- ・あきらめない。理解し受け入れてあげる
- ・参加者がみな自由に発言できる雰囲気
- ・みんなが安心して来られる
- ・誰でも気軽に集える会

○情報の発信・共有

- ・ 8050 の問題に近づくにあたり、悩み事が少しでも軽くなるよう情報を発信してほしい
- ・ 情報の共有・交換ができると嬉しい
- ・ 国・医療の支援制度の情報
- ・ 講演会等の情報

○講演・勉強会の開催

- ・ 月例会・学習会等で学び、子への接し方・考え方等理解することができた
- ・ 専門的知識のある方の講演、質疑応答できる環境
- ・ 講演がとても役に立ちありがたい
- ・ 子供への対応の仕方等の勉強会

○個別の相談機会を作してほしい

- ・ 定期的に個別の相談機会を作ってもらい、個々の事例の状況（進捗具合）を把握して、必要な手当て（カウンセリングなど）につなげてほしい
- ・ 子どもの現在の状況や状態に応じて、相談や話が聞けると助かる
- ・ 集団療法・個人療法の場

○秘密保持

- ・ 安心安全のもと参加できること
- ・ 個人情報の保護
- ・ 信頼関係

○行政に対する声の集約

- ・ 行政に対してみんなの声を集約し、ひきこもり支援に対して要望
- ・ 会と行政が連携を

○継続運営・継続参加

- ・ 継続的なつながり。個人情報を大切にしながらももっとつながりを強めたい
- ・ コロナの状況で例会も開くことができず、会が存続していけるのか心配

○問題点

- ・ 家族会を立ち上げたが、当事者でもあるので、運営をしながら聴く側に徹するようにすると負担になる。バランスを取るのが大切
- ・ ほとんどボランティアなので、活動を広げられないのが現状

○当事者が集まる機会を増やしてほしい

- ・ 田舎であるため、若者が参加できる機会が少なく、当事者たちの集まりがない。もっと当事者が集まる機会があるといいと思う

○会の周知

- ・もっと一般の人に会の活動を知ってもらいたい

○ひきこもりから立ち直った方からの話を聞きたい

- ・ひきこもりが続いている方の様子も聞きたいが、立ち直った方の意見もききたい

○進行者や支援者はしゃべりすぎない

- ・参加者に時間を

○その他

- ・参加して良かったと思える内容があること

<家族会において重要だと思うこと(回答者：ご本人)>

○自分の想いを自由に話すことができる場

- ・自分のネガティブな想いを自由に話せ、ジャッジされたり、アドバイスされることなく、聞いてもらえる場があるというのは、とても救われる
- ・それぞれ個人の話を書くところからはじめ、その後共感できる内容や情報を交換するべき。当事者の話も家族に聞いてもらうのも必要だと思う。
- ・相談所・語り場として必要な場（親子でのコミュニケーションのとり方、他人（友人・仕事場・学校など）との接し方、その他の悩み事など）
- ・話をするすることで、問題解決の糸口がつかめるかもしれないので、話をするのが重要
- ・当事者のみのフリートークの時間は心が開放される
- ・否定されずに安心して話ができること
- ・親のストレス発散の場

○安心感や当事者に対する理解

- ・継続的に来ようと思える会、また来たいと思える会
- ・生きる意味の確立。生きるメリットの確立
- ・「ひきこもり」という生き方を尊重する
- ・受け入れてもらえるという安心感
- ・就労や登校を強要しない
- ・居心地のよさ

○家族と当事者との分かち合いの場

- ・家族にひきこもり当事者へのアプローチ法を学んでほしい
- ・とにかく親も顔を家族会に出すことが大切だと思う
- ・親、子の苦しみを解く場
- ・家族が参加すること

○同じ悩みを持つ人たちとの場所と情報の共有

- ・色々な支援や情報収集はもっとあるといいと思う。特に自分の住んでいる地域に近い所の情報が欲しい
- ・自分の家、自分の部屋、家族だけでなく同じ悩みを持つ人同士が話せる場所

○自由に行ける

- ・参加費が無料または安い

○高齢の親へのサポートが少ない

- ・例会活動に参加できなくなった

○その他

- ・会の目的やルールは必要だが、あまりにカチコチにルールを作ってしまうと敷居を無駄に高くしてしまうことになりかねない
- ・少し元気になった当事者が入っていける（手伝い、話をするなど）ような環境であること
- ・会を継続的に運営する仕組み

<新型コロナウイルスの蔓延で家族会が受けた影響（回答者：家族会運営者）>

○会場の変更・閉鎖

- ・公的機関（市の男女参画共同プラザ）がコロナ感染防止のため使用できなくなった
- ・定員の半数しか収容できなかった
- ・通常使用している市の施設の閉鎖
- ・公民館の使用禁止措置
- ・会場の変更（6.7月）

○参加者の減少

- ・例会参加者は1時間以上交通機関を使い参加しているため、参加者の減少はやむを得ない
- ・参加の自粛・見合わせ意識が働いているようで、参加者は半減
- ・県外から参加できなくなった方がいる
- ・高齢化で参加率が悪くなった

○定例会の短縮・中止

- ・通常使用している市の施設が閉鎖となり、やむを得ず3カ月ほど例会を休んだ
- ・月例会の時間を短くしている
- ・月例会の中止（3.4.5月）
- ・人数制限

○講演会中止・減少

- ・講演会の回数を年4.5回から、年3回に減らしている
- ・講演会の中止

○相談の減少

- ・コロナで相談が少なくなった。ひきこもっていい環境になったからと聞いている
- ・少し落ち着いてからはいつも通りの相談数となった

○リラックスした雰囲気が作れず

- ・皆で持ちよった食べ物を囲みながらリラックスしてのおしゃべりができず、少し緊張が入り、いつも通りにいかなかった
- ・マスクをしたりはずしたりと落ち着かない気分

○参加費収入の減少

- ・参加者の減少→参加費の減少により、次年度以降に影響が出てくる可能性がある
- ・イベントの中止による運営費の不足（赤字）

○体調悪化

- ・生活リズムや体調不良者の声を聞く
- ・当事者のひきこもり度が増している

○ネット環境等へつながりにくい方への対応に苦慮

- ・ネット環境や、社会との接点を持たない家族や本人はますます社会との隔たりが大きくなっていると感じる
- ・フリーメールにも繋がれない人の中には、何も参加できないので脱会したいとの声もあった

○例会周知のチャンスを失っている

- ・年2~3回の学習会が開きにくくなり、例会を広く宣伝・告知するチャンスを失っている

○設備費・人件費アップ

- ・リモート等の必要性が高まり、設備/人件費のアップ

○苦情

- ・最初の頃は月例会に消毒液を用意できずに苦情が出た

○オンライン研修会の導入

- ・オンライン研修会により、費用、時間を節約できている

○郵送作業は継続

- ・例会は休みでもニュースの郵送作業はできているので、こちらの来られておしゃべりする方が出てきた

○メールで情報提供

- ・広報、メール、SNS 等でできるだけ連絡を取り合ってきた

○支援者の厚意でフロアーを借用

- ・定例会に来ていただいている支援者の厚意で、作業所のフロアーを借用することができた

○マスクの寄付

- ・マスクやマスク入れを作って寄付してくださるかたがいて、うれしい思いをした

○感染防止対策

- ・衝立、仕切り幕を用意した

○研修の延期

- ・スキルアップ研修が延期となった

<新型コロナウイルスと共存していく社会において、家族会にどのような支援が必要になると思うか（回答者：家族会運営者）>

○オンライン支援

- ・オンラインで会を開催する方法（操作知識）を教えてほしい
- ・家族会に必要な流行情報、対策などがあれば流してほしい
- ・オンライン環境の整備
- ・オンライン家族会
- ・オンライン講演会

○会場閉鎖となった時の対応

- ・行政の会場を借りて例会を行っているため、行政の都合で会場閉鎖となることも当然起こり得る。そうした時にどう対応するのか今後の課題

○各市町村に家族会を

- ・県内では家族会が2つのみであり参加人数が限られるので、各市町村に家族会があれば良い

○病院に行かない当事者への対応

- ・不調を感じても、当事者は病院にも検査にも行けず悪化させてしまう可能性があるため、従来以上に体調管理に気を配る支援が必要

○行政の指導的支援

- ・広域ではなく地域での活動が効果的に実現できるよう、官民の福祉関連機関、団体の協働体制づくりに向けた行政の指導的支援が求められる

○財源の助成

- ・郵便物の料金も、会費の納入がないと継続できず、会の存続が危ぶまれる。活動助成制度を設置してほしい

○いいことも

- ・コロナのおかげでたくさんの「おかげさま、感謝」に気づくことができた。参加者が少なければそれだけ深い話をゆっくりできる

○その他

- ・ひきこもり回復プロセスの明確化と実践による実績
- ・参加者が少数でも採算が取れるように
- ・親亡き後のサポート体制
- ・官民の横の繋がり
- ・広い会場の確保
- ・人材の育成
- ・就労支援
- ・生活支援

<新型コロナウイルスの蔓延が、貴機関（自治体）の管轄内におけるひきこもり支援に与えた影響（回答者：行政機関）>

○当事者の変化（訪問拒否、引きこもり加速）

- ・定期的な面談や集合形式でのプログラム実施が困難になり、順調に面談を実施していた相談者が数名ひきこもり状態に戻ってしまった
- ・これまで隣市の支援機関に親子で出かけることができていた方が、最近では外出不安により母のみでの相談になっている
- ・ひきこもりからようやく居場所に来れるようになった方が、感染が怖いとの理由で再度ひきこもる事例が出てきている
- ・支援により就労に結びついた人が、コロナによる外出困難となり再びひきこもり状態になってしまった
- ・ドアに目張りをするなどの行為が見られ、コロナ禍により、ひきこもりに拍車がかかっていると思われる
- ・コロナウイルス感染への不安により、更に外出できない（家庭内に留まる）要因につながっている
- ・就労に動こうとしても募集が少なかったり、ダメだろうと悲観的になることも多くみられた
- ・居場所利用者の就労先が医療機関や施設であった場合、本人が自粛し来なくなっている

- ・自粛期間中、訪問拒否により訪問できなかったことで、関係がとまったケースがある
- ・ひきこもりが、よりひきこもりやすい環境となり、支援等が一層困難となっている
- ・ひきこもりの方がプログラムの参加にあたって、感染リスクを恐れて抵抗を示した
- ・元々強迫症状のある本人の症状が増悪、家族にも外出制限を強いるケースもある
- ・この先日本がどうなってしまうのかという不安から日常生活のリズムを崩す
- ・見通しのわからない不安が高まり、攻撃的な行動が出現することもあった
- ・外に出ない人ほどウィルスの脅威を過大に認識している傾向がある
- ・公共交通機関を利用することへの抵抗感から来所中断
- ・訪問を拒否され、本人と会う機会が減っている
- ・外出の不安から来所できない方の存在
- ・通院を控えたり、精神的に不安定に
- ・精神疾患を有する方の症状の増悪
- ・来所の動機付けが低下
- ・外出意欲の低下
- ・服薬中断

○好影響

- ・コロナでみんなが引きこもりを疑似体験し、報道等でも就職相談窓口を紹介する機会が増えたので、当事者が重い腰を上げ、就業相談に来るケースが複数あった（今は相談しやすいタイミングなのかもしれない）
- ・特別定額給付金が当事者にとって、社会とつながる一つの契機となったほか、支援者にとっても、その用途を当事者と一緒に考えていくことが関係構築の一助となった
- ・相談数が急増する中、相談者からの聞き取りを通じて、家族の中のひきこもりを把握（発見）し、支援に至るケースが増えてきている
- ・ひきこもりの方々から「コロナで困っている人のために何かできないか」という発言があり、布マスク製作などの活動につながった
- ・何もやっていないと思ったがごみ捨てをしていることを知れた、普段の生活の様子が以前よりわかった、等の言葉が聞かれた
- ・今後も影響が残ることを鑑み、「会わなくても良い会」を考える必要性が生まれたとともに、会う有効性も双方が感じた
- ・外出自粛によって、親自身が家に居続ける事の大変さやストレスを身を持って実感し、ひきこもりへの理解が進んだ
- ・当事者家族による登校刺激や就労プレッシャーが少なくなり、家族関係が改善するなどの変化が見られた
- ・リモートによる研修実施など、ひきこもり研修における多様な開催方法のノウハウの蓄積ができた
- ・自粛生活でひきこもっていることに罪悪感を感じにくくなったのか、状態が落ち着いた方もいる
- ・コロナウィルスによる影響が大きな契機となり、WEBで相談できる体制を整備

- ・ web でのフリースペースがメンバー同士の新たな交流のツールとなった
- ・ 面接相談より web での相談時の方が会話が弾んだ
- ・ 電話をかける回数や手紙のやりとりが増えた
- ・ 在宅ワークが増えたため就職が決まった

○コロナウィルスの影響でひきこもり支援が後回しに

- ・ 生活困窮者自立相談支援センターをひきこもり支援窓口としているため、コロナの影響による困窮相談の激増により、ひきこもり支援の充実を図ることが更に困難に
- ・ コロナウィルスへの対応が優先となっており、引きこもり支援に対応するマンパワー、時間は縮小せざるを得なかった
- ・ ていねいに寄り添いながらステップアップし、プランを作成してゆっくり関わりたいが、余力が少なくなっている
- ・ 特例貸付の対応も重なることから、実態調査の必要性等について十分に検討・実施する余裕がない状態にある
- ・ 生活困窮者自立相談窓口の対応が膨大となり（通常の 10 倍以上）、ひきこもり支援を行うことができなかった
- ・ 困窮相談件数、住宅確保給付金申請件数が飛躍的に伸び、その対応に追われ、ひきこもり支援が後回しに
- ・ 市役所への来庁、訪問が制限されたため、さらに支援が後回しになった
- ・ 通常の相談業務にあてる時間が大幅に削られている
- ・ ひきこもり支援以外の喫緊の業務が急増した
- ・ 生活困窮の新規相談の増加
- ・ 同行支援ができない

○実態が見えにくくなった

- ・ 電話で声を聞くことはできるが、表情やしぐさまでは見えず、相談者にどのような変化が起こっているのか見落としていることがたくさんあるのではないかと心配
- ・ 外に出ない理由として「コロナウィルス」をあげる方が多く、都合のいい正当な理由となっている
- ・ 巣ごもりの推奨により、ひきこもりの人がひきこもりやすくなったため、顕在化しにくくなった
- ・ いかに相手との距離を縮められるかが重要だが、フェイスシールド越しだと壁を作ってしまう
- ・ 個別窓口相談を電話相談に切り替えているが、電話を受けることが困難な方もいて対応に苦慮
- ・ メール、電話、郵便で対応したが、一方通行になってしまうことが多かった。
- ・ 声の小さい当事者が多いため、電話及びマスク越しの会話は聞き取りづらい
- ・ 電話相談の場合、表情が見えないため相槌のタイミング等が難しい
- ・ 相談件数の増加により伴走型の相談支援の実施に苦慮

○会の中止（一時中止）、縮小、変更

- ・参加者同士ロールプレイを行っていたが現在は行っていない
- ・家庭への支援、訪問、家族会の自粛など活動が消極的に
- ・不特定多数を対象としていたが、事前予約制に
- ・本人の集いの一時縮小、地域によっては中止
- ・家族会は人数制限、予約制で実施
- ・家族会の中止、または一時中止
- ・サロン・相談会の中止

○支援の縮小、変更

- ・個別支援のメニューを一部変更（飲食を伴わない）したり、複数人ではなく一人ひとりの支援メニューのみとした
- ・就労支援や就労訓練のプログラムが全く組めない
- ・面談の頻度を減らし、所要時間も短縮
- ・就労準備支援事業プログラムの中止
- ・週5日の訓練が週2日に
- ・支援施設の利用の制限
- ・訓練の中止、中断

○オンライン支援の導入

- ・ZOOMで会議をしたり、訓練にもZOOMを利用したが、映像や電話よりもやはり対面がいい
- ・オンラインミーティングソフトを用いた相談支援を検討中
- ・支援者向けの専門研修を初めてオンラインで行った
- ・オンライン相談及び講演会、家族講座の配信
- ・対面相談から電話相談への切り替え
- ・研修等の講師が来れずZOOMで対応
- ・WEBで相談できる体制を整備

○啓発活動（研修、講演等）の機会の減少

- ・県研修会など、ひきこもり支援について学ぶ機会がなくなったり、他地域の家族会の視察の機会を失うなど、情報収集のための機会を逸している
- ・保健所が主催する家族教室・居場所・支援者研修・連携会議が中止となり、支援につながる機会や学びの機会が減った
- ・市長村プラットフォームを行っているものの、意見を聞きたい委員の参加が叶わない
- ・公開講座や支援者研修が開催できず、本人・家族や支援者が学ぶ機会が減った
- ・講演会、個別相談会、茶話会の中止
- ・研修会や講演会の規模の縮小

○家族の変化

- ・就職してほしいとの親御さんの気持ちが、外に出るのはコロナが収束してからでいいと先延ばしになり、関わりが中断しているケースがある
- ・コロナに感染しても、子を置いて入院できない、また子にうつしたら子は病院なんて行かないだろうととても敏感になり、ピリピリしていた
- ・コロナ感染を恐れて、家族から支援員の訪問等を拒むケースがあった
- ・感染への不安から面談を控えるケースが 8050 親世代で複数認められた
- ・相談員の面談や家族教室の機会が減り、家族のストレスが増した
- ・来所の動機付けが低下

○訪問支援の減少

- ・訪問が難しくなったため、電話相談による支援しか行えなくなった
- ・訪問の自粛により築き上げた関係性が再び薄れてしまった
- ・支援方法として訪問を選択する機会の減少
- ・訪問自粛により定期訪問ができなくなった
- ・アウトリーチの件数の激減

○事業・実態調査等の延期

- ・令和 2 年度に予定していたひきこもりの実態調査を延期したため、ひきこもり状態にある方の概数が不明で具体的な支援策の検討に至っていない
- ・今年度から開始する予定であった居場所創設、従事者研修等の新事業が実施できなかった
- ・居場所が、広さ、換気などの点から、コロナ禍での開催が難しくオープンできていない
- ・4 月から設置し始めた事業だが、実際に活動を開始できたのは 11 月からだった
- ・令和 2 年 4 月より全戸訪問開始予定だったが、開始を 6 月に延期した

○職員の負担の急増

- ・ワクチン接種を市町村で行うため、これからより多くの負担が増え、ワクチン最優先になることで、ひきこもり支援だけでなく全てにおいて影響がある
- ・来所が制限されたことで、利用者との連絡や支援が電話やメール等が中心となり、スタッフの業務が増した
- ・他事業も含め、実施そのものの検討が必要になり、職員の負担も大きい
- ・相談者が多く、相談員が精神的に疲弊している

○外出に対する積極的な呼びかけがしづらい

- ・家族のゆとりを取り戻すために趣味の活動や外出を促したいが、コロナ禍で難しい
- ・本人のエネルギーが溜まってきて外出を促したいが、コロナ禍で難しい
- ・居場所事業・家族交流会共に積極的な参加の呼びかけがしづらい
- ・「コロナがこわくて」と言われると来所の声かけなどしにくい

○新たなひきこもり

- ・4月の宣言が明けて3カ月経過した頃から、不登校やひきこもりの相談が増えた。本来ひきこもらなくて済んだ方がひきこもるようになっているのではないか
- ・特に自営業の世帯が生活に困窮されている現状で、世帯にはひきこもり状態の家族がいる事例も何件もあり、相談を受けている
- ・不登校の相談において、コロナにおける休校が影響しているケースが多く見られた
- ・離職・休業などでひきこもり傾向と考えられる相談があった

○家族関係の悪化

- ・普段日中に家にいることのない家族が家にいることにより、当事者との関係性が悪化した
- ・家族がテレワークなどで在宅時間が長くなり、トラブルが増加し、相談件数が増加した
- ・兄弟関係が悪化した
- ・虐待、DVが深刻化

○関係者間の連携の滞り

- ・関係機関との連携のために実施予定だった会議がコロナの影響により実施できなくなった
- ・関係機関との検討会を開催できなかった
- ・関係者の連携が滞ってしまう
- ・情報交換の場の減少
- ・リラックスした雰囲気を提供が困難に（家族のつどい）
- ・コロナ感染予防のため、広さのある会議室での開催となり、家族からは早くいつも通りの落ちつく空間の居場所で開催したいという声が多い
- ・前年はコーヒーやお茶菓子を用意してリラックスした雰囲気にできたが、今年はそれができなかった
- ・参加者の距離をとらないといけないため、コミュニケーションが従来通りにいかない

○高齢のひきこもりへの対応に苦慮

- ・相談者の状況を考慮してのキャンセルも多くあった（高齢者・持病等）
- ・ひきこもり家族が高齢な方が多いこともあり、集まりづらい
- ・家族を含め高齢の方が多く、訪問ができない

○来所、訪問相談の一時休止

- ・緊急事態宣言時は来所、訪問相談を一時休止し、電話相談のみに
- ・継続的な来所相談が難しく、支援が停滞した
- ・対面での支援が困難に

○相談件数の増加

- ・ 本人と過ごす時間が増えたことによるストレスを抱えた家族からの相談の増加
- ・ こころの相談（ひきこもり等）が全体的に増加している

○新規相談件数の減少

- ・ 来所や相談件数が減っており必要な支援が届いていない可能性がある
- ・ 昨年と比べて新規相談件数が減少

○親が職を失ったことにより困窮

- ・ 家族の経済的困窮（収入低下）に伴い、当事者に対する就労圧力や経済的援助の低下に関する相談を受けるようになった
- ・ 職を失った親の収入に頼っていたひきこもり本人も生活困窮に

○ひきこもりの情報入手困難に

- ・ ほとんどが地域住民からの情報によるものであるため、自粛期間が長期化すれば他者への関心、介入がうすれ、情報も入らなくなってくる
- ・ 民生委員等の活動が制限されたことで、地域からの声を拾い上げる機会が減った

○会再開時の反応

- ・ 中止から再開した際は、新しく参加する方もいて、結びつきを求める人も増えたように思った
- ・ 再開時の参加の多さに、皆待たれていたことが感じられた

○新たなひきこもり発見もフォローが不十分

- ・ 新規相談増加で、経済的困窮解消に係る相談の中で、ひきこもり状態の家族があることを発見するがその後のフォローができていない
- ・ これまで隠れていた潜在的なひきこもり者が浮き彫りになるケースもあったが、それに対する支援を希望する家族はいないのが現状

○その他の影響

- ・ 居場所の活動として、調理や食事等を取り入れており楽しみにされていた方もいたが、活動内容変更により参加者が減少している
- ・ 図書館等の公共施設の閉鎖により、外出先がなくなった方がいた
- ・ 感染予防に係る経費が膨らんだ
- ・ 就職内定取消
- ・ 求人の減少

○特に変化なし

- ・ コロナの影響はまだ現れていないと思われる

<新型コロナウイルスの蔓延でどのような影響を受けたか（回答者：ご家族）>

○体調不良・精神的に不安定に

- ・3月から休校になり、部活もなくなり、だんだん元気がなくなり、食欲低下、よく眠れなくなった。6月から学校再開したが、お弁当を食べるときしゃべらない、部活もなく、授業は今までの遅れを取り戻すべく、詰め込みで7月から引きこもりに
- ・どこへも外出したがない本人が親の還暦祝いのためにハワイ旅行の準備を自ら進んでしてくれたが、結局ぎりぎりキャンセルすることとなり、その後数ヶ月はうつっぽくなった
- ・給与が減ったことを本人に伝えたら、追いつめられたように、就労に走ろうとしたり、家族の買い物について無駄遣いだと責める等あった
- ・本人の姉がリモートで家で仕事をするようになり、隣の家の人にも家に居ることが多くなり、庭いじりをするたびにその物音に過敏になり、奇声を発するようになった
- ・ひきこもり気味の本人のアルバイトの仕事がなくなり、非常に不安定な状態に陥り、相談事が多くなり、家族も緊張をする場面が多くなっている
- ・息子とずっと自宅で過ごし、ストレスで体調を崩した。胃カメラ検査で胃の上部が赤く爛れている状態で、食欲もなく体重が3キロ落ちた
- ・本人の神経が過敏になり、声を荒げることが多くなった。（突然の来客時の親の対応や家庭内での音、時間に対して）
- ・日中隣人の物音が気になるらしく、物音がすれば、本人も大きな音を出すというトラブルの回数が増えて、不動産屋から苦情がきている
- ・息子に付き合っって一日に何度も出かけているので（図書館、本屋、スーパー等）ストレスで眩暈がでている
- ・交流や会話ができにくくなり、体力・気力が低下、うつ状態がひどくなった
- ・外出することをためらい、ストレスがたまり、睡眠に影響が出た
- ・実家に帰省できず、親の物忘れがひどくなった
- ・主人の職が無くなり、義家族とのトラブルから鬱に
- ・新型コロナウイルス感染症になって、本人がますます神経質になった
- ・コロナ感染が心配だと言うので、帰宅時間だけ1カ月余り車で迎えに行った
- ・アルコール量が増えた
- ・本人は変わらないが、私はうつの治療を8月から始めた

○家族の関係が良くなった

- ・外出が少なくなり、食事を一緒に作り食べることが多くなった。家でやることもあるが、今年は個人相談を受けたいと思うようになった
- ・家族みんなが自宅にすることが多くなり、本人より不満を聞くことも多くなったが、go to eat 等共通の楽しみを見つけ、一緒に行動する機会も多かった
- ・家族内では皆が家に居る事が多いため、ストレスも受けるが、会話をする機会も増え、いいこともある

- ・父親の健康を心配していぜんより優しく接するようになった。母親である私にも”気を付けて”と言ってくれる
- ・夫が在宅ワークになり、息子のことを夫と分かち合ったり、相談できたりして、息子へのストレスが軽減された。夫の息子への理解が深まった
- ・父親も姉もリモートやオンライン授業で自宅にいることが多く、家族で楽しむ時間が増えてうれしそうだった
- ・給付金もあったためか、これまでよりも旅行や外食に行こうという気持ちが出てきていた
- ・緊急事態宣言中、家族で一緒に居られて充実していた（本人も安定）
- ・本人は、コロナ蔓延で人々が自粛生活になり、心が少し穏やかになってきた
- ・母親が家族会に行く際、電車は密になりやすいからと車で送迎してくれた
- ・買い物にも同行して、親が感染しないようにと、気を配っていた
- ・自分の行動も両親や別宅に住む姉・兄家族のことも大変心配してくれた
- ・消毒液やマスクの調達など、親の気付かない所を補ってくれている
- ・家族内ではかえってお互いに気づかうようになった
- ・コロナに関して話をするようになった

○ストレス

- ・息子が A 型に行っておりコロナの影響で仕事が暇になっている。本人もそれに対して不安に思っており、その不安をとりのぞくことが大変
- ・新しい生活様式に慣れなければいけないけど、すぐにはうまくいかない不自由さを感じた
- ・コロナ前は年に 1.2 度娘と旅行に行っていたが、行けずにストレスがたまった
- ・友人・知人と自由に外食や外出をできずストレス、気晴らしができない
- ・息子に付き合っ一日に何度も出かけているのでストレスマックスに
- ・講演が中止となり、一步後退したように感じ、多少焦りを感じる
- ・私たち（親）は旅行にも行けず息抜きができない
- ・スーパーへ買い物ぐらいでストレスが溜まってきている
- ・会いたい人と自由に会えない、気持ちを発散できない
- ・本人・家族共に行動について自由が限られ窮屈である
- ・外食にも旅行にも行けない
- ・ジムに行けない

○好影響

- ・ひきこもりの娘が、何かできることをやってみようと在宅ワークの支援をしている会社に出会い、リモートで色々お仕事の支援やつながりも作ってもらい自信につながったようだ
- ・土日しか堂々と暮らせなかった子どもが、コロナでリモートワークが普通になって昼も堂々と買い物に行けたり、部屋の電気をつけられるようになった
- ・本人はコロナ禍について動じていなかったが、最近では自殺者の増加について思いやるようになっていく

- ・テレホンコンサートをした（遠くの友人と電話で歌や楽器での交流 民謡や演歌 津軽三味線、ギター、ハーモニカ）
- ・人との関わりが不得意な息子が、在宅の仕事を始めることができた（働き方が多様になり、選択肢が増えた）
- ・オンライン研修会や講演会に参加しやすくなった
- ・宅配の仕事なので仕事の量が増えたと言っていた
- ・引きこもりの長男が自主的に健康診断に行った
- ・本人は宅配便の利用回数が増えた
- ・家庭内の整理・整頓ができた

○よりひきこもるようになった

- ・父親と兄がリモートワークになった際は、やはり本人にとって居心地があまり良くなく、自分だけ就労していない負い目から部屋にひきこもることが多くなった
- ・パニック障害の娘は、自分がコロナにかかったら、65歳の母親にうつしてしまったら怖いといい、通院できなくなった。外出もできなくなった
- ・コロナ前は週1図書館に通っていたが、コロナによる閉館後、開館しても行かなくなった
- ・公共交通機関等の利用を避けるようになり、外出の機会が減った
- ・本人との外食・映画鑑賞の機会がなくなった
- ・感染の不安から外出の機会が減った

○普段いない家族がいることで窮屈に

- ・家族5人がほぼ家の中にいる状態になり、狭い家の中で常に顔を突き合わせることになり、イライラが募り、兄弟の衝突が起きそうになった
- ・息子と日頃外出の多い父親がずっと一緒にいることに対して、私（母親）は息の詰まる思いがした
- ・外出できにくくなったことにより、家の中で自分の安心できる場所がない、リラックスできない
- ・2つ上の姉が仕事が減り、家にいる時間が長いので、いらいらしているようだ
- ・家族（母親）は家に家族全員がいる状態にストレスを感じている

○特に影響なし

- ・本人は友人と直接会うことはなくなったが、オンラインや電話で交流しており、趣味の映画や本を買いに出かけることなくネットを利用している
- ・普段から外に出る回数も少なく、コンビニぐらいしか出かけず、それも夜なのでいつもと同じ
- ・特に影響はないと思われるが、親の外出減によりわずらわしさを感じているかもしれない
- ・本人は友人との交流がほとんどないためコロナによる影響はないように見える
- ・コロナが流行ったからと言って特に生活に変化はない

○楽になった

- ・酒の相手もしなくていいし、対人関係等何だったのだろうと思った。旅行等も何だったのかと思う。テレビの映像で十分
- ・化粧をしなくて良いし、自分や他人の臭いを気にしなくて良いので楽になった
- ・地区の行事が少なくなって気持ちが楽になった
- ・飲み会がなくなり、時間もお金も浮いた

○来店を拒否

- ・たくさんの人がいる店には行かないよう本人にきつく言われた
- ・今まではOKしていたが「コロナを持ち込むな」と拒否

○家族・祖母以外との接点がなくなった

- ・本人は知らない土地で彼女と一緒にバイトに挑戦してみようと思っていたが、コロナでバイトの求人がなくなり、彼女とも別れてしまい、完全に家族・祖母以外との接点がなくなってしまった
- ・友人と月に1回ほど外出していたができなくなった

○家族会休止

- ・家族会の中止やひきこもり支援センターの面会中止など、少ない相談場所がさらに少なくなった
- ・家族会に行けなくなり残念だった

○企業見学・就労見学の休止

- ・10年引きこもりの息子が就労移行支援事業所へ週2〜3回やっと思に行くようになったが、コロナで事業所が休所してしまい元に戻りがっかり
- ・就労見学が延期になった

○信頼関係が後退

- ・相談センターの業務もストップし、支援がほぼ途切れ、半年間に2回電話があっただけだった。折角繋がった信頼関係が後退したように感じた

○家族会の代表として開催・中止の判断に苦慮

- ・地域の家族会の共同代表として、月例会の開催などの配慮や中止の判断等に苦慮している

○訪問支援をストップ

- ・月1回ペースで隣県より訪問支援を受けていたが、前年2月末よりストップをお願いしたままとなっている。再開について迷っている

○不安

- ・仕事（サービス業）に行くのが不安

○コロナ禍だからこそ

- ・こんな時だからこそ、家族会を開いてみんなが寄り添い、悩みを吐き出せる場所が必要だと思う

<新型コロナウイルスの蔓延でどのような影響を受けたか（回答者：ご本人）>

○プラスの影響があった

- ・コロナウイルスには感謝している。セミナー・講演会・学習会が中止となり、本当に聴講したいのか、考え判断するのに再考が求められる。自分のこれからの予定・進路・本当にやりたいこと、家財道具の断捨離・整備・整理・整頓・軽薄短小の一助になる。自分のすべての見直し、キャリアプラン、マネーライフプラン見直しになった
- ・自宅の一階で菓子製造業をしており、休業要請対象ではなかったもので、毎日開けた。小さな店だが、リピーターさんにとってほっとする居場所にもなっているので、ステイホームで苦しんだ方々がおしゃべりに来たり、フードロス削減の取り組みを新たにできて（被災地の物産や農家の野菜）コロナ禍でも役に立てているんだという希望を頂けた。
- ・マスクの着用、アルコール消毒の日常化をする様になった。家の中の換気などの空気の清浄化を日常的になった
- ・パーソナルスペースを侵害されず、コロナのおかげで生きやすい
- ・外出時、マスクの着用、帰宅時の手洗い・うがいの徹底
- ・社会に参加してみようと思った
- ・給付金がうれしかった

○精神的に不安定に

- ・コロナ蔓延になり、主人と前妻の娘を引取り育てているが、ストレスから生理が止まり、娘の顔を見れなくなり、娘が居る時は自室に籠るようになった
- ・外出を控えることが多くなり体調に少なからず影響が出ていて、意欲も失っている（高齢の親は歩けなくなり入院中）
- ・友人とたまに会うことや気分転換の遠出ができなくなり、精神的な安定性が以前よりよくない
- ・気軽に出かけられないので、ストレスがたまる。イライラする
- ・人との接触により過敏になった

○収入減、求人減

- ・手伝っていたお店が緊急事態宣言に休みになってしまい、現時点では謝金がもらえていない
- ・再就職する会社が減った。ハローワークに行く気にもならない
- ・父、母共に仕事の日数が減り、収入が下がった
- ・仕事がしにくくなった

○家庭での居心地が悪くなった

- ・父親（高学歴（北大卒））が家でリモートワークになり、いっそう自分と顔を合わせるようになって居心地が悪い
- ・祖父母家族との同居も始まり、家においてもストレスがたまる日々が続いて親も本人も心休まる事がない
- ・家族で家にいる時間が増え、窮屈だった

○マスクの着用が苦痛

- ・店や仕事先でマスクが着用必須になっているのが苦痛
- ・マスクがうざったい
- ・マスクが息苦しい

○会の中止が残念だった

- ・家族会・居場所へ通うことができなくなった
- ・親の会、当事者の会双方が昨年末より中断
- ・例会が中止になったことが一番辛かった

○遠方の家族・友人に会えなくなった

- ・別居中の父と出会えなくなった。父の健康が心配
- ・県外の友人に会えなくなった

○その他

- ・外出できなくなったので誘いづらい
- ・特に影響はなかった

<新型コロナウイルスと共存していく社会において、どのような支援が必要か（回答者：ご家族）>

○オンライン支援

- ・受信環境が整わない、操作困難などから、情報を得られない家庭がある。内容の理解にも配慮が必要で、要点を短くわかりやすく、が大切
- ・SNS など不登校、引きこもりの当事者や家族がつながることのできるシステム作り
- ・仕事の例を気軽に見られたり、話したりできるオンラインでのシステム
- ・立ち直った方の話をリモートで聞きたい（県内だけでなく）
- ・●会等の講演や会合を web 配信または zoom で開催
- ・機器の支援を受けてオンラインのカウンセリング
- ・メールで情報を受け取れるようにする
- ・ZOOM 等を使っての相談会
- ・リモートでの社会参加

- ・オンライン講演会・勉強会
- ・オンラインによる当事者会
- ・ネット配信の充実

○話し相手

- ・支援というよりも、困ったことその困った子の親が安心できるための親の会がずっと続いてほしい
- ・住んでいる地区に、相談所や社会参加に向けた支援を一緒にしていただける人材が欲しい
- ・親子だけでは、当事者も親も元気にはなれない。一人ぼっちにはしないでほしい
- ・気軽に相談できる窓口・電話相談・話相手がほしい
- ・理解と支持をひきこもり本人も家族も求めている
- ・公的機関の職員による定期的な訪問が必要
- ・親のガス抜き場（家族会）が必要
- ・窓口となるところは丁寧な対応を
- ・精神科による訪問治療
- ・第三者の関りが必要

○やさしい社会

- ・人それぞれ生き方は違うし、これがいいと思うのは人それぞれ違い、正解はないと思う。それぞれの生き方を認め合うことができる社会
- ・今まで以上に声掛けや会話を増やし、仲間がいることをわかってもらい、明るい将来を発信してほしい
- ・1人1人が他人に対して優しさ、思いやりのある社会、弱者が困ったときすぐ答えてくれる場所が必要
- ・どんな感染症がでてきたとしてもいつもと変わらず「思いやり」にあふれた世の中であってほしい
- ・一人ではないんだよというメッセージを常に伝えることができる環境
- ・相手を思いやる心を忘れない社会であってほしい
- ・ひきこもりに対する偏見がなくなる社会
- ・経済的・社会的に安心してひきこもれる環境
- ・地域全体での理解

○親亡き後の支援

- ・親が年を取っていくことを理解できていない、自立できない息子が心配で先が見えない
- ・親亡き後本人が困った時にどこに助けを求めればいいのかという情報が必要
- ・本人が社会参加、精神科通院もしていないので解決の糸口が見えていない
- ・親亡き後のことを考えると、共同で生活できる場があればいい
- ・本人は自分から支援を求めることはしないと思う
- ・先が見えない

○従来通りの支援

- ・月例会はよほどのことがない限り感染防止して開催してほしい（家族の中には1カ月延期することで苦しんでいる方がいる）
- ・多勢で集まることが難しい時には、少人数、もしくは手紙、メール、電話等で連絡を取り合い孤立しないようにしてほしい
- ・今までのつながりを大切に、本人や家族が孤立することのないような安心できる支援が必要
- ・消毒的、アクリル板、マスク等、きちんと対策を取った上で個別訪問
- ・本人、家族が個別に施設を訪問（交通費等の支援を受けて）
- ・感染対策をした上で家族会を積極的に行うべき

○居場所

- ・ひきこもり経験者がひとつひとつ段階を経て社会とつながれるよう、理解のある場所（仕事をする、集まれる、資格が取れるなど）が地域にあるといい
- ・●市で不登校や引きこもりの方たちの居場所を作って活動している方がいる。●市にもそのような場所があるといい
- ・本人には他者とつながれるシステムが必要、家族は気軽に相談できる場が必要
- ・ひきこもり当事者や家族が、まずは自分を認められる場があるといい。
- ・本人には居場所が、家族にはほっとできる場が必要

○情報提供

- ・こもっていてもできる社会参加や仕事の情報がほしい
- ・相談できるところがなかなかわからない、そこが問題
- ・本人が関心のある本、その他ニュース等の情報を伝える
- ・当事者がどうやって生き延びてこられたのか知りたい
- ・どのような支援があるのか知りたい

○ひきこもりへの手当、年金

- ・親の死後、最低限の生活が維持できるようにしてほしい
- ・障害者年金の受給案件について行政が積極的に対応を
- ・本人の収入が少しあればよいと思う
- ・経済的支援

○コロナ感染時の支援

- ・本人と母親の2人生活なので、どちらか、あるいは両方感染した場合、最低限の生活をする上での協力者、支援者が必要（子どもがひきこもり状態であることをよく理解している協力者が望ましい）

- ・万が一コロナに感染してしまった時、適切な医療が受けられるように、本人（子ども）が路頭に迷うことのないように、コロナ対策が安心できるものになることを望む
- ・自分は病持ちなので、身近に迫ってきそうなコロナウィルスにもしも感染した時、誰も行かない本人との連絡が心配
- ・本人と親ひとりなどの生活において緊急時の対応確認が必要

○就労支援等

- ・社交に不安がある多くの方々のためにも在宅勤務を含めた仕事の拡充
- ・安心して働ける場、就労、学校生活などをきちんと保障してほしい
- ・障害認定を受けていなくても、就労支援、自立訓練等の支援を受けたい
- ・在宅ワークの指導・斡旋

○ワクチン

- ・ワクチンの安全性が証明され、今の窮屈な生活からお互いを縛らなくてもいい状態に
- ・全国民に安全なワクチンを
- ・マスクをしなくていい生活に
- ・PCR 検査

○テレビでひきこもりをもっと取り上げてほしい

- ・テレビでもいいので「引きこもり関連のドラマ」とか、お笑い芸人にひきこもりに注目する番組をしてもらおう
- ・ひきこもりをもっと TV で取り上げてもらい、理解してもらいたい

○居場所への補助金

- ・居場所へのお金の支援。寄付だけでは限界がある。

○●県●町のような支援

- ・コロナがあってもなくても●県●町のような支援をしてほしい

○訪問看護、訪問介護

- ・本人が他人の受け入れを拒否すると思うが訪問看護、訪問介護の必要性を感じている

○ひきこもりのイメージを明るいものに

- ・「ひきこもり」という言葉が暗い。「こもりびと」とか「やさしい人々」「みらいびと」とかもっと明るいイメージの言葉に変えたい

○その他の支援

- ・コロナ渦で薬も 2 か月分くらいになりちょっとした相談もできなくなった。医院側からも具合を聞いてくれるようになると良い

- ・車の免許更新（更新期間が延長されるとか、家族も手続きをスムーズにできるとかしてほしい）
- ・マスク、消毒液、うがい薬等衛生用品の価格を安くしてほしい
- ・75歳以上国民健康保険の負担が1割のままで継続
- ・一人一人に合ったオーダーメイドの支援
- ・何日か置きの安否サービス
- ・携帯電話料金の値下げ
- ・傾聴ボランティア

<新型コロナウイルスと共存していく社会において、どのような支援が必要か（回答者：ご本人）>

○オンライン支援

- ・ZOOM や SNS などのツールをうまく活用して気軽につながりを感じられる取り組み
- ・手紙や電話相談の充実（切手不要のはがきや封筒を配布）
- ・公園、図書館、公共施設などの WIFI スポット整備
- ・オンラインと従来の支援との組み合わせ
- ・経済的に困っている家庭への機器の提供
- ・オンラインツール活用の講座
- ・オンラインで講師を招く

○福祉の根本的な見直し

- ・コロナとの共存では今までのライフスタイルが通用しなくなるので福祉の在り方を根本から変えることが必要
- ・引きこもり、ネットカフェ難民、生活困窮者、路上生活者、依存症者のための公営住宅、専門部署の整備
- ・ベーシックインカムを導入
- ・年金制度の見直し
- ・生活保障の支援

○コロナ以前と変わらない支援

- ・「新しい生活様式」と言われているが、社会の動きや流れに左右されるのが強いストレスだった
- ・リアルでの集まりを過度に規制するのではなく、感染対策を取りながらふれあいの場を作る
- ・感染防止の対策を取った上で相談や居場所を再開
- ・直接会っての支援が一番

○孤立させない支援

- ・引きこもりの中には、インターネットやパソコン、スマホなどに恐怖を感じている人もいます。そういう人にも支援の手が届く様に教えて欲しい。弱い者の中のさらに弱いものを取り残されない様にしてほしい
- ・当事者の家族や、社会とのかかわりを持ち出した引きこもり当事者には外の世界との関わりが無くならないような支援が必要
- ・1日中家にいて今まで以上に気が滅入ることが増えるため、悩み相談室のような気軽に話をしたりする支援が必要

○雇用の確保

- ・zoom 会議等で勤務できる雇用の支援
- ・行政による就職活動の活性化
- ・安定した職・労働環境

○継続的な支援

- ・定期的に声をかけてくれる行政の相談員が必要

○親がコロナにかかった時の支援

- ・電話が苦手な人は特に支援が必要。連絡先をきちんと知ってもらえるような仕組みが必要

○SST や CBT

- ・ますます人と会わなくなる社会になり、人とのコミュニケーションスキルが低下しているため SST や C B T が必要

○マスクの支給

- ・職場でマスク着用が義務づけられているので、マスクを支給してほしい

○現金支給

- ・本人にお金を無条件に給付することが必要。ひきこもり本人は働いていないのでお金がなく、電車賃もないので、支援場所へ行くことさえできない

おわりに

本年度の調査では、家族会の設置状況、運営の実態、効果について調査を行いました。昨年度行った居場所に関する調査と合わせて考えると、居場所以上に家族会の必要性については認識が進んでないように感じました。家族会は家族だけでも自主的に運営しやすい場であるとともに、本人に会えない状況においてもつながりを維持するために有効な支援手法でもあります。そうした意味では、居場所の設置が困難な地域においても、まずは家族会の設置から進めることは有効な方法であると言えます。

ひきこもりの高年齢化が叫ばれるようになって久しいですが、2020年はCOVID19によって、ひきこもりの家庭が更なる孤立に追い込まれています。こうした中で、対面だけにこだわらない多様なつながり方としてオンライン支援の促進が求められています。ただ、オンラインのみの推進を求めているのではなく、対面だけではない多様なつながり方こそが求められていることを強調しておきたいと思います。孤立は、その人が無理なく安心してつながるための多様性が失われたときに生じると言えます。

昨年度、報告書を作成している時、COVID19によって世界が激変していました。それから1年以上が過ぎ、今の生活にも慣れてはきましたが、多くの場面で制限を課される生活は大きな負担となっています。あと数年はこの状況が続くといわれていますが、変化を強制されている今だからこそ、新たなよりよい社会を構築していける好機でもあります。ひきこもり支援におけるいい変化を残し、新たな変化を促進するために、本報告書の知見を活かしていただければ幸いです。

令和3年3月吉日

調査事業委員長

境 泉洋 (宮崎大学教育学部 教授)

調査事業委員

Junwen Chen (Senior Lecturer,

The Research School of Psychology

Australian National University)

野中 俊介 (東京未来大学こども心理学部 講師)

尾之上 麗 (宮崎大学教育学部 事務補佐員)

参考・引用文献

- Cruwys, T., Dingle, G. A., Hornsey, M. J., Jetten, J., Oei, T. P., & Walter, Z. C. (2014). Social isolation schema responds to positive social experiences: Longitudinal evidence from vulnerable populations. *British Journal of Clinical Psychology, 53*(3), 265-280.
- Haslam, C., Holme, A., Haslam, S. A., Iyer, A., Jetten, J., & Williams, W. H. (2008). Maintaining group memberships: Social identity continuity predicts well-being after stroke. *Neuropsychological rehabilitation, 18*(5-6), 671-691.
- Hughes, M. E., Waite L.J., Hawkey L.C., & Cacioppo, J. T. (2004). A short scale for measuring loneliness in large surveys: results from two population-based studies. *Research on Aging, 26*, 655-72.
- Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the three-item loneliness scale. *BMC psychology, 7*(1), 20.
- Nagata, T., Nakajima, T., Teo, A. R., Yamada, H., & Yoshimura, C. (2013). Psychometric properties of the Japanese version of the Social Phobia Inventory. *Psychiatry and Clinical Neurosciences, 67*(3), 160-166.
- Nonaka, S., Shimada, H., & Sakai, M. (2018). Assessing adaptive behaviors of individuals with hikikomori (prolonged social withdrawal): development and psychometric evaluation of the parent-report scale. *International Journal of Culture and Mental Health, 11*(3), 280-294.
- Oshima, F., Iwasa, K., Nishinaka, H., Suzuki, T., Umehara, S., Fukui, I., & Shimizu, E. (2018). Factor Structure and Reliability of the Japanese Version of the Young Schema Questionnaire Short Form. *International Journal of Psychology and Psychological Therapy, 18*(1), 99-109.
- 境 泉洋、斎藤まさ子、本間恵美子、真壁あさみ、内藤 守、小西完爾、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2013)。「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑩ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態一。
- 境 泉洋、植田健太、中村 光、嶋田洋徳、坂野雄二、NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2004)。「引きこもり」の実態に関する調査報告書① -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態一。
- 境 泉洋、川原一紗、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2008)。「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態一。
- 境 泉洋、川原一紗、木下龍三、久保祥子、若松清江、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2009)。「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態一。
- 境 泉洋、中垣内正和、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2007)。「引きこもり」の実態に関する調査報告書④ -NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態一。
- 境 泉洋、中村 光、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)。(2006)。

- 「引きこもり」の実態に関する調査報告書③ –NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会
 における実態–.
- 境 泉洋、平川沙織、原田素美礼、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合
 会）. (2012). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨ –NPO 法人全国引きこもり
 KHJ 親の会における実態–.
- 境 泉洋、堀川 寛、野中俊介、松本美菜子、平川沙織、& NPO 法人全国引きこもり KHJ
 親の会（家族会連合会）. (2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧ –NPO
 法人全国引きこもり KHJ 親の会における実態–.
- 境 泉洋、野中俊介、大野あき子、& NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合
 会）. (2010). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦ –NPO 法人全国引きこもり
 KHJ 親の会における実態–.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2014). ひきこもりピア
 サポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2015). ひきこもりの実
 態およびピアサポーター養成・派遣に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2016). ひきこもりの実
 態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）. (2017). ひきこもりの実
 態に関するアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2018). ひきこもりの実態に関す
 るアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2019). ひきこもりの実態に関す
 るアンケート調査報告書.
- 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (2020). ひきこもりの実態に関す
 るアンケート調査報告書.
- Uchida, T., Kawamura, C., Mifune, N., Hamaie, Y., Matsumoto, K., Hideo, A. M. B. O., &
 Takashi, U. E. N. O. (2012). The Japanese Version of the Brief Core Schema Scale for
 Schemata Concerning the Self and others: Identification of Schema Patterns and
 Relationship with Depression. *Japanese Journal of Personality*, 20(3).

資 料

資料 1 家族会設置状況調査

「ひきこもり支援のための家族会の設置状況」調査票

特定非営利活動法人
KHJ全国ひきこもり家族会連合会
(令和2年度厚生労働省社会福祉推進事業)

※当該調査は、同封の返信用封筒にて2021年2月12日(金)までにご返送ください。

＝本調査に関するお問い合わせ先＝

宮崎大学教育学部 境 泉洋研究室
電話：0985-58-7458 E-mail: sakai.motohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp
※調査内容については、研究室にお問い合わせください。

＝本事業全体に関するお問い合わせ先＝

KHJ全国ひきこもり家族会連合会
電話：03-5944-5250 E-mail: info@khj-h.com

【留意事項】

○調査票に示す「ひきこもり」の定義は次の通りとします(年齢の制限はございません)。

「ひきこもりとは、様々な要因の結果として社会的参加(大学・専門学校等の就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交友など)を回避し、原則的には6カ月以上わたって概ね家庭に留まり続けている状態(他者と交わらない形での外出を避けていてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づきひきこもり状態とは一線を画した非精神病的現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないことに留意すべきである。」(平成22年5月公表『ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン』より引用)

○調査票に示す「家族会」の定義は次の通りとします。

家族会とは、「ひきこもり状態にある方の家族(両親、祖父母、兄弟姉妹など)を支援するために、複数の家族が集える場として、定期的、あるいは比較的定期的に関設されている場」を指します。(行政が個々の家族からの相談を受ける家族相談会は、家族会に含まないでください)

○本調査に関する数値や状況は、2020年度(2020年4月1日～調査回答時)の間に把握している事項でお答えください。各設問に該当しない場合は未記入をお願いします。

自治体名	貴機関名
担当課(室)	職名・職種
	担当者名
	連絡先

【質問1：ひきこもり相談対応の有無】

貴機関では、ひきこもりの相談を行っていますか？該当するものに○を付けてください。

- ・行っている
- ・行っていない

【質問2：ひきこもり支援のための家族会の設置状況】

貴機関(自治体)内においてひきこもり支援のための家族会が設置されていますか？該当するものに○を付けてください。

- ①自治体が主体となって設置・運営している
- ②自治体と民間支援団体が連携して設置・運営している
- ③民間支援団体が設置・運営しているものがあり、行政と連携してひきこもり支援に取り組んでいる
- ④行政との連携関係はないが、民間支援団体が設置・運営しているものがある(存在を知っている)
- ⑤家族会はない又は存在を知らない

※「質問2」で④又は⑤を選択した場合のみ「質問2-1」にご回答ください。

質問2-1(1) 今後の家族会の設置予定について該当するものに○を付けてください。

- ① 家族会の設置・運営を積極的に検討している(年以内)
- ② 家族会の必要性が生じれば、設置・運営を検討しようと考えている
- ③ 通常の業務が繁忙で、家族会の設置・運営を検討できていない
- ④ ひきこもり状態にある方がいる世帯数が未知数で、家族会の必要性があるか分からない
- ⑤ その他()

※①②は、a)自治体が主体となる場合、b)民間支援団体が設置した家族会と自治体が連携する場合のどちらの場合でも構いません。

【質問3：地域家族会の効果、ニーズ、課題】

貴機関(自治体)内において、ひきこもり支援のための家族会を設置・運営することについて、当てはまる数字を一つ選んで○を付けてください。

1. 家族会の設置はひきこもり支援において有効である	まったく当てはまらない	ほん少し当てはまらない	もう少し当てはまらない	かなり当てはまる	完全に当てはまる
2. ひきこもり支援において家族会設置へのニーズがある	1	2	3	4	5
3. 家族会の設置・運営の負担は大きい	1	2	3	4	5

質問3-1(1)

貴機関(自治体)内で家族会を運営する上で考えられる課題について、該当するものに○を付けてください。(複数回答)。

- ①人材養成確保 ②施設の整備拡充 ③財源の確保 ④支援者の質や力量 ⑤プログラムの検討

質問3-1(2)

上記以外の課題があれば、以下に自由記述でご記入ください。

【質問4：新型コロナウイルスの影響】

新型コロナウイルスの蔓延が、貴機関(自治体)の管轄内におけるひきこもり支援に与えた影響について、以下に自由記述でご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

資料 2 家族会運営者調査

必要がないと認識している	取り組む	1	2	3	4	5
② 家族会参加者個人の個々の状況を尊重し、個人情報保護等（※6「個人情報保護」）、尊厳が遵守されるようルールを定める等の取り組みをしている	取り組んでいるが、課題を感じている	1	2	3	4	5
③ 家族会が定期的に開催されるよう、会計管理がなされて、会場や費用の確保がされている	取り組んでいるが、課題を感じている	1	2	3	4	5
④ 災害や事故などに遭遇した際に、必要に応じて関係機関と連携を取れるリスクマネジメントに取り組んでいる	取り組みを検討している	1	2	3	4	5
⑤ 家族会の質の向上のために、役員やスタッフが研修に参加したり、必要に応じて関係機関に相談できる仕組みを設けている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
3. 家族会のプログラム						
① ※家族会参加者から相談を受けた回数（ ）回	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
② 家族会参加者のニーズや要望に適したプログラムを、役員・スタッフや参加者の意向を踏まえて話し合う体制ができている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
③ 必要に応じて、内部・外部有識者の協力を得られる体制がある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
4. 行政（主に区市町村）のひきこもり担当所管との連携						
① 当該地域の行政担当所管と連携し、協力関係にある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
② 家族会参加者が速やかに行政に相談し、協力関係にある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
③ 行政担当所管と運営方法や家族会プログラムについて相談できる仕組みがある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
④ 家族会参加者からの困りごとや苦情について、行政と共に課題解決を目指す体制がある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
⑤ 当該地域の行政（区市町村）からの事業の委託や人的交流等に対応している	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
5. 当該地域における関係機関ネットワーク						
① 【家族会の広報】 家族会が有用な地域資源として、地域の関係機関のネットワーク（協議会・連絡会など）に参加している	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
② 【家族→関係機関】 必要に応じて地域の関係機関（保健所、医療機関、社協、自立相談窓口、就労支援機関、その他の専門職等）を家族会参加者に案内し、つなげていく取り組みをしている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
③ 【関係機関→家族会】 地域の関係機関からの相談や対応を受け、家族会で対応する連携体制がある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
6. 個人情報保護（※この項目は、評価項目2-②の「個人情報保護」について、取り組みが行われている場合に詳細に検討する項目です。）						

必要がないと認識している	取り組む	1	2	3	4	5
① 家族会参加者に関する情報（事項）を外部機関や関係者とやりとりする必要がある場合には、家族会参加者の同意を得るようにしている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
② 家族会運営やプログラムにおいて、家族会参加者の価値観や生活習慣、プライバシーに配慮した運営をしている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
③ 家族会参加者がプライバシーを阻害されたと感じた場合に、対応できる仕組みがある	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
④ 関係機関から得られた個人情報漏洩しない、させない取り組みをしている	取り組みを始めたばかり	1	2	3	4	5
12. 新型コロナウイルスの蔓延で家族会はどのような影響を受けましたか？あなたの家族会で起こったことも含めて自由にお書きください。						
13. 今後、新型コロナウイルスと共存していく社会において、家族会にどのような支援が必要になると思いますか？あなたの考えを自由にお書きください。						

資料3 KHJ 支部調査（ご家族用）

ご家族用

アンケートの説明

本調査は、厚生労働省の令和2年度 厚生労働省 社会福祉推進事業「行政と連携したひきこもりの地域家族会の活動に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、新型コロナウイルス蔓延禍における家族会の効果把握すること を目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を発展させる資料として、当会のホームページでの公開をはじめ、報告書、学術論文、学会発表等で発表し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。なお、本調査は、無記名 で実施されますが、追跡調査にご協力いただける方には、氏名、住所等のご記入をお願いしております。氏名、住所等の情報は、追跡調査の依頼のみに使用します。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいませよう、お願い申し上げます。記述内容や調査結果の解析において個人が特定されることはありません。また、提出されたアンケート用紙は返却致しませんので、ご了承ください。本調査は、宮崎大学教育学部倫理委員会の承認を得て実施されます。

調査の回答に際してご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方(ご家族など)を「あなた」、ひきこもりの状態にある(あなた)方を「ご本人」と表記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ 参加は完全に任意です。理由を挙げることもなく参加を拒否したり途中で参加を止めることができます。それによって不利益を被ることはありません。
- ④ このアンケートの提出をもって、本研究へのご協力に同意していただけたものとさせていただきます。
- ⑤ 無記名での調査であるため、アンケート提出後は、研究参加(データ利用)の中止のお申し出には応じられませんので、予めご了承ください。

この用紙はお持ち帰りください。

次ページ以降を2021年1月末日までに返信用封筒にてご返送ください。

本調査について何か疑問が生じたり、あるいは調査の過程で何か問題が生じた場合には、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

実施責任者連絡先
〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学教育学部 境 泉洋
TEL & FAX 0985-58-7458
E-mail : sakaimotohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨316-12-301
NPO 法人KHU 全国ひきこもり家族会連合会事務局
Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290 E-mail : info@khj-h.com

ひきこもりの状態・・・この調査では、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていない)のことを言います。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、ご記入ください。

1. ご本人は現在、ひきこもりの状態ですか? → a. はい b. いいえ

2. ご本人は過去に、ひきこもりの状態を経験されたことがありますか?
→ a. はい b. いいえ

3. ひきこもりの状態にある人が、家族に2人以上いる方は次の問いにお答えください。
家族の中でひきこもりの状態にある方の人数をお答えください。→ 「」人

2人以上いると回答された方は、ひきこもりの状態を経験された方一人につき、
一部の質問紙に、お一人でご回答くださいませよう願っています。

4. 下の列を参考に、ご本人のひきこもり期間をお答えください。

(例) 19. 才から1年6か月間と、24. 才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目:() 才から、() 年() か月間
2回目:() 才から、() 年() か月間

1回目:() 才から、() 年() か月間
2回目:() 才から、() 年() か月間
3回目:() 才から、() 年() か月間

5. 以下の質問は、ご本人の最近2週間(別居の場合、知りうるかぎり最近)の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるものを1つを丸(○)で囲んでください。

	全 く あ ら な い は ま	あ ま ら な い は ま	少 し あ ら な い は ま	非 常 に あ ら な い は ま
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 居室に閉じこもる	0	1	2	3

6. ご本人のここ1か月の外出日数をお答えください。
→ 1か月につき () 日

B. 下記の質問は、ご本人の支援機関の利用状況についてお尋ねするものです。

1. ご本人は、ひきこもりに関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

- a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
- b. いいえ

2. ご本人は、ひきこもりに関して、支援、医療機関の利用を中断したことがありますか。

- a. はい
- b. いいえ

C. 下記の質問は、あなたの支援機関の利用状況についてお尋ねするものです。

1. あなたは、ひきこもりのご本人に関して支援・医療機関等を利用したことがありますか？ 利用したことがある場合、継続的に利用していますか？

- a. はい → ①継続的に利用している ・ ②継続的に利用していない
- b. いいえ

2. あなたは、ひきこもりのご本人に関する支援、医療機関の利用を中断したことがありますか。

- a. はい
- b. いいえ

D. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線に具体的に記入してください。

- 1. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい： _____ 都・道・府・県
- 2. ご本人から見た、あなたの立場をお答え下さい：
a. 母親 b. 父親 c. その他 (具体的に _____)

3. あなたの年齢をお答え下さい：(_____ 歳)

4. ご本人の性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性 c. その他 (_____)

5. ご本人の年齢をお答え下さい：(_____ 歳)

E. 以下の質問では、ご本人の社会参加についてお答えください。

1. 以下の2時点における、ご本人の社会参加の困難度について「まったく困難を感じていない：1」から「とても困難を感じている：10」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○ (丸) で囲んでください。

ご本人は、現在、社会参加に関して困難を感じていますか？

まったく困難を感じていない

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

とても困難を感じている

ご本人は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前に、どの程度社会参加に関して困難を感じましたか？
まったく困難を感じていない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
とても困難を感じている

2. 世帯全体の年収について

2020年の世帯全体の年収について、最もあてはまるものを以下のうちから1つ選んでください。

1. 0-99万円	6. 500-599万円	11. 1000-1499万円
2. 100-199万円	7. 600-699万円	12. 1500-1999万円
3. 200-299万円	8. 700-799万円	13. 2000-2499万円
4. 300-399万円	9. 800-899万円	14. 2500-2999万円
5. 400-499万円	10. 900-999万円	15. 3000万円-

新型コロナウイルス感染症が蔓延する前の2019年の世帯全体の年収について、最もあてはまるものを以下のうちから1つ選んでください。

1. 0-99万円	6. 500-599万円	11. 1000-1499万円
2. 100-199万円	7. 600-699万円	12. 1500-1999万円
3. 200-299万円	8. 700-799万円	13. 2000-2499万円
4. 300-399万円	9. 800-899万円	14. 2500-2999万円
5. 400-499万円	10. 900-999万円	15. 3000万円-

F. 下記の質問は家族会に関するお尋ねするものです。

1. あなたが入会しているKHJ 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。

※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。

- a. 会の名前 (_____)
- b. 入会していない

2. 家族会への①参加状況、②参加回数についてお答えください。

- ① a. 継続している b. 中断している
- ② a. 0回 b. 1回 c. 2-9回程度 d. 10-20回程度 e. 20回以上

3. 家族会において重要だと思うことについて、あなたの考えを自由にお書きください。

4. 下記の質問は家族会の効果に関してお尋ねするものです。下の表に示された項目について、ご本人の様子に当てはまる数字を一つ選んで○をつけてください。表中の数字の意味は以下の通りとなります。

1. 該当しない・この項目は関係しない 2. ほぼこの状態に該当する
 3. この状態に該当するときと、そうでない時がある
 4. この状態が少し改善されたと感じている 5. この状態が大きく改善されたと感じている

	現在	新型コロナウイルス感染症が蔓延する 2020年1月1日以前
1. ご本人の様子 (家庭内)		
1 家族と本人の接点がほとんどない	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
2 昼夜逆転や家庭内暴力・暴言がある	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
3 家族との接点はあるが、日常会話は乏しいか表面的	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
4 セルフケア(散髪、入浴、着替え、部屋の片づけなど)を本人が自ら行っている	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
5 家族と日常会話ができる	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
6 電話の応対ができる、宅配便や郵便の受け取りができる	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
7 自室内で自分の楽しみを見つけている、趣味がある	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
ご本人の様子 (対外的な様子)		
1 まれにしか外出しない(月1回以下)	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
2 限定的に外出や買い物をしている	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
3 近所を散歩する、家族の頼まれごとの買い物もする	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
4 偶然、近所の人に会えば挨拶できる	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
5 限定された家族以外の人と交流がある	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
6 通院など、本人の生活に必要な外出ができる	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
7 趣味に関する活動で外出ができる	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
8 社会参加や就労などのきっかけを探しているようである	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

G. 以下の質問は、新型コロナウイルスの蔓延が与える影響について尋ねるものです。

1. 下記の質問は、ひきこもり状態にある方(以下、ご本人)の現在、もしくは過去3カ月以内(別居の場合、あなたか知りうるかぎり最近)の様子をお尋ねするものです。「全然ない:0」から「よくある:3」のうち、もっとも当てはまる数字1つを選択してください。ご本人には無関係だと思われる質問であっても、すべての質問について答え下さい。

	現在		新型コロナウイルス感染症が蔓延する 2020年1月1日以前	
	全然ない	あまりない	よくある	とてもよくある
1. 達成感の得られることをする	0	1	2	3
2. 目標に向けた取り組みをする	0	1	2	3
3. 力を貸してくれるように家族以外の人に頼む	0	1	2	3
4. 理想に近づくために努力する	0	1	2	3
5. 他者を遊びに誘う	0	1	2	3
6. 就学や就労のための準備を避ける	0	1	2	3
7. 社会参加をする	0	1	2	3
8. 家族との話し合いに応じる	0	1	2	3
9. 他者と会話をする	0	1	2	3
10. 他者と交流する場に行く	0	1	2	3
11. 家族以外の人に話しかける	0	1	2	3
12. 他者と会うことを避ける	0	1	2	3
13. 社会参加のために苦手なこともする	0	1	2	3
14. 理想的な生活に向けて取り組み	0	1	2	3

	現在				新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前			
	全然ない	あまりない	ときどきある	よくある	全然ない	あまりない	ときどきある	よくある
15. 自分の気持ちを家族以外の人に伝える	0	1	2	3	0	1	2	3
16. 仕事・学校に行くのを避ける	0	1	2	3	0	1	2	3
17. 他者と遊びに出掛ける	0	1	2	3	0	1	2	3
18. 呼び掛けに応じて外出する	0	1	2	3	0	1	2	3
19. 家族に話しかける	0	1	2	3	0	1	2	3
20. 仕事・学校に行く	0	1	2	3	0	1	2	3
21. 自分が楽しめる活動をする	0	1	2	3	0	1	2	3
22. 自ら外出する	0	1	2	3	0	1	2	3
23. 自分の気持ちを家族に伝える	0	1	2	3	0	1	2	3
24. 力を貸してくれるように家族に頼む	0	1	2	3	0	1	2	3
25. 就学や就労に必要な情報を集める	0	1	2	3	0	1	2	3
26. 自分の欲しいものを買うために外出する	0	1	2	3	0	1	2	3

2. 以下の質問をよく読んで、あなたが自分に当てはまると思う数字に1つをつけてください。

1. 全般的にみて、私は自分のことを () であると考えている

	非常に不幸な人間					非常に幸福な人間				
現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

2. わたしは、自分と同年齢の人と比べて、自分を () であると考えている

	より不幸な人間					より幸福な人間				
現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3. 全般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況の中でも、そこで最良のものを見つけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもちますか？

	まったくくない					とてもある				
現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

4. 全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけでは無いのに、だから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもちますか？

	まったくくない					とてもある				
現在	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
新型コロナウイルス感染症が蔓延する2020年1月1日以前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3. 新型コロナウイルス感染症の蔓延でご本人、ご家族はどのような影響を受けましたか？あなたの体験したことも含めて自由にお書きください。

資料4 KHJ 支部調査（ご本人用）

アンケートの説明

ご本人用

本調査は、厚生労働省の令和2年度 厚生労働省 社会福祉推進事業「行政と連携したひきこもりの地域家族会の活動に関する調査研究事業」の助成を得て実施しています。

本調査は、新型コロナウイルス蔓延禍における家族会の効果を把握すること を目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり支援を推進させる資料として、当会のホームページでの公開をはじめ、報告書、学術論文、学会発表等で発表し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。なお、本調査は、無記名で実施されますが、追跡調査にご協力いただいた方には、氏名、住所等のご記入をお願いしております。氏名、住所等の情報は、追跡調査の依頼にのみ使用します。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力下さいますよう、お願い申し上げます。記述内容や調査結果の解析において個人が特定されることはありません。また、提出されたアンケート用紙は返却致しませんので、ご了承ください。本調査は、宮崎大学教育学部倫理委員会の承認を得て実施されます。

調査の回答に際してご注意いただきたい点

- ① この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ② 参加は完全に任意です。理由を挙げることなく参加を拒否したり途中で参加を止めることができます。それによって不利益を被ることはありません。
- ③ このアンケートの提出をもって、本研究へのご協力に同意していただいただけのものとさせていただきます。
- ④ 無記名での調査であるため、アンケート提出後は、研究参加（データ利用）の中止のお申し出には応じられませんので、予めご了承ください。

この用紙はお持ち帰りください。

次ページ以降を2021年1月末日までに返信用封筒にてご返送ください。

本調査について何か疑問が生じたり、あるいは調査の過程で何か問題が生じた場合には、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

実施責任者連絡先
〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学教育学部 境 泉洋
TEL & FAX 0985-58-7458
E-mail : sakaimotohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 316-12-301
NPO 法人 KHU 全国ひきこもり家族会連合会事務局
Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290 E-mail : info@khj-h.com

ひきこもりの状態・・・この調査では、社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形式での外出をしていてもよい）のことを言います。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、ご記入ください。

1. あなたは現在、ひきこもりの状態ですか？ → a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に、ひきこもりの状態を経験されたことがありますか？ → a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えただけは、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

3. あなたの年齢をお答え下さい：()歳

4. あなたの性別をお答え下さい： a. 男性 b. 女性 c. その他 ()

5. あなたが住んでいる都道府県をお答え下さい： _____都・道・府・県

6. 下の列を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才から1年6か月間と、24才から5年3か月間ひきこもった場合

1回目：(19)才から、(1)年(6)か月間
2回目：(24)才から、(5)年(3)か月間

1回目：()才から、()年()か月間
2回目：()才から、()年()か月間
3回目：()才から、()年()か月間

7. 以下の質問は、あなたの **最近2週間** の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸 (○) で囲んでください。

	全く当てはまらない	あまり当てはまらない	少し当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
1. 自由に外出する	0	1	2	3	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3	3

8. あなたのここ**1**か月の外出日数をお答えください。

→ 1か月につき () 日

B. 下記の質問は、あなたの支援利用状況についてお尋ねするものです。

1. ひきこもりに関して支援、医療機関を利用したことがありますか。

利用したことがある場合、継続的に利用していますか。

a. はい → ①継続的に利用している ②継続的に利用していない

b. いいえ

2. ひきこもりに関して、支援、医療機関の利用を中断したことがありますか。

a. はい

b. いいえ

C. 以下の質問では、あなたの社会参加や職業についての考えをお答えください。

1. 世帯全体の年収について

2020年の世帯全体の年収について、最もあてはまるものを以下のうちから1つ選んでください。

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 0-99万円 | 6. 500-599万円 | 11. 1000-1499万円 |
| 2. 100-199万円 | 7. 600-699万円 | 12. 1500-1999万円 |
| 3. 200-299万円 | 8. 700-799万円 | 13. 2000-2499万円 |
| 4. 300-399万円 | 9. 800-899万円 | 14. 2500-2999万円 |
| 5. 400-499万円 | 10. 900-999万円 | 15. 3000万円- |

新型コロナウイルス感染症が蔓延する前の**2019年**の世帯全体の年収について、最もあてはまるものを以下のうちから1つ選んでください。

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 0-99万円 | 6. 500-599万円 | 11. 1000-1499万円 |
| 2. 100-199万円 | 7. 600-699万円 | 12. 1500-1999万円 |
| 3. 200-299万円 | 8. 700-799万円 | 13. 2000-2499万円 |
| 4. 300-399万円 | 9. 800-899万円 | 14. 2500-2999万円 |
| 5. 400-499万円 | 10. 900-999万円 | 15. 3000万円- |

2. 社会参加の困難度について「まったく困難を感じていない: 1」から「とても困難を感じている: 10」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。

あなたは、現在、社会参加に関して困難を感じていますか？

まったく困難を感じていない

とても困難を感じている

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

あなたは、新型コロナウイルス感染症が蔓延する**2020年1月1日以前に**、どの程度社会参加に関して困難を感じていましたか？
まったく困難を感じていない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
とても困難を感じている

D. 下記の質問は家族会に関するものです。

1. あなたのご家族が入会しているKHJ 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。
※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。

a. 会の名前 () b. 入会していない

2. あなたのご家族の家族会への①参加状況、②参加回数についてお答えください。

① a. 継続している b. 中断している

② a. 0回 b. 1回 c. 2~9回程度 d. 10~20回程度 e. 20回以上

E. 下記の質問は家族会に関するものです。

1. あなたが入会しているKHJ 家族会 (以下、家族会) の支部についてお答えください。

※複数ある場合は、主に活動している支部名をお書きください。

a. 会の名前 () b. 入会していない

2. あなたご家族会への①参加状況、②参加回数についてお答えください。

① a. 継続している b. 中断している

② a. 0回 b. 1回 c. 2~9回程度 d. 10~20回程度 e. 20回以上

3. 家族会において重要だと思うことについて、あなたの考えを自由にお書きください。

4. 新型コロナウイルスの蔓延でご本人、ご家族はどのような影響を受けましたか？あなたの体験したことを含めて自由にお書きください。

5. 今後、新型コロナウイルスと共存していく社会において、ご本人、ご家族にどのような支援が必要になると思われますか？あなたの考えを自由にお書きください。

以下の調査は、今年度のKHJ全国調査のテーマとは別のものですが、報告書には結果を記載致します。ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣意をご理解頂き、是非ともご協力頂きますようお願い申し上げます。

1. 以下の項目にどの程度あてはまるかについて回答してください。

	まったくあて まらない	1	2	3	4	5	6	7	非常に あてはまる
私は自分がひきこもりであると考えている	0	1	2	3	4	5	6	7	
現在所属している集団/組織/グループ/団体									
現在、私は多くの異なるグループに所属している	0	1	2	3	4	5	6	7	
現在、私は多くの異なるグループの活動に参加している	0	1	2	3	4	5	6	7	
現在、私はさまざまなグループのメンバーと友人関係にある	0	1	2	3	4	5	6	7	
現在、私はさまざまなグループと強いつながりがある	0	1	2	3	4	5	6	7	
ひきこもる前に所属していた集団/組織/グループ/団体									
ひきこもり始める前、私は多くの異なるグループに所属していた	0	1	2	3	4	5	6	7	
ひきこもり始める前、私は多くの異なるグループの活動に参加していた	0	1	2	3	4	5	6	7	
ひきこもり始める前、私はさまざまなグループのメンバーと友人関係にあった	0	1	2	3	4	5	6	7	
ひきこもり始める前、私はさまざまなグループと強いつながりがあった	0	1	2	3	4	5	6	7	

ひきこもり始めて以降も所属している集団/組織/グループ/団体

私はひきこもり始めて以降も、ひきこもり始める前と同グループに所属している	0	1	2	3	4	5	6	7
私はひきこもり始めて以降も、ひきこもり始める前と同グループ活動に参加している	0	1	2	3	4	5	6	7
私はひきこもり始めて以降も、ひきこもり始める前と同グループのメンバーと友人関係にある	0	1	2	3	4	5	6	7

私はひきこもり始めて以降も、ひきこもり始める前と同グループに強いつながりを持っている

	まったくあて まらない	0	1	2	3	4	5	6	7	非常に あてはまる
私はひきこもり始めて以降も、ひきこもり始める前と同グループに強いつながりを持っている	0	1	2	3	4	5	6	7		

新しい集団/組織/グループ/団体

ひきこもり始めて以降、1つ、またはそれ以上の新しいグループに所属するようになった	0	1	2	3	4	5	6	7
ひきこもり始めて以降、私は新しいグループの活動に参加するようになった	0	1	2	3	4	5	6	7
ひきこもり始めて以降、私は新しいグループの人(1人、もしくはそれ以上)と友達になった	0	1	2	3	4	5	6	7
ひきこもり始めて以降、私は1つ、またはそれ以上の新しいグループと強いつながりを持つようになった	0	1	2	3	4	5	6	7

帰属意識 (同一化) に関する単項目尺度

私は日本人としての帰属意識を持っている	0	1	2	3	4	5	6	7
私は地域社会の一員としての帰属意識を持っている	0	1	2	3	4	5	6	7
私は家族の一員としての帰属意識を持っている	0	1	2	3	4	5	6	7
私はビデオゲームのコミュニティに対する帰属意識を持っている	0	1	2	3	4	5	6	7
私は特定のゲーム友達グループやアドベンチャーパーティー(例えばフォートナイト、ファイナルファンタジーなどのゲームや、MMORPGなどのオンラインゲーム内のグループ)の一員としての帰属意識を持っている	0	1	2	3	4	5	6	7

2. 下の各文が自分について述べるときの表現です。ここ1年間のあなたをそれぞれの文がどのくらい言い表しているかを数字で答えてください。もしはつきりと分からない場合は、頭で考えるのではなく、気持ちを頼りに答えてください。

いくつかの質問は、あなたの両親や恋人との関係を尋ねます。もし両親がすでに他界してしまっている場合は、生きていた頃の両親との関係を基準にしてください。まだ現在恋人がいない場合は、過去の一番新しい関係を基準にしてください。各質問の1から6までの当てはまる数字に0をつけてください。

1. 私はどこにも属さない一匹狼である	1	2	3	4	5	6
2. 私は周囲から浮いてしまう	1	2	3	4	5	6
3. 私はいつもグループの外側にいると感じる	1	2	3	4	5	6
4. 私は他人から疎外されたり隔離されていると思う	1	2	3	4	5	6
5. 私は基本的には人と離れたい	1	2	3	4	5	6

3. 以下は、あなたがだんの生活のさまざまな場面で、どのように感じているのかについての質問です。もっともあてはまる選択肢を回答してください。

	ほとんどない	たまにある	よくある
1. あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか	1	2	3
2. あなたは、疎外されていると感じることがありますか	1	2	3
3. あなたは、他の人から孤立していると感じることがありますか	1	2	3

4. この1週間、次のことにどれくらい煩わされていますか。この1週間になくても、その様な機会があったとして、○をしてください。

	全くない	少し	かなり	極度に	
1. 目上の人を怖がっている	0	1	2	3	4
2. 人前になると赤くなるので困る	0	1	2	3	4
3. パーティーやみんなの集まりに行くときビクビクする	0	1	2	3	4
4. 知らない人と話すのを避けている	0	1	2	3	4
5. 注意されると非常にオドオドしてしまう	0	1	2	3	4
6. ハカにされるのではないかと人前で話したり、何かをするのを避ける	0	1	2	3	4
7. 人前で汗をかいてしまうのが苦痛だ	0	1	2	3	4
8. パーティーに行くのを避けている	0	1	2	3	4
9. 注目中ですしなければならぬような用事を選んでいる	0	1	2	3	4
10. 見ず知らずの人と話すときオドオドしてしまう	0	1	2	3	4
11. スピーチしなくてはならない様になるのを避けている	0	1	2	3	4
12. 非難されるのを避けるためなら、大抵のことはする	0	1	2	3	4
13. 人混みにいると、動悸に悩まされる	0	1	2	3	4
14. 人々が見守っているときに何かをするのは怖い	0	1	2	3	4
15. ハカにされること、愚かに見えることが最悪の恐怖だ	0	1	2	3	4
16. 目上の人には誰であれ、話すのを避けている	0	1	2	3	4
17. 人前で震えてしまうのが苦痛だ	0	1	2	3	4

5. 以下の質問について、過去2週間のあなたの生活をふりかえりながら、「あてはまらない：0」から「あてはまる：3」のうち、もっとも当てはまる数字1つを○(丸)で囲んでください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1. 生活の質は良いと思う	0	1	2	3
2. 絶望、不安、落ち込みといったいやな気分を感じる事が多い	0	1	2	3
3. 人間関係に満足している	0	1	2	3
4. 毎日の生活の中で楽しめる活動ができる	0	1	2	3
5. 健康状態に満足している	0	1	2	3
6. 自分自身に満足している	0	1	2	3
7. 自分の生活能力に満足している	0	1	2	3
8. 自分の仕事をする能力に満足している	0	1	2	3
9. 毎日楽しく過ごしている	0	1	2	3
10. 満足に生活するための活力がある	0	1	2	3
11. 失敗したときの対処能力に満足している	0	1	2	3
12. 嫌なことがあっても何とか満足な生活をおくることができる	0	1	2	3
13. 自分の社交性に満足している	0	1	2	3
14. 自分の体力に満足している	0	1	2	3
15. 地域社会との関係性に満足している	0	1	2	3
16. 社会とのつながりに満足している	0	1	2	3
17. 毎日の生活の中でリラックスする活動ができる	0	1	2	3
18. 家の外で安心して活動できる	0	1	2	3
19. 自分の生活を有意義なものと感じる	0	1	2	3
20. 家族の中での自分の役割に満足している	0	1	2	3

問い合わせ先

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 3-16-12-301
NPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会事務局
Tel 03-5944-5250 Fax 03-5944-5290
E-mail : info@khj-h.com

〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1 丁目 1 番地
宮崎大学教育学部 境 泉洋
TEL & FAX 0985-58-7458
E-mail : sakai.motohiro.n8@cc.miyazaki-u.ac.jp